21世紀教育実践のこころみ

言語攻略の国語表現教室

江端義夫　編

広島大学教育学部国語文化教育研究室

21 世紀教育実践のこころみ

言語攻略の国語表現教室

江端　義夫　編

広島大学教育学部国語文化教育研究室

はじめに

新しい時代が始まりました。その新しい時代に相応しい国語表現の力とは何でしょうか。従来の枠にとらわれないで、国際的な視野と人間の根本的な哲理とに立脚しつつ、国語表現教育のために、どのようなカリキュラムを立てることが望ましいかを追究してみましょう。15 回の授業という限られた「国語表現法研究」の演習の場で、教員の道を志す学生と一緒に、国語表現教育の理想を求める試みを行ったのが本冊です。

『言語攻略の国語表現教室』とは何でしょうか。子供たちがテレビゲームで、「攻略」ものを楽しんでいますね。あれと同じことです。言葉によって相手の人間を攻略すること、そのゲーム的な方略が「言語攻略」です。おもしろそうでしょう。知的であると同時に、きわめて人間的な営みです。言葉の戦略行動を私どもは「言語攻略」と定義してきております。すでに、『言語攻略の話し言葉教育』(200 年 3 月)・『言語攻略の音声表現教室』(2001 年 1 月)を刊行してきています。今回の本は、それらに続く三冊めの本です。

ところで、「攻略」という語に違和感をお持ちでしたら、次の説明をお聞きください。私どもの生活においては、日記以外の全ての言語行為が「言語攻略」なのです。恋文も相手をこちらに引きつけなければなりませんし、報告書も小論文もみな、相手を納得させなくてはなりません。そういう意味で、私どもが公表する言語作品は、相手を意識し説得しようとして試みる「言語攻略作品」と言ってよいのです。そのように認識した上で、よりよい言語生活のために、「言語攻略」の向上を教育的に思案することが必要になります。そこで今回、「国語表現」という新しい課題について、21 世紀の豊かな実践を眺望した授業を構想してみようということになりました。

本冊では、次のような新機軸を盛り込むことにしています。

1.「維束」という新語が見えます。これは、「単元」と「章」とを統合した用語です。私どもは教育項目群の有機的な集合体を一語で表す語句が無いのに飽き足りなくて、これを表す教育用語として「維束」という語を作ることになりました。理解しやすい教育用語だと思っています。広く普及し、一般化してくれればよいのですが、いかがでしょうか。

2.スピーチアクトという用語も、今回の演習の中で、初めて使用しました。定着してほしい用語です。これは、教授話法とでも言うべきものに近いものです。しかし、その行為そのものの動態性及び教育行為に参加する人々の言語生成過程が大切な点で、従来の教授話法とは全く異なります。これは、方法や原理ではなく、行為・行動そのものが一定の理をもっている事態なのです。

3.実用性の重視が特色です。作文が巧いというだけでは、正しく評価しないことにしています。その作文を音声に転換して、人に訴えかけたとき、どのように良い反応が得られるかまで見届けなくては、優れているとは評価しないことにしているのです。言語の生きた現場は、常に人間の介在するところです。そこに反映させることをねらいとしています。

4.広く一般の社会で役立つような、実用の言語表現力を身につけることをねらいとして、カリキュラム化が考えられているのが特色です。たとえば、「企画力の育成」とかが仕組まれています。マネージメントの力が国語力の基盤として求められるようにしたいのです。また、教育集団や社会集団を動かしていくリーダーの言語能力というものをも、育成しな

ければならないと思っているからです。

5.「インターネット」とか「OHP利用」とかを義務づけた授業になっています。これは、IT革命にも、少しく対応できています。授業にインターネットを活用することを、日常的な授業行為にしています。インターネットで取り込む豊富な資料を、どのように取捨選択するかという鑑識眼が、国語力の一つでもあるからです。結果は、プレゼンテーションさせて、口頭で発表させることを最終の段階にしています。決して作文を書かせてお終いというやり方にはさせません。最後は、音声に訴えなくてはいけないことにしています。

6．理知的かつ科学的で、理路整然とした表現力を身につけることを目指したので、従来の情緒的な心情表現中心の授業とは、異なっています。ノーベル賞をお受けになった白川博士の論文が引用されたりしています。事理を通して物事が述べられる国語力を目指していますので、国語という教科の境界を越え、いわば縄張りを踏み越えて、総合的な国語表現教室が形成されています。柔軟で理知的な態度の育成が大切だと考えているからです。

7．「無理のない説得力」を身につけさせることをねらいとしています。国語の先生に限らず、たいていの人は、相手とディベートをしたり、自分の意見を相手に理解してもらおうと一所懸命になって話したりはしません。みな「しつこい」とか、「理屈っぽい」とか言われて、嫌われることを知っているからです。しかし、いいかげんさを改めなくては論理的なものの考え方は育ちません。私どもは、真摯な努力を正しく評価したいと思っています。誤解されたままで、諦めてしまうことがないようにしたいのです。相手に正しく理解してもらうために、ねばり強く説得する習慣をつけさせたいと考えています。そのために、弁論やスピーチなどに慣れさせていくようにしたいものです。

繰り返しますが、日記以外の全ての表現が説得のための表現である、と自覚させて取り組ませています。これが大事です。諦めないで、誠意をもって相手を説得するということです。そういう言語行為が大切なことを教育したいと考えています。

以上のように、7つの新しい特色が見られます。これらのからみあったものとして、本冊の模擬実践が成立しています。ただし、これらの中には成功しているものもあれば、まだまだ未熟だなと思わされるものもあります。しかし、このような私どもの取り組みを参考にしていただき、全国各地で類似の実践が次々になされていけば、国語教育は変わっていくであろうと思います。これからは、鑑賞中心の受け身の授業から、生徒と先生とが切磋琢磨しなくては成り立たない共存共栄の授業に変わっていくでしょう。そのような「わいわいがやがやと賑やかな教室」こそが、評価の高い望ましい授業なのだという新現象の到来も間近いと思います。比喩的に言えば、「わいわいがやがや」の騒がしい教室の到来を楽しみに待っています、ということになるのでしょうか。

近年、私どもは、言語攻略の国語教室を唱えてきています。これは、真摯な相互理解を求める国語教育思想です。すなわち言語攻略には、その根底に人間信頼の精神が存在しています。またこれは、互いの人格を尊重する行為であり、納得のいくまで、語り合う教育行為として高次にとらえていくことが可能なものであると思われます。

『言語攻略の国語表現教室』という小舟が、春風を帆に受けて、大洋をまっしぐらに進んでいくような夢を見ましたが、あれは錯覚でしたか？　　（江端義夫）

―目次―

はじめに

第1維束　話し言葉シリーズ
第1節　“弁論(スピーチ)入門”
江端　義夫 ---------- 1
第2節　プロポーズ大作戦
江端　義夫 ---------- 2
第3節　心に訴える言葉の創作（私はコピーライター）
黒川理恵　中田恭世　藤井明子 ---------- 3

第2維束　マス(国民大衆)を味方に取り込む表現力とは？
第1節　「あなたがあなたであり、私が私であるための攻略」
岩川真弓　蜷川香奈子　八木高廣 ---------- 9

第3維束　論理的な表現力を身につけた人格の形成へ
第1節　立場を明確にして話す民主主義
大牟田歩　小林峰子　又吉里美 ---------- 27
第2節　事理を明確に言明できる人間とは？
園田純子　田中紗也香　富松久雄 ---------- 43

第4維束　企画遂行力をつけた自主性の育成へ
第1節　洞察力を背景にした緻密な構想家へ
赤松ゆみ子　小原陽子　古屋絵美 ---------- 57

第5維束　社会に通用する国語力の育成を
第1節　個人と社会とのバランス感覚の育成
片江あゆみ　工藤由美子　永田麻詠 ---------- 97
第2節　“説得の手紙を書く”そして“英文レター及びEメールの書き方”
岩本望　中請真弓　横田奈緒子 ---------- 117

第6維束　科学的な国語力の育成
第1節　「客観的な見方で綴る国語力」＝国語科の学生はなぜ小論文が下手なのか。
池田絢香　濱本陽子 ---------- 131
第2節　優れた科学的な論文を読んでみよう、そしてその方法を学ぼう。
大森寿恵　岡東裕子　西浦早紀 ---------- 147

第7維束　“教室スピーチアクト”という独自性の発見へ
第1節　「マスコミの話術に乾杯！」
有井真由美　川鍋元広　西山智子 ---------- 173
第2節　“教室スピーチアクト”の活性化へ
木下悠子　田村理恵 ---------- 199

第8維束　フィナーレ
第1節　「一人一芸フェスティバル」
柴田文寛　前田寛明 ---------- 213

おわりに

第１維束

話し言葉シリーズ

第１節　弁論（スピーチ）入門

第２節　プロポーズ大作戦

第３節　心に訴える言葉の創作（私はコピーライター）

第１維束　話し言葉シリーズ
　第１節　弁論(スピーチ)入門

Ⅰ.維束のねらい

古代ギリシャの政治では、弁論術が大切な能力とされた。ソクラテスの著書を読めば、堂々と論客と渡りあう知者の姿がうかがえる。生身の人間の声が、広場に集う大衆の耳に直接に訴えかけられる。一対一の対決が特別の緊張感を伴って伝わってくる。ちょうどスポーツの競技のような汗握る場面が、ここにもある。こういう人間の原初的な感動を実感しなくては、本当に心の通う対話は成立しにくいであろう。私どもは、言語攻略の国語表現教室の最初の授業で、弁論入門を企画することにしたのは、そのような意図があったからである。

Ⅱ.学習者観

高校生に、スピーチをさせたい。そのスピーチでは、身近な話題を取り上げさせて、自分の生きた声で相手に届けるという思いで行ってみる。一人一人の話題が必ず異なるので、仮に未熟な語りでも、聞いていて面白いものである。何と個性は偉大であることかと感動出来れば、成功である。

恥ずかしがったり、茶化したりせずに、人の話に耳を傾けることができるようになれば、自分もまとまった話しをしなくてはならないと自覚することになるであろう。

Ⅲ.維束観

・場面に応じて声の質を考え、人に届く声で、相手に声を届ける。
・人の話をしっかり聞く。論破するためには、しっかり受け止めなくてはならない。
・自己の経験から話題を取り出し、話をまとめ、めりはりをつけて話すことができる。
・良い弁論とはどういうものかが分かる。

Ⅳ.指導目標　　省略
Ⅴ.指導計画　　省略
Ⅵ.指導案　　省略

第２節　プロポーズ大作戦

Ⅰ.維束のねらい

一つ、自分を客観的に眺められなくては、人間の確立はむずかしい。自己の確立を目指して、プロポーズ大作戦という寸劇を演じさせる。

二つ、日本の古典文学や近代文学及び西洋の著名な文学の中から、恋の告白の場面を探し出し、どのような台詞でそれが表現されているかを調べさせる。その作業を、グループ毎に行い、台詞を書き出す。

三つ、発表の形式はコンクールとする。賞品を用意して、一等から三等までを決める。表彰式なども行って、イベントであることを際だたせる。楽しいイベントを企画させる。

四つに、小道具を用意する。花束である。これを使えば、派手に演じる時にも、違和感がなくなる。台詞だけに頼ると、演技がむずかしくなり、ぎこちないものになってしまう。それを防ぐために、簡単な小道具を使う工夫をする。

五つに、司会を立てて、生徒に進行させる。5 分くらいを目途にして、多くのグループが演じ合い、競い合わせる。

Ⅱ.学習者観

- 個人の殻に閉じこもらないようにさせる。シラケたり、利己的に振る舞うことのないようにさせる。
- まじめに取り組むようにさせる。複数で行う協同の行為に、積極的に参加する態度を育てる。
- グループごとに花束を受ける女子生徒と花束を捧げる男子生徒の役割を決める。プロポーズ大作戦の寸劇を成功させる。
- 真面目に諧謔やユーモアが演技できるようにさせる。

Ⅲ.維束観

- 人生はドラマだと言われる。その意味を自覚させる。
- 愛の告白場面をグループごとに演じさせる。プロポーズは、相手を「説得する」ための言語行為であることを、認識させる。
- 恋いの告白の場面では、美しい台詞で、しかも優れた演技に仕上げられているかどうかを評価する。

Ⅳ.指導目標　　省略
Ⅴ.指導計画　　省略
Ⅵ.指導案　　省略

国語表現法研究
《心に訴える言葉の創作》

黒川　理恵　　中田　恭世　　藤井　明子

1、維束の狙い・・・実用性だけでなく、ユーモアのセンスも兼ね備えた表現を考えることで、豊かな言語感覚を身に付ける。人を惹き付けるためには、どのような言葉を用いればよいのか、また、その効用について消費者の視点・製作者の視点から考える。キャッチフレーズの工夫について学んだことを生かし、文化祭での実際のチラシ製作で、見る人を意識した表現を考える。
班活動での話し合いや文化祭に向けてのチラシ製作、人の作品を評価・批評する活動を通して自分の意見を明確に伝える話し方を理解する。

2、学習者観・・・対象は高校二年生。文化祭において、自ら考えた企画を運営するために全員が意欲的に取り組もうとするムードである。たこ焼きを売るための効果的な宣伝を考え、それが客の心に訴えかけるものであれば必然的に売上が伸びる。成果が目に見えて感じられるため、積極的に参加するであろう。学習者はまた、普段言葉というものについてどのような言葉の使い方が見るものに大きな影響を及ぼすのか、特にチラシの言葉などについては深く考えることはない、今回の活動を通して、身の回りに溢れている様々な言葉について検証していくことは学習者にとって必要なことであると考える。

3、維束観

- 身近にある広告、キャッチコピーの購買意欲をかきたてる工夫について考える。
- 効果的なキャッチコピーの条件を学ぶ。
- キャッチコピーとレイアウト、イラストとのつながりを考える。
- 文化祭に向け実際にキャッチコピーを製作し、チラシ作りをする。

第一時分

本時の目標

本時では、様々な身の回りのチラシを注意深く観察することで、言葉をどのように用いれば効果的に人の心に訴える事ができるのかを、考える。

学習活動	指導の意図と手だて	評価
1、教師がキャッチフレーズを一部隠したチラシを示す。そこにどんな言葉が当てはまるのかを考え発表する。　（5分）	○部分的に空白にすることにより関心を持たせるとともに、クイズのようなかんじで穴埋めをさせる。文字数や商品との関係に目を向かせる事ができるようなヒントをだす。	たくさんのキャッチフレーズを考える事ができたか。
2、正解を示し、どういう点が工夫されているのかを考え発表する。（１０分）	○工夫されている点も考えることにより、より言葉の持つ効果について気づくことができる。	工夫について気づくことができたか。
3、教師がキャッチフレーズの全体を隠したチラシを示す。そこに自分ならどんなキャッチフレーズを入れたいかを考え発表する。　（5分）	○　学習活動２で考えた工夫されている点を考慮に入れつつ自分なりのキャッチフレーズをかんがえれば良い。	自分なりのキャッチフレーズを考えることができたか。
4、正解を示し、自分が考えたキャッチフレーズとどの点で異なるのかを考え発表する。	○　正解と自分が考えたキャッチフレーズとが、どんな点で異なるのか、それはなぜか（例　対象年齢・文字数・文字の使い分けなど）について気づかせたい。	相違点についてその理由について考えることができたか。
5、売り出し広告をグループごとに配り、その中にどのような工夫がされているのか話し合い班ごとに発表する。（１０分）	○　教材を売り出し広告にかえることで、言葉だけでなくレイアウトの重要性に気づかせたい。また、グループにすることでよりたくさんの意見が出されるであろう。	売り出し広告の工夫についてレイアウトの面から考える事ができたか。

6、キャッチフレーズやレイアウトの消費者に与える影響についてまとめる。（１５分）	○広告やチラシには様々な工夫がなされており、その工夫が消費者をどのような気持ちにさせるのか、身近な広告やチラシにも購買意欲をかきたてる工夫があることを導きたい。	キャッチフレーズやレイアウトの消費者への影響にいついてまとめる事ができたか。
7、次回には自分が心惹かれる広告を持参することを伝える。（5分）	○次回につなげる。	

第二次１時

本時の目標･･･魅力ある表現のコツを理解する。相手を意識した表現を考える。

学習活動	指導の意図と手立て	評価
キャッチコピーをグループのメンバー同士で見せ合う。互いに相手の用意したもののよい点、悪い点を指摘しあう。(5分) グループの代表者が発表する。(3分×6班)	前時の課題として、キャッチコピーを収集しておくよう指示する。その中から、特に面白い、工夫されているものを選ばせ、グループごとに発表させる。そのキャッチコピーのどのような点がよいと考えるのかを述べさせるようにする。	聞き手に分かりやすい、簡潔な表現で説明できているか。
自分の収集したキャッチコピー、授業で学んだ表現などを通して、どのような表現が人を惹きつけるのか考える。(15分)	まとめとして、効果的なキャッチコピーの条件を各人に考えさせる。レイアウトやデザインにも着眼し、見る人にどのような印象を与えるかを考えさせる。効果的なキャッチコピーの条件としては、 ・話し言葉の使用（語りかけ、方言などで親近感を与える。） ・逆説的な表現 ・漢字、片仮名、平仮名の使い分け ・言葉のリズム ・短いもので端的に示すことで、何だろうと思わせる。 ・シャレ ・見る人の年代や性別、職業、消費者のニーズ、心理などを把握し、それに合ったもの。 ・字体、大きさ、太さが適切であること。 などが挙げられる。 文化祭でたこ焼きを作る機会にこれまでの学習で学んだことを活かして、キャッチコピーを作り、活動していくことを提案する。	どのキャッチコピーにどのような工夫がされているか具体的に理解できているか。
活動の責任者の選出をする。(10分)	活動の責任者を選出させる。	

第二次第２時

本時の目標･･･前時までの学習内容を理解した上で、人の話を聞き、話し合って店名、キャッチコピーを考える事ができる。

	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0 ～	・司会者は司会する。 ・班でたこ焼屋の名前を考える。	・話し合いに入る前に、効果的なコピーについて、数点確認しておく。 ・机間巡視で助言し、各班のアイデアを把握しておく。	・前時までに学んだ事を生かし、効果的な店名を考え出すことができる。 ・うまく自分の意見を言い、班で話し合って店名を決める事ができる。
10 ～	・各班、考えた店名を発表する。		
15 ～	・候補作それぞれの魅力・効果・改善点などを話し合い、決定する事ができる。	・発言が少ない場合は、適宜助言する。 ・机間巡視で助言し、各班のアイデアを把握しておく。	・より良い店名を考える事ができる。
25 ～	・班で店のキャッチコピーを考える。	・ 発言が少ない場合は適宜助言する。	・班でアイデアを出し合って、効果的なキャッチコピーを考える事ができる。
35 ～	・各班、考えたキャッチコピーを発表する。		
40 ～	・候補作それぞれの魅力・効果・改善点などを話し合い、決定する。		・より良いキャッチコピーを考える事ができる。

第二次第３時

本時の目標・・・班でアイデアを出し合い、協力して作業する事ができる。

	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0 ～ 40 ～	・班でチラシを作る。 ・文字の大きさ、形、イラスト、色彩、レイアウトなどの留意点を確認する。 ・出来上がったチラシを印刷する。	・ キャッチコピーは必ず入れるよう指示。 ・ 机間巡視。	・班で協力してチラシを作る事ができる。 ・見た人が買いたい、食べたいと思うデザインを考えて作る事ができる。 ・協力して作業する事ができる。

反省と展望

今回の指導案は、言葉の創作ということを主眼におき、文化祭でのチラシ製作を試みました。チラシ中のキャッチコピーの効果をまず学習してから、実際の商品につけるキャッチコピーを考えたのですが、たこ焼き屋の名前を各班で考える際にもう少し、たこ焼きの特徴について客観的に分析するという、対象であるたこ焼きを知るという活動なり、教師側の助言なりが必要であったと思います。

また、チラシに絵をつける過程においては、手書きのものだけを想定していましたが、現在進められているIT化は教育の現場でも果たされるべきことであり、それは国語の授業においてもいえることです。今回のチラシ製作においてパソコンを用いて手書きにはないパソコンの持ち味を学習者に体感させれたらと思い、第２次第三時のチラシ絵製作には、パソコンを用いれば良かったと考えます。

そして、作ったキャッチコピーについて、その中でどのキャッチコピーを実際に用いるのかということを決める際に、班ごとに作ったチラシをコンクールの形式で展示し、クラス全体でどの作品が良いのかを決定するという流れもあったのではないかと考えます。

今回は第一回めであり、またテーマが広範囲に解釈できるものであったため、指導案作りには苦労をしましたが、考えが及ばない点が多々あり、今後の課題としたいです。

第２維束

マス（国民大衆）を味方に取り込む表現力とは？

第１節　「あなたがあなたであり、私が私であるための攻略」

第二維束　マス（国民大衆）を味方に取り込む表現力とは？

第一節　「あなたがあなたであり、私が私であるための攻略」

岩川真弓　　蜷川香奈子　　八木高廣

I　維束のねらい

自分の意見を述べるにあたり、論理的思考に基づいて筋道立てて話ができるようにする。同時に他者の意見が論理的であるかどうか見極められるようにする。
また、他者の意見を知り、自分とは異なる考え方や自分の知らなかったことを得て、自分の思考の幅を広げるきっかけとする。
マス(国民大衆)を味方に取り込む表現力を身につけられるようにする。

II　学習者観

対象は高校二年生。

携帯電話やPHSの普及により、友人同士の会話もメールなどで済ましてしまう場合が多く、あまり話すことがない。また、友人同士で話すとしても、自分の思いをただ相手に向かって言うだけであり、自分の意見を論理的に述べるという場はほとんどないといっていい。そのため、人前に出て、自分の意見を言うことは苦手であると考えられる。
更に、自分と同じような考え方をする者(友人)との付き合いがほとんどで、自分とは異なる考え方をする者(親、教師、友人以外のクラスメートなど)の話に耳を傾けない傾向にある。

III　維束観

- 自分の意見を持ち、資料などをうまく活用しながら、他者にわかりやすく筋道立てて話すことができる。
- 他者の意見を知り、自分の思考の幅を広げることができる。
- 他者の意見を聞き自分の意見と比較しながら、冷静に受け止め対応することができる。
- マス(国民大衆)を味方に取り込む表現力を身につけることができる。

〈指導目標〉

- あるまとまったテーマについて、自分の意見を述べることができる。
- 「意見文」の性格を理解し、きちんと論理的で冷静に筋道立てて話ができるようにする。
- マス（国民大衆）を見方に取り込む表現力を身につける。

〈指導計画〉

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
1	1	○ 意見を述べたい題材を自主的に決めることができる。 ○ 適切な情報を集めることができる。	○ 与えられた共通テーマ（学校について）の中から、自分が意見を述べたい題材を見つける。 ○ テーマを決めた者から、現状を知るための資料集めに取り掛かる。	○ 「何のために学校に行くのか」、「勉強は大事か」、「いじめについて」、「校則について」など、題材の例を示す。 ○ アンケートという手立てにも気付かせる。
2	1	○ 冷静かつ論理的に論を運ぶ手立てを身に付ける。	○ 集めた資料を活用しながら、ワークプリント①に沿って自分の考えを深めていく。	○ 予想した反論に冷静に対処した上で論を展開すれば必然的に論理的な文章になることに気付かせる。
	2	○ 相手をひきつける表現力を身につける。	○ 構成を考える。（ワークプリント②を使用） ○ 論の流れやポイントをメモにまとめ、発表の準備をする。	○ まずは、ワークプリント②に従って構成させる。その後、余裕があれば様々な論の展開を考えさせ、どれが最も効果的かを比較検討させる。

3	1	○ 実践の場で自分の意見を述べることができる。	○ 班内で順番に発表し、評価をし合う。	○ 評価シートに沿ってお互いを評価させる。 ○ 具体的な改善案を出させ、次につながるようにする。 ○ 教師は、各班を回りながら指導する。 ・ 発表する態度 ・ 発表を聞く態度 ・ 評価シートにしっかり記入できているか。
	2	○ 評価をもとに自分で論を改善することができる。	○ 評価や改善案をもとに論を組み立て直す。(ワークプリント②を使用) ○ 班の代表者を決める。	○ 教師は机間指導をする。 ・ 適切に改善できているか。 ・ どう改善すればよいか。
	3	○ 大衆の前でふさわしい態度で意見を述べることができる。 ○ 人を評価することで、自分自身の力も伸ばすことができる。	○ 班の代表者が順番に発表する。 ○ 全員が、評価シート、ワークプリントを提出する。	○ 評価シートに沿って評価させる。 ○ 教師は、発表後その場ですぐに適切な助言を加える。

☆ 後日、評価シートはその対象者にまとめて渡し、ワークプリントは教師の評価や助言をそえて本人に返す。

☆ 後日、今回の学習をもとにさらに考えを深めさせ、意見文を書くという活動に発展させることもできる。

〈指導案〉

第１次第１時

本時の目標

・ 論理的に筋道立てて話す方法を知ることができる。
・ 意見を述べたい題材を自主的に決め、適切な情報を集めることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0		・「学校」という共通テーマのもとに、各自５分間で自分の意見を述べることを伝える。	
	・論理的に筋道立てて話す方法を知る。	・プリント《論理的に話すためには》により、論理的な話し方について指導する。	・論理的な話し方について理解できる。
5	・意見を述べたい題材を見つける。	・用意しておいた題材の例をいくつか示す。できれば、その学校が直面している問題について触れるものが良い。	・意見を述べたい題材を自主的に決めることができる。
	・テーマを決めた者から、現状を知るための資料集めに取り掛かる。	・図書館の本やインターネット、アンケートなどの手立てに気付かせる。 ・期間指導により、適切に情報収集ができているか、一人一人の生徒に目を配る。	・適切な情報を集めることができる。
		・次の時間までに情報を集めておくように促す。 ・情報収集の重要さに気付かせる。	・情報収集の重要さに気付く。
５０			

第２次１時

本時の目標
・冷静かつ論理的に論を運ぶ方法を身につける。

	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0 ～ 50	・集めた資料を活用しながら、ワークプリント①に沿って自分の考えを深めていく。	・机間指導をして、絶えず生徒の進行状況に気を配り、感情を表に出さないような論にするなど適宜アドバイスをする。	・反論意見を予想することによって、より論理的な文章になることがわかる。

第２次２時

本時の目標
・相手を引きつける表現力を身につける。
・論の展開に気を配ることができる。

	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0 ～ 50	・出だしや論の組み立て方をワークプリント②に　沿って考える。 ・発表の準備をする。	・机間指導をして、絶えず生徒の進行状況に気を配り、適宜アドバイスをする。 ・次の時間は、班内での発表を行うことを告げ、準備が終っていないものは宿題にすることを告げる。	・様々な論の展開を考えさせ、最も効果的なものを選ぶことができる。

第３次第１時

本時の目標

・ 実践の場で自分の意見を述べることができる。
・ 相互評価の力を身につける。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・ 前時にまとめたメモを元にして、班内で５分ずつ順番に発表する。 １人発表５分×６ ・ 評価シートに沿ってお互いの発表をチェックし評価する。 評価３～４分×６	・ 発表しやすいように班机にしておく。 ・ 評価シートを配布する。 ・ 評価シートは評価しやすく、またそれを元にして改善しやすいものとする。 ・ それぞれの班の様子を知るために、机間指導をする。 ・ 班内での活動のため、騒がしくならないように注意する。 ・ 教師側で時間をはかり、発表と評価の時間を知らせる。	・ 班内でちゃんと発表できる。 ・ 人の主張を聞き、適切に評価できる。
50		・次時の予告をする。	

第３次第２時

本時の目標

- 評価に基づき自分の論を自分で改善できる。
- 評価に基づき、適切に代表者を選ぶことができる。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・前時の評価シートに基づき班の代表者を選ぶ。	・評価シートに基づいて、論の展開がはっきりしており、効果的であるものを選ばせる。	・評価シートに基づいて班の代表者を決めることができる。
5	・評価シートをそれぞれ相手に渡し、交換する。 ・評価に基づき、自分の論を改善する。	・評価シートの指摘を元に自分の論を改善させる。 ・ワークプリント②を使って、論を再び練り直させる。 ・評価シートを元に自分の論を改善できているかどうか机間指導をする。	・評価に基づき、自分の論を改善することができる。
45	・班の代表者が班内でもう一度発表する。班員は最終チェックをする。	・論の展開がしっかりとしているか、声の大きさは適当かなどをチェックさせる。 ・評価シートではなく、口頭により気付いたところを指摘させる。 ・次時の予告	

第３次第３時

本時の目標

- 大衆の前でふさわしい態度で意見を述べることができる。
- 他者の主張を真剣に聞き、評価することができる。
- 他者を評価することで、自分自身の力を伸ばすことができる。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・前時に決めた班の代表が一人ずつ前に出て発表する。 一人５分×７ ・他の生徒は評価シートに沿って発表を聞いて評価する。 一人につき２～３分	・メモをあまり見過ぎないようにさせる。 ・司会は教師がする。 ・一人の主張が終わったら一言教師からコメントする。 ・評価シートは記名にし、責任をもって評価させる。	・論理的に主張できる。 ・声の大きさなどふさわしい態度で発表できる。 ・他者の主張を真剣に聞くことができる。また評価できる。
50	・評価シートを集める。	・今までの授業で使ったワークプリント①②を回収する。（後日教師の評価やコメントを沿えて本人に返却する。） ・評価シートを集めて、次回発表者に配布する。	

※第１次第１次用プリント

≪論理的に話すためには≫

マス（国民大衆）を味方に取り込むためには、論理的な意見を述べる必要があります。
感覚で話すのではなく、論理的に話せるようになりましょう。

１、 相手を説得するように、根拠をそえて。

２、 感情的にならず、冷静に。

３、 筋道を立てて。（しっかりした構成）

４、 相手の反論（様々な見方）を予想しながら、相手の意見が間違っているところを具体的に説明する。

具体的に誰か知り合いの顔を思い浮かべてみよう。
その人は何と反論してくるだろう。
納得させるためには、どう言えばいいだろう。

ワークプリント①　　名前（　　）

題

１、現状はどのようであるか。（資料などを元に）

２、その問題点はどこにあるのか。

３、問題をふまえて自分の主張

４、反対（他の）案、主張だとどういう問題が生じるか。

５、４をふまえて、自分の主張が正しいことを証明する。

※第２次第２時、第３次第２時用ワークプリント

ワークプリント②　　《構成を考えよう》

名前（　　）

○構成の基本パターンにあてはめてみよう。

ワークプリントをもとに、論のつながりを意識しながら要旨を簡単に書き込もう。

第一部　現状への問題提起　(ワークシートの１．２をもとに)

第二部　意見提示　(ワークシートの３をもとに)

第三部　展開〔予想される反論に対する対処〕　(ワークシートの４をもとに)

第四部　結論　(ワークシートの５をもとに)

★上の４つを並び替えて、他の構成も考えてみよう。もっと効果的な構成はないかな。

例えば、まず自分の意見を述べ、その裏づけとして後から資料を出すなど。

評価シート

名前（　　）
（　　）君／さん　へ

1．発表者のどの言葉や表現に引きつけられたか。
　どういうところがうまいと思ったか。

2．ここを改善したらもっとよくなると思うところを書こう。

3、発表の仕方はどうだっただろうか。（声の大きさ、しゃべり方、目線など）

4、発表者の主張に納得できるか。できないか。（根拠を添えて）

5、以下の項目について評価しよう。（A,よくできていた。B,まあまあ。C,改善の必要あり）

時間が守られているか。　（　）

構成がしっかりしているか。　（　）

説明に不足はないか。　（　）

論点が絞られているか。　（　）

スムーズに話ができたか。　（　）

資料を効果的に使えていたか。　（　）

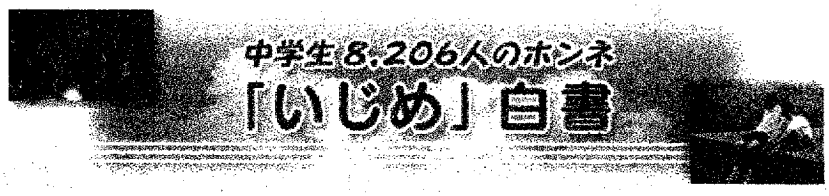
総合（　）

《反省と展望》

問題点として、教師が全ての学習者の発表を聞くことができず、そのため指導に偏りが生じてしまうことが挙げられる。時間の都合や発表が単調になる恐れから、まずそれぞれの班で発表させ、その代表者に全体での発表の場を与えるという方法をとったが、もちろんこれでは発表を教師に全く聞いてもらえない学習者が存在し、直接的な指導がなされていないことになる。その穴を埋めるために、ワークプリントによって一人一人の学習者が構成までの段階をしっかりおさえることができ、また学習者同士で適切な観点のもとに相互評価ができるように留意した。しかし、班の代表者に選ばれなかった学習者にこそきめ細かな直接指導が必要であり、この問題については更なる解決策を模索する必要があるだろう。

各班にテープレコーダーを用意して班での発表を録音しておき、後日教師がそれを聞いて個別に指導するという方法も考えたが、これでは教師の負担が大きく、それなりの力量も必要とされる。ワークプリントをもとに意見文を書かせて全員に提出させることもできるが、話し言葉学習の指導にはならない。今後、課題として取り組んでいきたい。

スピーチやディベート、パネルディスカッション等の話言葉学習は、教師にかなりの指導力が必要とされ、わかっていても指導できない人が多い。しかし、国語表現が重要視され、また社会での実践力が求められている現在、それを指導できる人材こそが必要とされているのではないか。21 世紀の国語表現を担っていく者として、前向きに取り組んでいきたい。



日本全国の「いじめ」による悲劇を少しでもなくすために、株式会社学習研究社 では中学コース編集部を中心として、1996年の4月から「いじめ追放キャン ペーン」を始めました。このアンケートは、「いじめ」をなくすための手がかりを探っていく目的で、「いじめ」の渦中にある中学生のホンネを寄せてもらったものです。最終的に1万人以上の中学生の声がよせられました。膨大な手紙やアンケートの一部ですが、公開させていただきます。あなたは、どうお考えになりますか？
（なお、ここで紹介する中学生の声は、プライバシー保護のため、すべて仮名・ペン ネームでの紹介になっています。また、各学年独自にとったデータですので、質問方 法が統一されていませんが、ご了承ください。）

いじめる側

● なぜ、いじめるの？

- 自分が昔は被害者だった
- 相手が悪いと思う
- いじめは面白いゲーム
- ストレスを発散するため
- いじめられてもしかたがない子がいると思う
- きらいな人ならいじめてもいいと思う
- ムカついたら仕返しをするのは当然

● いじめている時の気分は？

- 罪悪感なんてない
- 楽しくてやめられない

見ている側

◎ なぜ、助けないのか？

- 自分がターゲットになるのがこわい
- 嫌われもの味方と思われたくない

◎ いじめられる側をどう思う？

- あまり関わり合いになりたくない

◎ いじめを見たときどうしましたか？

- 「見ているだけ」、「知らん顔」

◎ いじめはなくなると思う？

- いじめはなくならないと思う

いじめられる側

いじめる側

なぜ、いじめるの？

◆理由(1)：中学生はいじめが悪いとは思っていない。

自分が昔は被害者だった

- 私の場合は、昔はそいつにいじめられて被害者だった。当時はすごいストレスがたまって最悪だった。そいつをいじめたり、無視した時は「私もいじめられて、くやしかったんだ。思い知ったか！」という気持ちでいっぱいだった。こういうふうに自分もいじめをやっていたような人はいじめられてもしかたないんじゃない。
（島根／中2／りんごちゃん）

相手が悪いと思う

- 「いじめ」をやるのは、ちゃんと理由がある。相手がわがままだったり、ぶりっ子してたりすると、すごくムカついていじめてしまう。でもこういうのって、こっちだけ悪いんじゃなくて、向こうの性格にも問題があると思う。（福井県／中2／ケンケン）

- 私のクラスでいじめられている人はすごくフケツでヘンなにおいがする。それに、何か言われてもウジウジしてて、ハッキリしなくてイラつく。だから自分がストレスたまっている時とか、当たっちゃう感じでいじめることも…。でも、相手も不潔にしていたり、ハッキリしないから悪いんじゃないかな。いじめている人だけ、悪者にしないでほしい。　（北海道／中2／1・N）

- 「悪いところがあるなら、いじめたりしないで、その人に直接言えばいいのに」なんていう人がいるけど、注意しただけでその人のイヤな性格が直るなら、人生楽だよね。いじめられている人って、たとえ悪いところを指摘されても、全然直らないし、直そうとさえしない人が多いってこと、わかってないよ。だから、私たちのは「いじめ」っていうより、その人の日ごろの行いに対する「復讐」とか「制裁」だと思ってる。それでその人の性格が良くなるなら、ちょっとぐらいいじめても、本人のためにもいいんじゃない。（東京／中2／大吉）

いじめは面白いゲーム

- 小学校時代、クラス全員で〇〇くんをいじめていました。みんなで「変態」と呼んだり「汚い」といって避け、もし〇〇くんとぶつかったら、触れたところをふり

払うというような動作もしました。どうしてそんなことになったのか、今でも原因はハッキリ思い出せません。多分、クラスのリーダーが「あいつ、ムカつく」と言ったのが始まりだったと思います。というのも私たちは「いじめ」ではなく、遊びとゲームに参加する感覚だったからです。特に〇〇くんを嫌っていたワケではなかった。いつでもどこでもクラス全員で楽しめる遊び、あまり話す機会のない人たちとも盛り上がれるゲーム……。〇〇くんの気持ちなんか、考えたこともありませんでした。自分たちのしていることが「いじめ」だとわかったのは、卒業してからです。卒業文集で、〇〇くんがそれまでのつらい日々を切々と訴えているのを読んで申し訳ない思いでいっぱいになりました。（埼玉／中2／E・M）

- 性格が悪い子の机に「バカ」とか「アホ」なんて書いたシールをはったり、無視をしたり、悪口いったり、机けったり、仲間はずれにしたり、あげたら、きりがないほどやってる。いじめはおもしろい。（兵庫／中3／女子）

- 気が小さいヤツにマジな顔でどなると、ビクビクして「ごめんなさい」とかゆー態度がおもしろい。何でもいうことをきくしぃ。　（広島／中1／ポンタ）

ストレスを発散するため

- ときどき、ストレスを発散させるために、何かすべきだと思う。人に当たって、いじめたりすると、どういうわけか自分のイライラが解消される。不思議だ。（東京／中3／I子）

◆理由（2）：中学生はいじめられてもしかたのない子がいると思っている。

いじめられてもしかたない子がいると思う（中1）

＜データ：中学一年コース6月号より＞

■いじめられても仕方のない子っていると思う？
＜回答数424人＞

いると思う　87．0%
いない　10．0%
わからない　3．0%

■どんなコはいじめられてもしかたないって思うの？

- 人が話しているときにいつも割り込んできて、チョ～ムカつく。話す態度も「カッコつけ」なんだもん。　（秋田／中1／大沢小鉄）

- 体操着とか洗ってないみたいで、いつもプーンとにおってくる。肩もフケだらけ。さりげに注意してもわかんないヤツはムシ。　（大分／中1／みなみ）

- 人より目立つコってなんかイヤ。ナマイキで気にくわない。　（和歌山／中1／ぴょん）

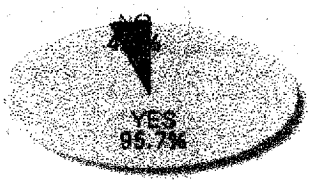
- 明るいフツーのコでも、調子にのって仕切ろうとするのを見ると、なんかムカついて。理由はわりと単純よ。　（埼玉／中1／MS＆YK）
- 性格にウラオモテがあって、ふだんはおとなしくしてるけど、親しいコの前では別人になっちゃって、わがままし放題。その態度にムカついて、みんなで口をきいてあげなかったことがある。　（長崎／中1／弘樹命）
- ウジウジしてはっきりしないコだったから、こっちもイライラして態度がキツくなっちゃった。しかたないよね。　（東京／中1／あきこブー）

きらいな人ならいじめてもいいと思う（中2）

＜データ：中学二年コース9月号より＞

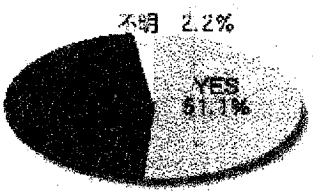
■今、クラスに
きらいな人はいますか。

YES　95．7%
NO　　4．3%



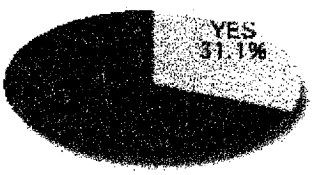
■きらいな人に「きらっていること」を
意思表示したことがありますか。

YES　51．1%
NO　46．7%
不明　2．2%



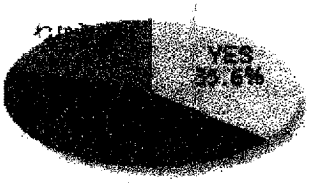
■そのきらいな人は
現在いじめを受けていますか。

YES　31．1%
NO　68．9%



■自分の「きらいな人」なら
「いじめてもいい」と思いますか。

YES　　35．6%
NO　　42．2%
わからない　22．2%

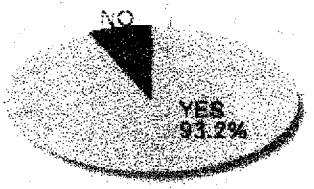


ムカついたら仕返しをするのは当然（中3）

＜データ：中学三年コース7月号より＞

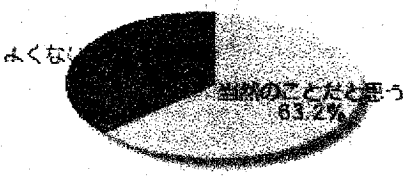
■クラスの友だちに
“ムカついた”ことがありますか

YES 93. 2%
NO 6. 8%



■ムカついた相手に
仕返しをすることは？

当然のことだと思う 63. 2%
よくないことだと思う 36. 8%



■どんな人にムカついたの？

- 修学旅行の班決めのとき、「絶対に3人でいっしょになろうね」と約束したのに、ひとりだけ裏切った。「ねぇ、約束は？」とその友だちに聞くと「あーそんな約束したね」……ピキッ！私ともうひとりの友だちで裏切った彼女を、ほぼ完全無視。今も続いている。（佐賀／中3／ワッハ大王）

- いっしょに学校に行ってんやけど、平気で20分待たせて遅刻はさせるし、本とかビデオ貸したら1か月も返ってこんし、お金も返そうとせーへん。同級生10人ぐらいで半年間、ぼろくそに文句ゆーたりイタ電かけまくった。（大阪／中3／V6森田Love）

- だれでもひとつくらいは、他人に触れられたくないことがあるはず。それを考えずに、わたしのことを周りの人たちに、しつこく聞き出そうとする無神経なヤツ。二度とそんなことしないように、クラス全員で1週間集団無視。（栃木／中3／つよしくんの妹）

第３維束

論理的な表現力を身につけた人格の形成へ

第１節　立場を明確にして話す民主主義

第２節　事理を明確に言明できる人間とは？

第一維　立場を明確にして話す民主主義

大牟田歩　小林峰子　又吉里美

1、維束のねらい

学習者が自ら置かれている自由に意見し、主張できるという立場に気づき、積極的に主張する態度を身に付けさせる。近くは友人、親から、広くは他国の人々と理解しあうために論理的思考が必要であることを認識させる。

以上のことを踏まえ、ディベートを通して人を説得することができるような論理的な思考展開や話し方を体得していく。特に政策ディベートということで未来に対してよりよい社会にするにはどのようなことを導入し、実行していくことが望ましいかを資料などを適切に用いながら説得していく。その際に収集した資料が確かな根拠となり、聴衆を納得させるために重要な役割を果たすことに気づかせる。

また、自分の立場を明確にして主張し、いかに聴衆者を説得していくかという民主主義社会の中での説得の論理を理解し、身につけていく。

自分の考えにとらわれて感情的にならないようにディベートを審査することによって客観的に他人の意見を捉え、判断することを学ばせる。

2、学習者観

対象学年：高校１年生　（2学期）

中学から高校に上がり，大人に近づくという意識の中でその言語環境にも変化が訪れる。その時期にあって、自分の思い、考え、意見などをやみくもに言ったのではなかなか納得してもらえず、歯がゆい思いをする学習者も多いだろう。このような学習者にとって人を説得するにはどのような論理展開、論構成、話し方が望ましいのか、自らが体験することで効果的な説得技術を身につけていく必要性がある。

また、私たちは言論の自由を持ち、他人を侵害しない限り、自分の思想や信条を否定されることはない。しかし、日常で自分の考えを主張したり論理的に話す機会は少ない。高校生になり、義務教育の段階を超えたとはいえ、社会には疎く、自分に都合の良い権利を主張するばかりで何かに関して深く考え、意見を述べることは少ないであろう。そのため、ここでは政策ディベートという形で社会に関する問題などを学習者に提示し、考えさせる。また、それに加え、立場を教師が任意に決めることによってテーマの答えを突き詰めることを目的としない論理的に考えを述べ合う力をつけさせたい。

3、維束観

(A)　導入としてまず簡単な題材（学習者たちの望みなど）について人を説得してみる。説得するということはどういうことなのか説得する側、される側の両方の立場から考え、説得の技術、論理を学ぶ。

(B)　三・三ディベートによりディベートの形式、進行の仕方について学ぶ。賛成、反対、審判の三役すべてを体験することでどちら側に立っても論が成立しうるということを確認し、ディベートの理論を体得する。

(C)　実際にディベートを行う。特に政策ディベートを行う。立論し、根拠を立て、また、相手の立場に対する問題点の指摘や資料などをもとに自分の立場を説得させる技術を主体的に学んでいく。また、そのディベートの模様をビデオに録画し、後日振り返り、反省点、改善点などを客観的に捉え、よりよい説得技術を考えることができる。

指導目標

・ディベートの意義を知り、意欲的に取り組むことができる。
・政策ディベートを行うことによって、これからの社会について考える広い展望を持った人格を形成する。
・論理的に考え発言し、観衆を納得させる力をつける。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
1	1	○論理的主張への意欲を喚起する。	○論理的主張の必要性について想起する。	○民主主義、外国の人と論じ合う時などを考えさせる。
		○論理的且つ効果的な話し方を導き出し、実践することができる。	○教師を親と見立てて説得する。 よかった点改善点など挙げながら論理的効果的な話し方を導き出す。	○例を挙げつつも、テーマを生徒間から挙げさせ、説得内容を考えやすくする。 重要な点は板書し、捉えやすくする。
		○多角的な立場にたって論理的に考え、話すことができる。	○親に主張したいことを、親の立場にたって考え、自分の考えとは逆の主張を組み立てる。	○具体的な立場を例として提示し、逆の立場にも立ちやすくする。 ワークシート(P.36)を用い、論理的組み立てをしやすくする。
	2	○ディベートの形式・構成・理論を実際に体験することでディベートについて理解する。 ○効果的な話し方を体得する。	○三・三ディベートについて理解し、実践する。	○肯定側・否定側それぞれの立場で質疑の応答反駁ができているか留意する ○自分自身の問題点を改善し、人の良い点を学習し、習得するよう促す。
			○ディベートについて理解する。	○プリント(P.41)などを用いて、形式・論理構成・話し方を指導する。

2	3 4	○自分の立場を明確にし、その立場から自分の論に有効かつ根拠のある資料を収集し、それらを構成することができる。	○自分のグループの立場を把握し、どう立論していくか考える。（P.37） ○学校図書、コンピュータ等を用いて資料収集する。	○くじでテーマ・立場をきめ、グループを構成させる。 ○前回のプリントを参考にするよう促す。 ○活用できそうなホームページ、検索エンジンなど提示する。 パソコンの使い方など、適時指導する。
	5 6	○実践を通して、ディベートの形式を理解し、実際に行うことができる。 ○説得するための論の進め方・構成・話し方等の技術を身に付ける。 ○相手の意見をきちんと理解できる。 ○討論を客観的に捉え、判定することができる。	○班ごとに三つのテーマでディベートを行う。（P.38） ○聴衆者側の時には、ディベートがきちんと行われているか評価シートに判断する。（P.39）	○いくつか高校生に身近な題材を挙げる。政策ディベートであることをその趣旨とともに明確に伝える。 ○教師が司会者となり、ディベートが導き過ぎない範囲でスムーズにいくよう留意する。 ○次時に反省が行えるようビデオカメラを用意する。
	7	○前時のディベートを振り返ることでより高度な説得の技術を身に付けることができる。 ○客観的、論理的に状況を把握し、その問題点・改善点を捉え、それらについて考えることができる。	○ビデオにとったディベートの模様や、第三者側の審判側の意見などを参考にし、ワークシート(P.40)に勝敗の理由・良かった点・悪かった点などを記入し、明確にする。 ○ディベートに対する感想を書く。	○学習者側からでなかったことで教師が気付いたことなどを言う事により、より多くの視点から考えるように助言する。 ○日常生活につながるように積極的、主体的な姿勢を築くよう指導する。

《指導案》第一次第一時

本時の目標

●論理的な話し方を導きだし、実践することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・自分の考えを他人に主張できる自由、権利を知る。	○民主主義について考えさせる。 主張できる立場にいながら、何らその権利を活用していないことに気づかせる。 また、他国の人と話す場合、文化の違いなどから暗黙の了解というものは通じないことが多く、感情だけでは通じないこともある。 このことから論理的主張の重要性に気づかせる。	○論理的主張の重要性に気づき、意欲的に授業に取り組む姿勢が見られる。
2	・それぞれテーマを考え出す。	○何か親に言いたいことはないか、例をあげながら発表させる。 (例)おこずかいを上げてほしい。 バイトをさせてほしい。 自分だけの部屋がほしい。	○主張したいことを内省し、考えることができる。
7	・しぼられたテーマの中からひとつ選び、考える。	○いくつかにしぼり、その中からテーマを決め、考えさせる。 ＊各列で一人は発表してもらう等と言い、考えるよう促す。	○発表を前提として、考えることができる。
8	・自分が考えたものを発表する。 聞く側は、留意点を踏まえながら発表を聞く。	○列ごとに一人発表させる。 制限時間を提示する。(一分) 教師を親だと思って話し言葉で発表するよう指示する。 聞く側は、 何が根拠になっているか どういう理由を挙げているか をメモをしながら聞くよう指示する。	○考えたことを指示に従って発表することができる。 留意点に従い、聞くことができる。

		＊まずはノリの良い生徒に発表させる。 ＊親になりきって相槌などうちながら聞く。	
	・発表者は感想を述べる。聞く側はメモをもとに発表する。	○発表ごとに軽く評価する。発表者に感想を述べさせる。 また、テーマ別に ・納得すると思うか。 ・どのような言葉が必要か。 ・どのような話し方が効果的か。 をメモをもとに挙げさせ、板書する。	○説得するに、効果的な話し方を考え出すことができる。
25	・説得に必要な要素を把握し、それをふまえた効果的な話を組み立て発表する。	○以上のことをしっかり捉えさせ、2、3人にそれを踏まえた発表をさせる。	○効果的な話し方を体得できる。
35	・自分の立場とは逆の立場にたって、自分または仮想の高校生を説得する。	○ワークシート(P.36)を配布し、それをもとに逆の立場にたって考えさせる。 論理的に話す練習、相手の反駁を予想して論を展開する手段としてこのことが必要であることを把握させる。 ＊考える立場を具体的に例を挙げて提示し、考えやすくする。 （例）おこずかいは充分だと考えるお母さん等 ＊先に出したテーマのうち、使わなかったものを使う。	○多角的に物事を考えることができる。
40 48	・ワークシートをもとに発表する。	○ワークシートをもとに、数人に発表させる。 ○ワークシートを回収し、次時の予告をする。	○さまざまな立場から考えたこと論理的にを発表できる。

第一次第二時

本時の目標

●デイベート の形式・構成・理論を実際に体験することで学習する。

時間	学習活動	指導の意図と手だて	評価
0 5	・三・三デイベートについて理解する	○前時で自分の意見を弁護することと自分とは逆の意見を弁護することを学んだ。 それをふまえて肯定側・否定側・審判のそれぞれの立場を経験を通して学習する。	
44	・三・三デイベートの実践※1	○三・三デイベートのテーマ例 ・男は家事をすべきだ ・野球部は坊主にすべきだ ・高校生は携帯を持つべきでない	○肯定側・否定側それぞれの立場で立論、質疑、質疑の応答、反駁ができているか。また、審判として判定を述べているか。
	・デイベートとは何か理解する	○本時のまとめと次回につなげるための説明	

※1三・三デイベートの進行形式

肯定側	否定側	時間
肯定側立論		二分
(応答)	←否定側から質疑	一分
	否定側立論	二分
肯定側から質疑→	(応答)	一分
(準備時間)		一分
	否定側反駁	二分
肯定側反駁		二分
(検討時間)		一分
審判の判定		一分

第二次第三時

本時の目標

●自分の立場を明確にしてその立場から自分の論に有効かつ根拠のある資料を収集しそれらを構成することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手だて	評価
0 10	・さらにデイベートに対する理解を深める ・各グループに分かれデイベートの準備をする (P.37のデイベート準備表を用いる)	○デイベートの説明 ○デイベートの題の提示 ・死刑制度の是非 ・学校における制服 ・選挙権の18歳からの導入 ○くじで題と立場を振り分ける	
20	・資料集めと作戦会議	○新聞・本・インターネットなどから情報収集の仕方、利用の方法について指導する ○班員と意見を出し合い作戦を立てることを指導する	○班員と協力して資料を集めることができるか ○自分の意見を班員に伝えられているか。また班員の意見を理解し尊重できているか

第二次第四時

本時の目標

●前時に引き続き、自分の立場を明確にしてその立場から自分の論に有効かつ根拠のある資料を収集しそれらを構成することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手だて	評価
0	・資料集めと作戦会議	○新聞・本・インターネットなどからの情報収集の仕方利用の方法について指導する ○班員と意見を出し合い作戦を立てることを指導する	○班員と協力して資料を集めることができるか ○自分の意見を班員に伝えられているか。また班員の意見を理解し尊重できているか

第二次第五、六時

本時の目標

- 実践を通してディベートの形式を理解し、ディベートを行うことができる。
- 相手（聴衆者）を説得させるにはどういう論の進め方、話し方（構成、技術）、が必要か体得していく。
- 相手の意見をきちんと聞き、理解することができる。
- 客観的に討論を捉え、その判断をすることができる。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・ディベートを行う手順を確認する。	○休み時間の間に会場作りは済ませておく。 ○ディベートを行う手順（どのチームから、進行方法）、記録用紙の書き方などを再確認する。*1 ○聴衆者はどのような態度で聞くか、判定表をどのように書き込むか再確認する。*2	
5	・第1回ディベート開始。 立論　　：各2分 反論／応答：12分 最終弁論　：各2分 判定　　：2分	○教師が司会役として進行する。ディベートの流れなどに留意しながら論点がずれないようにディベートを進めていく。 ○判定の際の観点を押さえながら判定するということを確認する。	○立場を明確にして適切に立論することができているか。 ○相手の主張から疑問点、矛盾点を的確に指摘することができる。 ○指摘された疑問点、矛盾点について適宜資料を用いながら根拠と主張を分けて反論することができる。 ○反論／応答の過程を踏まえた上で最終弁論を立てることができる。
27	・聴衆者側は判定の理由をワークシートに記入する。 ・ディベート者は感想、反省点を挙げる。 ・次のディベートの準備	○行われたディベートの注目すべきところなどを挙げながら、聴衆者側の判定の手助けとなるようにする。	○客観的に評価することができる。（多数決の理論でもって評価する。） ○行ったディベートを客観的に反省することができる。
35	・第2回ディベート開始。		
57	・ワークシート記入／反省	同上	同上
65	・休憩		
70	・第3回ディベート開始。		
92	・ワークシート記入／反省		
98		○次時の予告	

*1（P.38参照）　記録用紙はディベート者、聴衆者の両方に配る。

*2（P.39参照）

第二次第七時

本時の目標

- ディベートを振り返り、反省することで再度相手を説得するということはどういうことか、よりよい説得技術を自ら考え、理解する。
- 客観的、論理的に状況を捉え、反省することができる。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・前時のディベートを振り返る。		
	・ビデオに録画したディベートの模様を各チームで見る。*1 気づいた点を挙げる。 改善点を挙げる。 ・聴衆側からの判定表などももとにしながらチームで改善点、反省点などを話し合い、考えていく。 （ワークシート）*2	○どういう点に着目してディベートを振り返るか助言する。 ○内容、論の運び方、構成のみに注目するのではなく、話し方、姿勢などの面からも振り返るよう促す。 ○教師側からも問題点、疑問点を提示し、更なる向上を求める。	○ディベートの模様を客観的に捉えることができる。 ○自分達の立場からは見えなかった第三者の意見を聞き入れると同時に、挙げられて点について考えることができる。
35	・今回のディベートの感想を書く。 どういったところが面白かったか。 次回やるとしたらどんなことを話し合ってみたいか。	○単におもしろい、おもしろくないといった感想にとどめず、今後の学習や日常生活につながるような感想を書かせ、ディベートに対して主体的、積極的な姿勢を養う。	○今回のディベートに積極的に参加できたか。
45	（ワークシート）*2	○今回のディベートの全体的な講評。	

*1　自分達のディベートの模様だけを見る。他のチームが見ているときには聴衆者側からの判定表をもとに話し合いをすすめるといったように交代でビデオを見ることで時間を有効に使うことができる。

*2　（P.40参照）後日、コメントを書いて返却する。

第１次第１時用ワークシート

番号　　名前

【テーマ】

【根拠】（自分が主張したいことの裏側を考えてみよう）
箇条書きにまとめてみよう。

【主張】（逆の立場になりきって自分を説得してみよう）

第1時第2時用プリント

デイベート準備表

1.自分たちの主張		
根拠 ① ② ③ ④	予想される質問 ① ② ③ ④	自分たちの反論 ① ② ③ ④
証拠(資料、データや具体例)		

2.相手側の主張	
予想される根拠 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥	考えられる 問題点矛盾点 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

3.最終弁論 主張の再提示	
根拠 ① ② ③	相手側の問題 点の指摘 ① ② ③

第２次第３，４時用ワークシート

記録用紙

テーマ	記録者　　班 氏名
班(　　)	班(　　)
立論	
反対尋問(質疑・討論)	
最終弁論	

第２次第５,６時用ワークシート

デイベート判定評

デイベート判定評	判定者	
肯定側	観点	否定側
3・2・1	①準備 ・十分な準備ができていたか	3・2・1
5・3・1	②論理性 ・論理は整っていたか	5・3・1
3・2・1	③実証性 ・適切な資料・データを用いたか	3・2・1
3・2・1	④説得性 ・相手を説得できる内容だったか	3・2・1
5・3・1	⑤質疑応答 ・活発な質疑応答ができたか	5・3・1
3・2・1	⑥チームワーク ・全員が協力して対応できたか	3・2・1
3・2・1	⑦話し方・聞き方 ・冷静な話し方・聞き方ができたか	3・2・1
	総合計	
肯定側へのコメント		
否定側へのコメント		

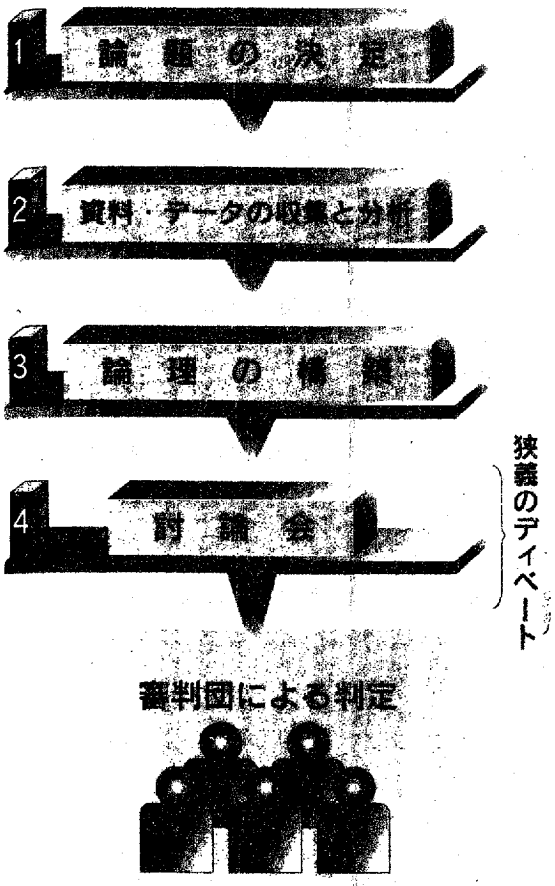
第２次第７時用ワークシート
反省、感想記入用紙

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

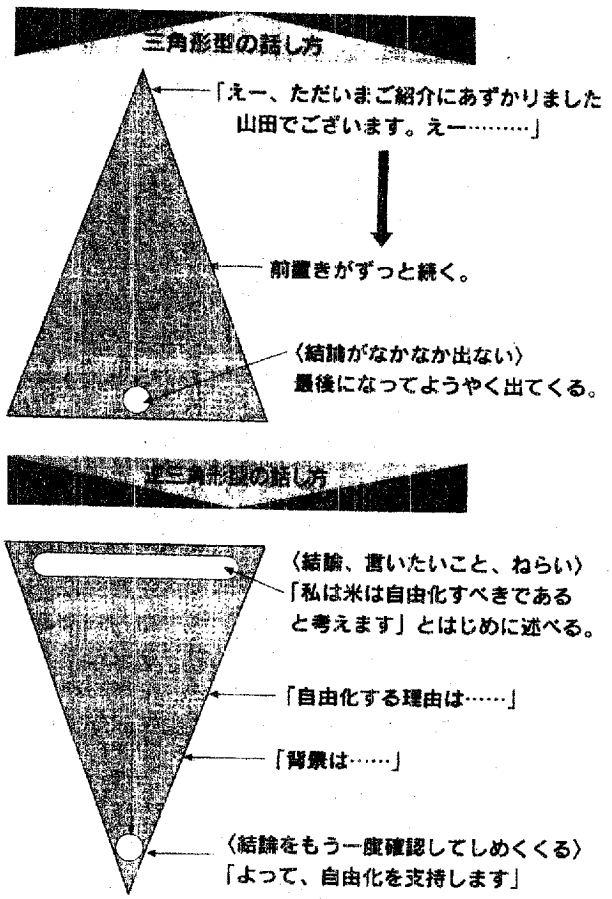
よかった点―資料収集、立論、構成、反論、質疑応答、話し方、姿勢、聞き方など具体的に―
悪かった点―資料収集、立論、構成、反論、質疑応答、話し方、姿勢、聞き方など具体的に―
改善点―上記の点について具体的に―
ディベートの感想―どういうところがおもしろかったか。大変だったか。 次回やるとしたらどんなことを論題にしたいか。など具体的に―

ディベート必勝法

ディベートの４つのプロセス



話し方の２つのタイプ── 三角形型と逆三角形型



◇ディベートのプロセスをつかむ。

◇今回の討論会の流れ

肯定側立論（２分）
↓ 主張とその根拠（明確に両者を区別して）
否定側立論（２分）
↓
作戦タイム（２分）
↓ 相手への反駁と予想される相手からの反駁への応答を考える。
否定側から肯定側へ反駁（２分）
↓
肯定側から否定側へ反駁（２分）
↓
作戦タイム（２分）
↓ 反駁に対する答えをふまえた最終弁論を考える。
最終弁論（各２分）

◇言いたいことをはっきりと、最初に示す。最後にダメ押し。
主張（結論）→根拠（理由）・裏づけ→主張

1．聴衆が何が話されているかを理解できるように明快であること。
2．聴衆が聞きたいと思うように、興味を引くものであること。
3．聴衆が賛同できるように、説得力があり確信的であること。

声

声の使い方を臨機応変に変化させることは、主張を明確にし、興味あるものにするために重要である。

1．考えを強調したいときは、キーワードをゆっくりと力点を置いて話すのがよい。
2．筋を述べたり、重要な点を例証する事実を列挙するときは、話を少し速めるのがよい。
3．主要な考えの間には強調するために少しの間を置くとよい。
4．資料と部屋の大きさに合わせて声量と調子を変えるべきである。
5．一本調子になることを避けること。

反省と展望

反省点としては、まず、第一時の活動で全員に発言の機会を与えることができなかったことがある。できれば全員に発言させ、一人一人の問題を解決することが必要かと考えられたが、まずは大まかに留意点を捉えさせることが必要であろうと考えたため、数人に発表させて改善点を見出すという形になってしまった。

次に、ディベートの説明についてである。実際はビデオを見せるなど、実践例を提示した方が理解しやすいであろうとは考えたが、適当なビデオを見つけることができず、活用することができなかった。ワークプリントを用いることで、できるだけわかりやすく提示したつもりだが、学習者の中にしっかり入っていくか疑問である。このように教師が提示、説明してしまっては学習者が受け身になってしまい、体得という形には導けないであろう。

また、ディベートの実践について、時間配分が強引になってしまった点と、テーマを教師自らが提示してしまったことが反省点としてあげられる。

前者については、学習者全員にディベートをさせたいと考えたために、続き時間を強引に設定し、第六、七時の二時間で三つのディベートをすることにしたが、充分に休憩がとれず学習者が疲れてしまうのではないかが危惧される。しかし、できるだけ全体の時間を短くしようと考えたため、これ以外に良い方法を思いつかなかった。

後者については、政策ディベートの論題を教師自らが提示して行うということで、高校生が興味を持つことで、社会的な問題であることを基準に設定したつもりである。しかし、果たして学習者がこれらの論題に興味を持って取り組めるかどうかには疑問が残る。特に「死刑問題」については、あまりに高校生の日常からかけ離れ、しかもそのことに興味を持っている学習者がどれほどいるのかというと、ほとんど皆無に近いであろう。このことに関しては問題提起の機会にできたことは良いが、やはり、もう少し身近な論題を設定すべきであった。

以上、授業についてこのような反省があったが、この演習を通しての一番の反省点は、実際教える立場に立つ私達がディベートについてつたない知識しか持ち合わせていなかったことであった。話し言葉教育や、テーマに文学作品の内容を持って来ることによって文学の授業に活用できるなどと軽々しく考えていたディベートであったが、実はディベートがテーマによって分類されていることなど全く知らなかった。

第二維束でも挙げていたが、話し言葉教育はやはり教師の力量が試されるものである。実際にディベートをしたこともなく、知識もなくては簡単にできるものではない。その点で、今回学習したことは、これから求められる、生きる力を育成する教育者へと一歩近づくものになったと感じている。また、生じた問題点の改善は、これから学んでいく上での課題としたい。

◇ 参考引用文献

・ディベートガイドー基礎からのディベートー
J・エリクソン、J・マーフィー、R・ゼウシュウナー
（訳者：渡辺春美、木下哲朗）
２０００年３月１５日　溪水社

・ディベートをどう指導するか	吉田和志	１９９５年７月	明治図書出版株式会社
・ディベートの技術	北岡俊明	１９９６年９月１１日	ＰＨＰ研究所
・ディベート能力の時代	北岡俊明	１９９３年１月２０日	産能大学出版社
・やさしいディベート入門	松本道弘	１９９４年１１月２８日	（株）中経出版
・図解　ディベート入門	松本道弘	１９９９年９月２５日	（株）中経出版
・言語論理教育入門	井上尚美	１９８９年７月	明治図書出版株式会社
・〈改訂版〉死刑廃止を考える	菊田幸一	１９９３年７月２０日	岩波書店
・中学生になぜ制服か	久世礼子	１９８５年１月１５日	株式会社　三一書店

第二節　事理を明確に言明できる人間とは？

園田純子　田中紗也香　富松久雄

Ⅰ．維束のねらい

かつての教師は絶対的な権力を持っており、口答えなど許されるものではなかった。現在ではこのような教師観にも若干変化が見られ、口答えをするのは面倒くさい、教師にわかってもらえなくても別にいい、というようなあきらめが大部分を占めてきているように感じる。いずれにせよ、教師に対し生徒が意見する機会は、これまで持たれることは少なかったといえる。

しかし、これからの情報化社会の中では、冷静に、批判的に物事を捉え、自主的に意志を形成していくことが重要となる。そして、教師と生徒の関係のように、一方的に否定されかねない状況にあっても、相手に自分の考えを伝え、わかってもらおうとする意思、熱意が必要であるということに気づかせなければならない。

このためには、互いに分かり合える存在である、と認め合うことが前提となり、実践を通してそれを学ぶことが希望される。教師など身近な例から、引いては社会に出た時に遭遇するであろう類似状況を想定しつつ、事理を明確に言明することの重要性について考える。

Ⅱ．学習者観

対象学年：高校一年生

現在の生徒達は、お互いに意見を主張しあって問題の解決をしていくという方法をさける傾向があり、あえて意志疎通を行うべき機会にも恵まれずにいる。

義務教育段階を修了し、自らの進路を選択、決定するに当たり自分の意見を述べるべき場面も増えてくる。親や教師などのような相手と、自分の立場の違いを認識した上で、相手に対して自分の意見を効果的、論理的に述べる力をつけさせる。

Ⅲ．維束観

- 導入として教師が理不尽な怒り方をしてみて実際に反論させ、くちごたえ、反論の必要性を感じさせる。説得の方法・技術について学ぶ。
- 日常生活のどのような状況下で反論の必要性を感じたか話し合う。どのように反論すれば相手を説得することができるか考える。
- 実際に、教師と生徒の寸劇大会をおこなう。反省をおこない、論理的、効果的反論とはどういうものかを学ぶことができる。

立場の違う人とも積極的に分かり合っていこうとする姿勢を身につける。

指導目標

- 自分の意見を論理的に他人に説明することができる。
- 自分と違う立場の人に対してもはっきりと意見を主張することができる。
- 反論の技術や方法について学ぶ。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
1	1	○反論することの重要性に気づくことができる。 ○有効な反論とはどういうものか考えることができる。	○怒られたことについての反論を考え、述べる。 ○その反論が有効か、なぜ有効でないのかを考える。 ○具体的に反論の必要を感じた体験を話し合う。 ○なぜ教師や親には反論しにくいのかを話し合う。	○具体例として、実際に怒ってみる。反論が失敗するように導く。 ○なぜ失敗したのかを考えるように促す。 ○反論するべき時に反論してきたかを中心に考えるよう導く。 ○立場の違いについて考えさせる。
2	1 2	○反論の方法、技術について学ぶことができる。	○論理的に自分の考えを述べる方法を話し合う ○反論とはどういうものか図書、インターネット等で資料を収集する。	○話すこと、反論すること自体が否定されている状況ではどういう話し方をするべきか考えさせる。 ○資料として、活用できそうなものを数例あげておく。
	3	○教師に反論する状況を想定して、対策を考えることができる。	○具体的に教師に対して反論の必要性を感じた体験を元に、状況を設定する。 ○ほかの立場からの意見も考慮しつつ、意見を述べる方法を話し合う。	○実際に寸劇を行うことを想定して、例を考えさせる。 ○テーマが個人的感情に偏らないように指導する。

3	1	○実際に教師に対して意見を述べることができる。 ○実際に、教師を納得させることができる。	○教師と班の代表者が、寸劇を行う。 ○聴衆者は反論が論理的であったか、評価シートを用いて判断する。	○なるべく学習者が話しやすい雰囲気をつくる。 ○聴衆者は客観的視点から論理性を評価するように指導する。
	2	○反論の能力が高まったかを反省することができる。 ○立場の違う人にもはっきりと自分の意見を主張する必要性、及び方法を身につける。	○評価表を元に、教師に対して効果的な反論ができていたかを判断する。 ○今後同じような場面に出会った場合、どうするべきかを話し合う。	○反論をされる側の教師の立場から、気づいた点を述べる。 ○自分が教師、親のような立場に立ったとき、どういう姿勢を持つべきか考えさせる。 ○社会に出た場合にも自分の意見を主張できるような姿勢を作るように指導する。

・ 班での活動が混乱しないように、ワークシートを用いてまとめやすくする。

<u>指導案　第一次</u>

本時の目標

・反論することの必要性に気づくことができる。

・有効な反論とはどういうものか考えることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○教師に言われたことに対して反論してみる。	○まず実際に反論させてみる。 （例）「明日から全員坊主にしてこい」などに対して 生徒の反論が失敗するように導く。	○反論することの難しさを感じることができたか。

10 20 30 40	○自分たちの反論が有効であったかどうかその原因・理由について考える。 ○発表。 論理的かつ有効な反論とはどんなものか考える。 ○具体的に反論の必要を感じた体験を話し合う。（班ごとに） ○発表。 （各班代表者）	○有効でないと判断した場合、なぜ失敗したかを考えるようにする。 ○自分たちの反論の良い点・悪い点、それについての改善点もあわせてわかりやすく板書する。 ○反論するべき時に反論してきたか、反論してきたとしたら状況はどう変わったかなどについても考えるようにさせる。 ○他のグループの意見も踏まえて、反論の重要さを考えるようにする。	○反論の内容について分析し論理的かつ有効な反論とはどんなものか考えることができたか。 ○自らの体験を思い起こして反論の必要性に気づくことができたか。 ○話し合ったことを整理して発表することができたか。

指導案　第二次　第一時

本時の目標

・論理的思考について考えることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○論理的に自分の考えをのべる方法を話し合う。 ○さまざまな意見を整理していく。	○論理的に自分の考えを述べるにはどうすればよいかを考えさせる。 ○一つの方法として KJ 法やブレーンストーミングについて説明する。	○論理的に意見を言うための手立てについて自分なりの方法を考えることができる。 ○KJ 法やブレーンストーミングについて理解できるかどうか。

指導案　第二次　第二時

本時の目標

・ 反論の方法、技術について学ぶことができる。
・ メデイアを使って資料を集めることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○反論について図書・インターネット等で資料を収集する。	○図書館やパソコンルームで活動させる。 ○インターネット等のメデイアを活用させる。 ○資料として活用できそうなものをあげておく。	○インターネット等のメデイアを活用できるか。 ○積極的に資料を集められるか。

指導案　第二次　第三時

本時の目標

・ 理論を実践に結びつけることができる。
・ 感情と論理的思考の違いを考えることができる。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○一時にまとめたメモを元にして、班ごとに教師へのいいわけテーマを決めていく。	○あらかじめ班にしておくようにする。	○班内で議論が活発にできる
20	○いいわけテーマを一つに決め、どのように反論するか対策を考える。	○あまり重過ぎるテーマにならないように指導する。 （教師個人の人間性などにかかわるものでないものを選ぶよう指導する。） ○テーマがなかなか決まらない班にはいくつか例を提示する。 (例)・理由があって遅刻した時。 ・宿題が解けなかったためやっていかなかった時。 ・前の日にがんばって勉強したため居眠りしてしまった時。　など。	○話の論点がそれないように協力して活動できる ○幅広い発想、視点をもつことができる。
40	○自分が教師ならどうするかを考慮し、話し合う。		○相手の反論を予想して対策を立てることができる。
50	○代表者を決める。 ○自分たちは何についていいわけするかをプリントに書いて提出する。	○感情的に考えるのではなく、筋道を立て、論理的に、自分の意見を主張することを強調する。	○班の意見を総合してまとめることができる。

指導案　第三次第一時

指導目標

・　今までの知識を使って、実践で反論することができる。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○実際に教師との寸劇大会を行う。 ・　班の代表者が教師との寸劇を行う。 ・　時間は一班５分 ８班×５分＝４０分 ○聴衆者は反論が論理的であったか、評価シートを用いて判断する。	○なるべく生徒が話しやすい雰囲気をつくる。 ○生徒の予想していないような意見を出し、実際の話し言葉で議論が進むようにする。 ○聴衆者は客観的視点から論理性を判断するように指導する。	○今までの学習内容を生かし、実践に応用できているか。 ○下書きどおりでなく、実際の場面に対応できているか。 ○人の意見を客観的に評価できるか。

指導案　第三次　第三時

指導目標

・前時の反省をすることができる。

・反論についての知識、技能を再確認できる。

時	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○前時の反省を行う。 ・　実際に寸劇をおこなった立場からの反省点を述べる。 ・　聴衆者の立場からの反省点を述べる。	○反論される側の教師の立場から気づいた点を述べる。 ○板書していく。	○成功した点と失敗した点を反省することができる。
30	○今までの授業を通しての感想、意見を述べる。	○今後同じような場面に出会った場合、生かしていけるように促す。	○自分の感想、意見を述べることができる。 ○今後、反論していこうという意欲がもてたかどうか。

（反省点）

・　授業計画を立てるに当たって、インターネット、図書館などで導入例を探したが、なかなか見つからなかった。そのため、具体的に考えることが難しく、あいまいな点が多い。

・反論（いいわけ）の状況設定が難しい。社会的視点から考察できるような状況設定をしなければならない。

・ディベート、パネルディスカッション、スピーチなどとは違う方法で授業を組み立てようとしたが、未熟な点もまだ多い。

・一人の教師でこの授業を成立させるのは難しい。また、教師自身に深い知識と判断力が必要となる。

・評価の面では、班の代表による発表という点で、一部の生徒の指導にしかならないのではないかという問題を解決できなかった。

・「論理的な思考」と「反論」の方法を結びつける難しさがある。

第一次　第一時　ワークシート

氏名（　　）

＊ 教師や親に対して反論したいと思った時はどんな時だろうか。
その時、自分はどうしただろうか。

①反論できなかったこと、状況
②どうして反論できなかったか。
③今、反論するとしたらどうするか。

第二次　第三時　ワークシート①

先生に「いいわけ」をしよう！大会作戦会議

（　　）班

氏名（　　）

①どういう状況で・・・
②先生はこういう態度で・・・
③自分にはこういう理由があって・・・
④だから、こう、いいわけしたい！！

- 場面を具体的に想定しよう。
- 感情的に考えず、論理的に。
- 理由を明確に、効果的に話す方法を考えよう。
- 前回までの学習を活用しよう。

ワークシート②提出用

（　　）班

※ 次回の寸劇大会について、対策をどのように練ったのかまとめよう。

※ できるだけ具体的に。

・ いつ

・ どんな状況で

・ 先生はどうした、なんといった、・・・など。

①私たちが先生にいいわけしたいのは・・・これです。
②先生は、こういう態度をとるでしょう。

第三次　第一次　ワークシート

● 寸劇大会を終えてのまとめ

・ 論理性、話し方、聞きかた、姿勢、などを具体的に。

①成功した点
②失敗した点
③改善点
④感想

KJ法

多様な事柄が渾然と並ぶ場で、その内容を整理し、その構造、課題を見つけだしていくための手法。
基本は、
①名刺大程度の紙片に最小単位(単一の意味内容)に区分した事柄を記し、
②床一面に並べ、
③個々の紙片相互の繋がりを一つずつ検討し、
④(先入観によるグループ化などはせず)関係深いものの位置を個々に近づけ、
⑤次第に部分的な構造を作り上げ、
⑥さらに大きな配置を検討し、
⑦全体配置を整理し、
⑧必要に応じ相互関係の矢印等を加え、
⑨最期に全体を文章化していく。

詳しくは、川喜田二郎著「発想法」中公新書1967年、同「続発想法」1970年参照。

項目次
技法一覧

トランザクション

1　相手の理解を確認する

「私の言いたいことが分かった？」

2　自分の言いたいことを明確にする

「いや、そうではなくて、僕の言いたいことはね・・・・」

3　自分の意見を他と比べて差別化する

「君が考えているようなことを言いたいのではない」

4　洗練した形で言い直す

「僕はもっと分かりやすく言わないといけないな」

5　相手のことばを言い換える

「あなたの主張はこんな風に言い換えてもいい？」

6　相手の根拠を問う

「どうしてそう言えるの。理由は何？」

7　相手の言いたいことを補う

「あなたはこういうことが言いたいのかしら」

8　相手のことばを拡大解釈してみる

「君の考えだと結局戦争も認めることになってしまう」

9　言い換えによって、相手の弱点を浮かび上がらせる

「それは場合によっては体罰も必要だということ？」

10　相手の矛盾をつく

「それは論理的な一貫性に欠けるな」

11　相手の理由付けを批判する

「あなたの理由だとそういう結論にはならないのでは」

12　相手の言葉を拡大して自説との違いを強調する

「君の考えを進めるとこんなことになるけどいいの？」

13　相手の考えと対立する考えを持ち出す

「あなたと反対のことを言う人もいるけどどう思う」

14　自他の考えを併置して違いを際だたせる

「僕の考えは○○。君の意見は××というわけだね」

15　二人の意見の統合の可能性を示す

「あなたと私の考えはこうすれば共に生かせると思うよ」

16　二人の考えの共通性を表現する

「○○した方がよいという点では、同じ意見でしょ」

17　同意・不同意点を明確にする

「お小遣いについては認めるけど、門限はだめよ」

18　比較して批判する

「僕はデータで裏付けているのに、君のは単なる・・・・・」

トランザクションを意識させるには司会者を経験させるのが有効
司会者とは、実質的な対話に関わらずメタ対話に専念する存在である。

第４維束

企画遂行力をつけた自主性の育成へ

第１節　洞察力を背景にした緻密な構想家へ

第四維束　企画遂行力をつけた自立性の育成へ

第一節　洞察力を背景にした緻密な構想家へ

赤松ゆみ子　小原陽子　古屋絵美

I　維束の狙い

会議は発表者によってのみ構成されているのではなく、会議開催にあたって会場設営や聴衆の招待など様々な準備が必要であることに気付かせる。そして、実際に、他者との意見交流の場である会議を行うことによって、会議実施のノウハウを知り、企画・運営力を身につけさせる。また、自分の意見を相手により明確に伝えるため、論理的に筋道立てて話をする力や、OHP などを用いて視覚的資料を適切に示す力を身につけさせる。

II　学習者観

現在国際化はますます進み他国の人と意見を交換することも多くなった。その中で大きな会議を持つことは想像以上に多い。しかし高校二年生である学習者達は受験に向けての勉強に時間を取られ与えられた事柄をこなすだけという姿勢も見られ広く社会を目指した活動などには無関心である。この状況下では学習者達が積極的に社会状況に関心を持ちそこから何かを企画運営するのは困難と思われる。

学習者にはこれから大学や社会に出て行くにあたって、このような場でも積極的に活動していけるような力をつけさせたい。

III　維束観

・まず導入で、コンベンション法が制定された事を知り、G8高校生サミットのビデオを見る。それらのことを通して、会議の企画運営力の必要性や、そのおおまかなノウハウについて学ぶ。

・実際に会議を開催し、うんえいする側にも立つことによって、必要な準備、連絡等の事前活動、事後活動について知る。

・パネルディスカッションを行うにあたり、インターネットや本、新聞など多くの資料を用いた調べ学習ができる。また、調べた資料の中から取捨選択し、より明確に自分たちの意見を伝える発表資料を作成し、発表できる。

・他者の意見を聞き、その論点を押さえて質疑応答をすることができる。

・会議後に提言を作成することによって、会議で出された意見などをまとめ、これからのありかたなどの明確なビジョンを持つことができる。

指導目標

・企画運営力のある人材の育成を目指す。

・事物を客観的にとらえた上で分析し、前向きな意見を示すことができる。

・意欲的に活動に取り組むことができる。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
第一次	第一時	企画運営力が求められている事を知る。	国際会議の必要性を知る。	国際会議についての法律が1994年に制定されたことを告げる。(資料①.②) 会議の企画運営の必要性を喚起する。
		サミットを身近なものとして感じることができる。	G8高校生サミットのビデオを見る。	
		多角的な分析ができる。	ワークシート①をうめる。	3つの視点(準備・会議本番・事後処理)から会議の運営のあり方を分析する。
	第二時	自分の意見を他者に明確に伝えることができる。	ワークシート①で考えたことを視点ごとに発表しあう。	
		会議運営の手順を理解できる。	視点ごとに流れを確認する。 ワークシート②を使用する。	サミット時の資料(資料③)を渡す。
			何のために会議をするのか考える。	提言について説明する。
		自分が何について問題意識を持っているのか明確にし、示すことができる。	提示された会議の議題から希望の議題を選び、その理由を書く。	会議することを提起する。 会議の議題を提示する。 (福祉・介護・地域社会・教育など。資料④参照) 学習者の希望を書いたものを回収
第二次	第三時	決定した議題を確認し、これから会議を企画、実施するという意識を持つ。		前回回収したものを提示。理由とともに決定した議題を示す。
		パネルディスカッションの方法を理解することができる。	パネルディスカッションについて学ぶ。(ビデオ+補足説明) 質疑応答の仕方について学ぶ。 ワークシート③、④を使用。	パネルディスカッションの方法を説明する。

第二次	第三時		班分け+役割分担　(六人・六班)	班ごとの役割分担(準備)を決める。 次時の予告(班ごとのテーマを決めるための調べ学習)
	第四・五・六時	班ごとに話し合い、方向性を決めることができる。 班で決めた方向性に従って調べ学習をし、話し合って解決策を決めることができる。 各班協力して、担当する準備作業を行う。 自分たちの意見をより明確に伝えられるような視覚資料を作成することができる。	具体的に調べる方向性を決めるための調べ学習。各班で調べる内容を調整する。 各班で現状の問題点を探し、調べ学習をした上でその解決策を班内で決定する。 ワークシート⑤を使用。 班で割り当てられた準備作業を行う。 実際に発表する資料作り。 パネリストを決め、パネリストの原稿なども作る。 OHPなどのAV資料作成。	サミットの資料(資料⑤)を例として参照させる。 調べ方やOHPの使い方などについては適宜指導を行う。 要望に応じて時間は延長する。
	第七時	当日の流れを押さえることができる。	予行演習を行う。 (パネルディスカッションは全て行うのではなく、時間と流れの確認をする)	予行演習をさせる。 会議の司会・進行やAV機器の扱い方など、適宜指導する。
第三次	第八・九時	会議の実施を通して、その流れを把握することができる。 人前で論理的に説得力のある話し方ができる。 問題意識を持って発表を聞き、その内容を理解することができる。 質疑応答の方法を実践することで身につけることが出来る。	実際に会議を開く。 開会宣言 プログラム紹介 パネリストの発表 質疑応答 全員による討論 会議を終えてのパネリストの言葉 閉会宣言	招待した聴衆に評価シート⑥を配る。 司会者・発表者・聴衆の動きを観察する。 良かった点や悪かった点を見つけ出し、第四次第十一時の反省会につなげる。

	第十時	会議を振り返り、質疑を考慮に入れて、提言をまとめることができる。	各自のまとめを書く。 班ごとに話し合いをする。 班の提言を決め、発表する。 クラスの提言としてまとめる。	提言のワークシート⑦の書き方について説明を加える。 役割分担で決まった班に提言を配布させる。
第四次	第十一時	会議を客観的に捉え、問題点・改善策を考えることができる。 会議のノウハウについて再度確認することができる。	反省会。 班ごとに評価シート⑥について話し合い、改善策を立てる。 班ごとに改善策をまとめる。 各自、会議を終えての感想を書く。	評価シートをもとに、会議の問題点、その改善策を考えさせる。 客観的に会議について考えさせる。

指導案・第一次・第一時

本時の目標

・会議の企画運営力が求められていることを知ることができる。

・さまざまな視点から会議の仕組みを分析することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	これからは会議などの公式な場を企画運営する力が必要とされていることを知る。	平成六年に制定された「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」（コンベンション法）（資料①）と、平成六年度の運輸白書（資料②）を提示し、企画運営力が求められていることを認識させる。	国際的、また社会的に会議などを企画運営する力が必要とされていることを感じ取れたか。
１０	メモを取りながらＧ８高校生サミットのビデオを鑑賞する。	社会人や大学生の行うものではなく、同じ年代の高校生が行っているものを見ることで関心を持たせる。 ワークシート①を配布し、ただ見るのではなく「どのように企画運営されているのか」を考えさせる。	三つの視点（準備・会議本番・事後処理）から会議全体をとらえることができたか。
４０	サミットのビデオをワークシートに沿って分析する。	ワークシート①を書かせ、会議全体に目を向けさせる。机間指導をする。 何を書けば良いか分からない学習者には適宜指導する。	気付いた内容を明確に示すことができたか。

指導案・第一次・第二時

本時の目標

・会議開催の手順を理解することができる。

・実際に会議を開催することを踏まえて議題を決めることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	ワークシートに書いたことをもとに発表する。	各項目ごとに何名か指名し発表させる。	会議について的確な分析がなされていたか。
１５	どうすれば円滑に運営できるのかを確認する。（発表したことをまとめる）	補助資料としてＧ８高校生サミットの資料（資料③）を配布する。 ワークシート②を使用する。	発表されたことをもとにどうすれば円滑に運営できるかを考えることができる。
３５	提言の必要を知る。※１	提言を出していくことが会議の目標であることを示し具体例を示す（Ｇ８高校生サミット時のものなど）。	提言について理解できたか。
４５	実際に会議を行うにあたって議題を選び理由を考える。	あらかじめ議題とテーマを記したもの※２を配布し、その中から選ばせる。	議題を選び、希望理由を明示することができていたか。

※1 提言とは。〈授業内容〉

会議は何のためにするのだろうか。

【提言】自分の考え・意見などを会議に出して賛成を求めること。またその内容。

（三省堂新明解国語辞典より）

ここでの提言は、社会などに向けて、会議で話し合った成果を提出することである。

ex))G8高校生サミット時の提言。

G8高校生サミットは何のためにしているのだろうか。

～21世紀・世界の共生を目指して～である。（サミットの配布資料より。）

その結論として、この会議の結果が出したのがこの「提言」である。

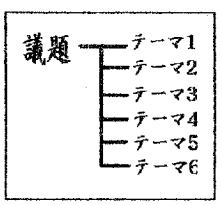
会議などを行った結果、提言を出さないと、その会議を行った結果が反映されない。

ただ話し合いを行うだけでなくその結果、どのように意見を発信するか考える必要がある。

※2議題とテーマについて

議題を決め(アンケートによる。)その後調べ学習をし、その議題における観点別テーマを各班で調整するという形をとる。

詳細な例については資料④参照。



凡例

指導案・第二次・第三時

本時の目標

・これから会議を自分たちの手で実施するという自覚を持つ。

・パネルディスカッションの方法について理解することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	決定した議題とその理由を確認する。	前回回収したものを集計して、一番希望の多かった議題を今回の議題とし、その理由と共に示す。	
5	パネルディスカッションの方法について学ぶ。	パネルディスカッションの方法について、ビデオや補足説明(プリント③)を用いて示す。 その一環として、質疑応答の際の留意点についても、プリント④を示し説明する。	パネルディスカッションの方法について、的確に理解できたか。
35	班に分かれる。 班ごとに、会議当日までの準備の分担を決める。	パネルディスカッションを行うための班分けをし、準備の役割分担やプログラムの作成など)を決めさせる。 班長を決めさせる。	
45		次時の予告をする。 ・調べ学習を行いながら、班のテーマを決める ↓ 問題点を見つける ↓ 解決策について班内で話し合い、決定する。 ↓ 発表資料の作成 という今後の流れについても説明する。	

指導案・第二次・第四～六時

本時の目標

・様々な資料を用いた調べ学習をし、班ごとに協力して発表(当日)までの準備を行うことができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
	インターネット検索や、本・雑誌・新聞などを用いた調べ学習を行う。	G8高校生サミットの時の資料(資料⑤)を例として参照させる。	自らパソコン室などに赴き調べることができたか。

	班ごとにテーマを決める。 その後、班の代表者同士が話し合い、テーマを調整する。(班長会) ※会議当日の司会も決める(2名)。	調べる内容などがなるべく重複しないように、各班のテーマを調整する。(→第三希望まで出させる)	班活動に積極的に参加できたか。
	各班で自分たちのテーマにおける現状の問題点を探す。	調べ方や考える手順については、適宜指導する。 ワークシート⑤を使用する。	
	解決策を出すための調べ学習をする。	役割分担をした準備活動などで忘れているところや不備がないか気を配っておく。 担当班に招待状(資料⑥)を作成させ、招待する方々に配るように指示する。	
	解決策を決定する。 当日の発表資料を作成する。 パネリストを決め、その原稿なども作る。 ※以上のことを行いながら、班ごとに分担した準備活動も行う。	図などを多用すると分かりやすいなどの助言をする。	聴衆の視点に立って、見易い資料を作れているか。

指導案・第二次・第七時

本時の目標

・予行演習を行うことによって、当日の時間の流れや進め方を把握できる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
	予行演習を行う。 パネルディスカッションの詳細(発表内容)については触れない。 全体の流れと役割について確認する。	予行演習をさせる。 今回は教師も司会に参加し、指導を行う。 AV機器等の使用法について説明する。 次時の評価シート⑥とプログラム(資料⑦)を配る。	当日の進めかたについて把握することができる。

第三次第八・九時

本時の目標

・実践を通して会議の流れを理解することができる。
・聴衆者を前に、論理的に話をすることができる。
・発表を聞き、その主旨を理解し、必要に応じて質疑することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
		会場作りは、事前に終わらせておく。(資料⑧) 招待した聴衆に評価シート⑥を配り、会議の運営の仕方・発表の様子について評価してもらう。 聴衆者となった学習者に、評価シートを書きながら、発表を聞くことを告げる。	
0	会議を開始する。 代表者が開催宣言をする。 司会者があいさつをし、発表者の紹介をする。		
10 90	パネリストの発表:各５分 質疑応答　　:20分 全員による討論　:24分 発表を終えてのパネリストの言葉　　:各1分 閉会宣言をする。	司会者・発表者・聴衆者を観察し、よかった点・悪かった点を見つけだし、次時の反省につなげる。 評価シートを回収する。 (学習者・招待者のもの共に) 書ききれなかった評価シートに関しては次時までに書いてくるように指導する。	理解しやすい文章構成ができ、しっかりとした口調で発表することができる。 発表の内容を理解することができ、質問できる。

第三次第十時

本時の目標

・発表時の質疑をふまえて、各自提言を示すことができる。
・各自の提言をもとに、クラス全体の提言をまとめることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0		提言とは何かを確認し、ワークシート⑦の書き方について説明する。	提言について、理解できているか。
5	各自、ワークプリントに沿ってまとめを書く。	発表時の質疑を考慮して、提言を作るようにさせる。	発表をふまえて、自らの提言を持つことができる。

10 25 45	各自がまとめたものをもとに、班ごとに話し合い、提言を決める。 班ごとにまとめた提言を発表する。 発表したものをクラスの提言としてまとめる。	クラスの提言を資料としてまとめさせ、招待した方々に配るように指示する。 会議の評価シートを集めておく。	話し合いに積極的に参加している。

第四次第十一時

本時の目標

・会議を客観的に捉え、その問題点を認識し、改善策をうち立てることができる。

・会議のノウハウについて深く理解することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0		発表時に他班の学習者が書いた評価シート・聴衆者から回収した評価シートを各班ごとに配る。	
3	反省会を行う。 聴衆の評価シートを読み、班ごとに会議の問題点を確認し、その改善策を話し合う。	次回の会議につながるように改善策を導き出させるようにする。	各々で会議開催における問題点を考えられている。 客観的に他者の評価を受けとめることができる。 班の話し合いに積極的に参加する。 様々な問題点を解決する方法を考え出すことができる。
23	班ごとの改善策をまとめ、発表する。		
35 50	各自、会議の感想を書く。	事前準備・会議当日・提言決定において、自分がどのような活動をしたか、どのような点に考慮したかについて触れ、これからどうしていきたいかを書かせる。	自らの活動の反省ができる。 会議について再度考え、より深く理解することができる。

＜反省と展望＞

反省点としてまず挙げられるのが、一番の目的であった会議の企画運営を教師主導で行ったところが多いことである。また会議の準備にあたり、準備内容(プログラムの作成など)を班ごとに分担させたために、各自に一連の会議開催までの流れを押させさせきれなかった。また一方で、パネルディスカッションについては、調べ学習から発表資料作成までを学習者自身に任せてしまい、教師からの指導は例示のみにとどまってしまった。そのために発表原稿の書き方(論理的な文章の組み立て方等)などや、その間の細かな指導については行き届かなかった。しかしこの点については、学習者主体の活動を重んじることで、逆に学習者の意欲を喚起することになったかもしれない。さらに、会議のノウハウを身に付けさせるために、会議を実際に開催させることにしたが、運営側も発表者側も学習者が兼ねたことから、発表の準備のほうに学習者の意識が集中してしまい、そちらに時間をかけすぎたことも反省点のひとつである。また、パネルディスカッションの性質上、パネリストを班に一人としたために、他の学習者は発表者を経験することができなかった。

次に考慮した点として、会議を行うにあたって部外者を招いたことが挙げられる。そのことによって、発表する際に公式の場であるという意識を高め、また、客観的な視点からの評価を受けられるようにした。また例として、Ｇ８高校生サミットという年代的に近い人たちの国際会議を見せることによって、国際会議に対する意識を高め、意欲を喚起できた。

今回は教師側が、ある程度誘導する形の会議となった。学習者にとってこのような会議を行うのは初めてであろうから、ノウハウを一から教える意味でも教師主導で行った。最終的には、各班の班長によって運営部を設立し、文字通り学習者自身が運営する会議を目指したい。次の第二回目の会議開催からは、本当の意味での学習者主体で会議を運営することができるであろうと考える。

＜参考引用文献＞

○監修　William　L.Millard,Ed.D.　　森　亘
INTERNATIONAL　SCIENTIFIC　MEETINGS
国際学会・会議のためのハンドブック　　英語による上手なプレゼンテーション

○ 編集者　高橋俊三
講座『音声言語の授業』（全５巻）第３巻　話し合うことの指導
１９９４年６月　　明治図書出版株式会社

＜協力＞

○ 沖縄県立知念高等学校　３年　濱田好恵
○ 宮崎県立佐土原高等学校　３年　富永和也
○ 福岡県立修猷館高等学校　梅井寿乃

ワークシート①

＜Ｇ８高校生サミットのビデオを見よう＞

目標

・会議がどのような流れで行われているのか把握しよう。

このような会議を行うために具体的に何が必要でまたどんな準備が必要かビデオを見て気付いたことを示そう。

☆会場設営

☆配布資料

どんな役割の人がいてそれぞれどんな活動をしていただろうか。

ワークシート②

＜会議開催の流れ＞

企画

議題の提出

実行委員会の発足

準備

事前にやっておくこと（実行委員）

事前に配布する資料

事前にやっておくこと（発表団体）

当日

事後処理

ワークシート②完成例

＜会議開催の流れ＞

企画

議題の提出

実行委員会の発足 ⟶ 班長会がこれにあたる

準備

事前にやっておくこと（実行委員）
　事前に配布する資料
　　・プログラム ⟶ 別紙参照
　　・招待状 ⟶ 別紙参照
会場を押さえる ⟶ 今回は会議室
招待状を招待客に出す
プログラムの作成
会場の準備
　　机・イス
　　ＡＶ機器　等

班で役割分担する

事前にやっておくこと（発表団体）

資料の作成

原稿の作成

会議

別紙プログラム参照

提言を決める

事後処理

提言を招待客に伝える ⟶ 班での役割分担に含む

ワークシート③

○パネルディスカッションについて（補足説明）

「パネル」とは、板である。代表者を際立たせるために、（会場の中央に位置付け）参加者との間をパネルで仕切ったことから、こう呼ばれている。

ある問題について、いくつかの論点が考えられるとき、このパネルディスカッションを行うとよい。ある論題について、肯定側・否定側に分かれて討論を行えばディベートであるが、意見が二派でないこともある。そのようにいくつかの意見がある場合、それぞれの立場の代表者が出て、討論のきっかけをつくるのが、このパネルディスカッションである。

パネルディスカッションは、メンバー（代表者）と参加者が同等の立場でなければならず、また、全員の討論に発展するものでなければならない。

パネルディスカッションは、およそ、次のような手順で実施される。

①司会者による論題の方向付け
②各代表者による立論
③各代表者による反論
④参加者による質疑
⑤全員による討論
⑥各代表者の要約
⑦司会者によるまとめ

※今回行う会議では、③を割愛し、④⑤については質疑応答という形態をとることにする。

ワークシート④

質疑応答における留意点

○パネルディスカッションなどの場において、質疑の応答や意見の交換は欠くことのできない重要な役割を持つ。それによって聴衆は、他の参加者と情報を分かち合うことができると同時に、演者（発表者）とも直接やりとりができるのである。また、演者自身にとってもそれは、自分の発表の効果をさらに高めることができる。

Ⅰ、発表者

・あらかじめ、どこにどのような質問がくるか、聴衆の立場に立って予想し、またその答えを考えておく。

・出された質問に対し、論点を明確にし、簡潔に分かりやすく答える。発表資料等を用いて説明できるのならば、示しながら答えると分かりやすい。

・予想外の質問でも、慌てずに落ち着いて対処する。

・もし答えられないような質問であれば、無理にその場で考え不明確な返答をしない。その時の自分に分かる（考えられる）範囲で答え、分からないところなどはそれを認める。質問者にそのことについて考えがある場合には、意見を聞いてもよい。

・質問を受けたときには、「御質問ありがとうございます」などの謝意を示す。

☆してはいけないこと

・質問者が面目を失うような言い方をしないこと。

ｅｘ）.「言うまでもなくその答えは～」、「話しのなかで言いましたが～」

「多くの研究者（人）は知っているのですが～」

など。このような言いかたをすれば、暗に質問者に対して無知であるとか、発表をよく聞いていなかったとか、無意味な質問であるとか、非難しているように聞こえます。

・「これは素晴らしい質問です」、「あなたの質問は鋭い」など、受けた質問の良し悪しを決めるような表現は避ける。すべての質問は平等に取り扱うべきである。

・一人の質問者に時間を独占させないこと。

・聴衆を指差したり、あるいは腰に手をあてたまま立っているような動作は、聴衆にとって説教をされたり見下されているように思わせます。常に親近感のある、謙虚な態度で聴衆に接しましょう。

・質問者としつこい議論をしないこと。

Ⅱ、聴衆

・会議に参加する前に、あらかじめどんな質問をするのか、どんな意見を出すのか、よく考えておく。

・質問は簡潔明瞭で当を得たものとするよう心がける。曖昧な意見や複雑な質問は避けるべきである。

・質問を始める前に、まず自分の名前や所属、場合によっては肩書きなどを明らかにする。「よろしくお願いします」などの一言を付け加えるのも礼義であろう。

・会場全体に質問（声）が聞こえるかどうかを確かめる。
・ほかにも質問をしたい人がいるかどうか気を配り、質疑のやりとりは短めに終わらせるようにする。

Ⅲ、司会者

・普通、司会者は自分自身で質問に答えたり、意見を出したりすることはない。ただし、時には質疑応答を始めるにあたり、最初の質問を司会者がまず行うということもある。
・今回のようなパネルディスカッションのような場合には、司会者はもっとも積極的に質疑応答に関わるのが普通である。

ワークシート⑤

問題解決のアイデア

アイデアは、下記の３つの点を満たすようにして下さい。

1. 人を惹きつけるようなタイトルをつける。
2. 世界の（平和、環境、経済）問題で、自分が最も深刻だと考える問題は何であるのか。（もちろん自分が出席する分科会においてのみです。）
3. その問題の解決策は何か。
   - ◆ 実現の可能性がある
   - ◆ 具体的なプロセスを示せる
   - ◆ これまで誰も考えつかなかった、オリジナリティーがある
   - ◆ 分かりやすく、ユーモアがある

班	パネリスト：
タイトルとは	
最も深刻だと考える問題とは	
問題の解決策とは	

ワークシート⑥

評価シート　　(　　)班へ　　氏名

各班の発表を聞いて各項目について評価しましょう。

５段階評価で適当な数字に丸をつけて下さい。

1. 与えられた時間内に、問題の原因・具体例・解決策が盛り込まれていた。

5・4・3・2・1

2. 話の流れは論理的で、わかりやすい文章となっていた。

5・4・3・2・1

3. 声の大きさは適当だった。

5・4・3・2・1

4. 話すスピード・強弱・強調の仕方は適当であった。

5・4・3・2・1

5. 用いた視聴覚資料の選択と利用は適切であった。

5・4・3・2・1

6. 質疑への回答は落ち着いてしっかりとできていた。

5・4・3・2・1

7. 発表班への気づき

(　　)

評価シート　　氏名

発表全体を通しての評価をしましょう。

５段階評価で適当な数字に丸をつけて下さい。

1．司会はスムーズにできていた。

5・4・3・2・1

2．聴衆の態度はよかった。

5・4・3・2・1

3．質疑は論点をはっきりと示しておこなわれていた。

5・4・3・2・1

ワークシート⑦

提言を考えよう

★ 私たちは取り組みます。(自分自身が問題に対して、どう解決していくか)

ｅｘ)「高校生グリーンデイ」の創設を提唱します。

「高校生グリーンデイ」は世界共通で設置し、その日は環境・エネルギーの重要性を認識するための共通プログラムを実施します。

★ 私たちは求めます。(国や社会に対しての要望)

ｅｘ）全世界規模の環境税の実施を求めます。

★ これからの社会をよりよくするために

（２１世紀に向けて私たちはどのような意識をもつべきか。）

ｅｘ)私たちはＩＴを環境問題や、人口問題の解決や、そのための教育に利用します。

理由も明確に示そう。

国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律

資料①

平成６・６・29・法律　７９号
改正平成11・12・22・法律１６０号(未)（施行＝平13年１月６日）

（目的）

第１条　この法律は、我が国における国際会議等の開催を増加させ、及び国際会議等に伴う観光その他の交流の機会を充実させることが、外国人観光旅客の来訪の促進及び外国人観光旅客と国民との間の交流の促進に資することにかんがみ、国際会議等の誘致を促進し、及びその開催の円滑化を図り、並びに外国人観光旅客の観光の魅力を増進するための措置を講ずることにより、国際観光の振興を図り、もって国際相互理解の増進に寄与することを目的とする。

（定義）

第２条　この法律において「国際会議等」とは、会議、討論会、講習会その他これらに類する集会（これらに付随して開催される展覧会を含む。）であって海外からの相当数の外国人の参加が見込まれるもの並びにこれらに併せて行われる観光旅行その他の外国人のための観光及び交流を目的とする催しをいう。

（基本方針）

第３条　運輸大臣は、国際観光の振興を図るため、国際会議等の誘致を促進し、及びその開催の円滑化を図り、並びに国際会議等に参加する外国人観光旅客の観光の魅力を増進するための措置（以下「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等の措置」という。）を講ずることによる国際観光の振興に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を定めなければならない。

２　基本方針においては、次に掲げる事項について定めるものとする。

国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等の措置を講ずることによる国際観光の振興に関する基本的な事項

国際会議等の誘致の促進に関する事項

国際会議等の開催の円滑化に関する事項

国際会議等に参加する外国人観光旅客の観光の魅力の増進に関する事項

国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務に従事する者の養成に関する事項その他国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等の措置を講ずることによる国際観光の振興に関する重要事項

３　運輸大臣は、基本方針を作成するに当たっては、あらかじめ、外務大臣、文部大臣及び通商産業大臣の意見を

聴かなければならない。

4　運輸大臣は、基本方針を定めようとするときは、関係行政機関の長に協議しなければならない。

5　運輸大臣は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

6　運輸大臣は、情勢の推移により必要が生じたときは、基本方針を変更するものとする。

7　第３項から第５項までの規定は、前項の規定による基本方針の変更について準用する。

（認定）

第４条　市町村（特別区を含む。以下同じ。）は、申請により、その区域において国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等の措置を講ずることが国際観光の振興に特に資すると認められる旨の運輸大臣の認定を受けることができる。

2　前項の認定を受けようとする市町村は、次に掲げる事項を記載した申請書を運輸大臣に提出しなければならない。

国際会議場施設その他の国際会議等の用に供する運輸省令で定める施設の概要及び規模

国際会議等に参加する者の利用に供する宿泊施設その他の運輸省令で定める施設の概要及び規模

国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務を実施する体制

当該市町村の区域又はその近傍に存在する観光資源の概要

第５条　運輸大臣は、前条の規定による認定の申請が次に掲げる要件に適合すると認めるときは、その認定をするものとする。

運輸省令で定める基準に適合する前条第２項第１号に規定する施設が整備されていること又は整備されることが確実であること。

国際観光ホテル整備法（昭和24年法律第279号）第３条の登録を受けたホテルその他の前条第２項第２号に規定する施設で運輸省令で定める基準に適合するものが整備されていること又は整備されることが確実であること。

専ら国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務として運輸省令で定めるものを実施する機関その他の国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務を適確に遂行するに足りる体制が整備されていること。

当該市町村の区域又はその近傍に国際会議等に参加する外国人観光旅客の観光の魅力の増進に資する観光資源が存在す

ること。

2　運輸大臣は、2以上の市町村から共同して前条第1項の申請があった場合において、自然的経済的社会的条件からみて、当該市町村の区域において一体として国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等の措置を講ずることが国際観光の振興に特に資すると認められるときは、当該市町村を一体として同項の認定をすることができる。

（認定の公示等）

第6条　運輸大臣は、第4条第1項の認定をしたときは、遅滞なく、その旨を公示しなければならない。

2　第4条第1項の認定を受けた市町村（以下「国際会議観光都市」という。）は、同条第2項各号に掲げる事項に運輸省令で定める変更があったときは、遅滞なく、その旨を運輸大臣に届け出なければならない。

（認定の取消し等）

第7条　運輸大臣は、国際会議観光都市が第5条第1項各号に掲げる要件のいずれかに適合しなくなったと認めるときは、その認定を取り消すことができる。

2　前条第1項の規定は、前項の規定による認定の取消しについて準用する。

（国際会議等の誘致を促進するための措置）

第8条　国際観光振興会（以下「振興会」という。）は、国際会議観光都市について、国際会議等の誘致を促進するため、次に掲げる措置を講じなければならない。

国際会議観光都市に対し、国際会議等の誘致に関する情報を定期的に、又は時宜に応じて提供すること。

海外において国際会議観光都市の宣伝を行うこと。

2　前項に定めるもののほか、振興会は、市町村が行う国際会議等の誘致に関する活動を支援するため、必要に応じて、海外における関係機関との連絡調整、助言その他の措置を講ずるよう努めなければならない。

（国際会議等の開催の円滑化を図るための措置）

第9条　振興会は、国際会議観光都市において開催される運輸省令で定める国際会議等の開催の円滑化を図るため、寄附金を募集し、及び当該国際会議等を主催する者であってその開催に要する資金の援助を必要とするものに対し、交付金を交付するよう努めなければならない。

2　前項に定めるもののほか、振興会は、国際会議等の開催の円滑化を図るため、必要に応じて、通訳案内業を営む者、旅行業を営む者その他の関係者のあっせん、国際会議観光都市以外の市町村において開催される同項の運輸省令で定める国際会議等の開催についての交付金の交付その他の措置を講ずるよう努めなければならない。

（外国人観光旅客の観光の魅力を増進するための措置）

第10条　振興会は、国際会議等に参加する外国人観光旅客の観光の魅力を増進するため、国際会議等が開催される市町村の区域又はその近傍に存在する観光資源を活用した外国人観光旅客の観光に資する催しの実施に関する情報の提供、助言その他の措置を講ずるよう努めなければならない。

（振興会の業務）

第11条　振興会は、国際観光振興会法（昭和34年法律第39号）第24条第1項に規定する業務のほか、国際観光の振興を図るため、次の業務を行う。

国際会議等の誘致に関する情報の提供その他の国際会議等の誘致の促進に関する援助を行うこと。

国際会議等の開催についての寄附金の募集及び管理並びに交付金の交付その他の国際会議等の開催の円滑化並びに外国人観光旅客の観光の魅力の増進に関する援助を行うこと。

国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務に従事する者その他の関係者に対する研修を行うこと。

国際会議等の誘致及び開催に関する調査及び研究を行うこと。

前各号の業務に附帯する業務

（区分経理）

第12条　振興会は、前条第2号の業務のうち国際会議等の開催についての寄附金の募集及び管理並びに交付金の交付に係る業務（これに附帯する業務を含む。）に係る経理については、その他の経理と区分し、特別の勘定を設けて整理しなければならない。

（国際観光振興会法の特例）

第13条　第11条の規定により振興会の業務が行われる場合には、国際観光振興会法第33条及び第34条第2項中「この法律」とあるのは「この法律及び国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」と、同法第41条第3号中「第24条第1項」とあるのは「第24条第1項及び国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律第11条」とする。

（国等の援助等）

第14条　国は、振興会、国際会議観光都市その他の市町村及び国際会議等を主催する者に対し、国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等の措置に関し必要な助言、指導その他の援助を行うよう努めなければならない。

2　地方公共団体は、国際会議等を主催する者に対し、国際会議等の開催の円滑化及び外国人観光旅客の観光の魅力の増進に関し必要な助言、指導その他の援助を行うよう努めなければならない。

3　前２項に定めるもののほか、運輸大臣、振興会、関係地方公共団体、関係団体及び関係事業者は、国際会議等の開催の円滑化及び外国人観光旅客の観光の魅力の増進に関し相互に連携を図りながら協力しなければならない

資料②

第4章 観光レクリエーションの振興

第1節 観光の振興

1 国際観光の振興
2 90年代観光振興行動計画(TAP90's)
3 観光資源の保存・活用を通じた観光の振興
4 魅力ある観光地づくり
5 旅行の振興

1 国際観光の振興

(1) 外国人訪日旅行の促進

(ア) 外客誘致活動の充実

国際経済社会における相互依存関係が高まる中で、国際的な友好・信頼関係の増大は国家存立の絶対条件であり、外国人観光旅客(以下この章において「外客」という。)の誘致は、文化的背景の異なる諸国との相互理解・相互交流の機会を提供し、市民レベルでの国際親善を進めていく上で、重要な意義を有している。

しかしながら、5年の訪日外客数は341万人と日本人海外旅行者数1,193万人の約29%にとどまっており、近隣アジア諸国に比べても低い水準となっている。また、円高の進行により対日旅行費用の高騰が進む状況の下、外客数は伸び悩んでいる現状にある。

このため、運輸省としては外客誘致活動の充実を図るため以下の施策を重点的に推進している。

(イ) コンベンション法の制定等

(a) コンベンション法の制定及び国際コンベンションの振興

国際コンベンションの振興は、国際的な相互理解・友好関係の確立に寄与するとともに、地域観光需要の増大を通じた地域経済の活性化及び地方の国際化を図るうえで重要な課題である。

しかし、我が国の国際会議の開催件数は情報や都市の知名度の不足、滞在費用の高さ等の理由から欧米諸国に比較してまだまだ少なく、都市別に見ても欧米の主要都市はもとより、アジアのシンガポール、香港にも水をあけられている。

一方、我が国の国際会議の開催件数の伸びは極めて大きく、昭和63年から平成4年の5年間に、世界の伸びが4%であるのに対し、我が国の伸びは31%となっている。

また、各地方都市において大規模なコンベンション施設の整備、コンベンション推進機関の設立・活動が進むにつれ、国際コンベンションの地方分散が大幅に進む等地方都市における国際コンベンションの振興に対する取組みが着実に進展しつつある。

このように現状では、実績面で立ち遅れ状態にある我が国の国際コンベンションも、その振興を図るうえでの環境の整備は進展しつつあり、6年6月に成立した「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」(コンベンション法)に基づき、国、国際観光振興会及び地方自治体が一体となって総合的な振興策

を講じていくことが必要である。

このための第一歩として、同年10月、コンベンション法に基づき、運輸大臣は札幌市をはじめとする40都市を「国際会議観光都市」として認定した〔2－4－1図〕。

国際観光振興会は、認定を受けた都市に対して国際会議等の誘致を促進するため、国際会議等の誘致に関する情報の定期的提供、海外における国際会議観光都市の宣伝等を行うとともに、国際会議観光都市において開催される一定の要件を満たす国際会議等の開催の円滑化を図るため、寄付金の募集、交付金の交付等を行う。

運輸省では、コンベンション法の施行により、21世紀初頭には我が国で開催される国際会議等の開催件数を2倍にすることを目標としている。

(b) 国際会議場の整備

民活法に基づき、整備計画の認定を受け国際会議場の整備を行う民間事業者に対し支援を行っており、5年度までに3施設に係る整備計画の認定を行った。

そのうち、横浜国際平和会議場については、3年7月より、宇奈月国際会館については、5年8月より、それぞれ供用を開始している。また、4年7月に認定したりんくうゲートタワービル国際会議場（大阪府泉佐野市）については、引き続き整備を推進しているところである。

(ウ) 国際観光振興会の改革

運輸省においては、外客の来訪を促進するため、海外における日本の観光宣伝、外客に対する観光情報提供等を国際観光振興会を通じて実施している。

振興会はより効果的な外客誘致を行うため、事業実施体制等の改革を実施しており、6年度から国際コンベンションの振興、海外プロモーションの振興関係業務等を中心として具体的な外客誘致効果の得られる事業を拡大する一方、既存の案内関係業務の合理化を進めている。

今後は21世紀に向けた諸状況の変化に適応した事業運営体制を確立するとともに、地方公共団体や関係業界との協同体制を確立し、日本旅行に関する各種の旅行情報の戦略的提供、地域に対応した的確なマーケッティングに基づく旅行の開発、外客に対する受入れ体制の充実等の施策の積極的展開を通じて訪日旅行の拡大を図っていく必要がある。

(エ) 登録ホテル・旅館等の整備

運輸省では、訪日外国人の利便の増進、国際観光の振興の観点から、国際観光ホテル整備法に基づき、ハード・ソフト両面で外国人客の宿泊に適したホテル・旅館の登録を行い、税制上の優遇措置等により、その整備を推進するほか、これらの登録ホテル・旅館に関する情報を外国人に提供している。また、国際観光レストラン登録規程に基づき、外客が容易かつ快適に食事ができる優秀なレストランについても登録を行い、その整備を推進しており、観光に欠くことのできない宿泊及び食事の両面から外客接遇の充実を図っている。登録基準の緩和等の措置を講じて、ハード・ソフト両面からの充実を図っている。

なお6年9月末現在、846軒のホテル、1,808軒の旅館及び147軒のレストランが登録されている。

(2) 国際交流及び国際協力の推進

(ア) 世界観光大臣会議等の開催

6年11月2日から6日まで、大阪市において、世界初の観光サミットである「世界観光大臣会議」を中心とした「OSAKAワールド・ツーリズム・フォーラム'94」が開催された。

本フォーラムは、6年9月に開港した関西国際空港の開港を記念して、国際社会における相互理解と友好の促進を図るための観光の重要性を世界に向けて訴えることを目的として開催したものである。

「世界観光大臣会議」においては世界の78の国及び地域、18の州及び5の

資料③

Kyushu-Okinawa Summit Meeting 2000

サミットへの道のり

G8 高校生サミット
～21世紀・世界の共生をめざして～
提言

私たちG8高校生サミット参加国代表は、九州・沖縄サミットに先立ちここ沖縄に集いました。この一週間私たちは沖縄の青い海に潜り、自然の豊かさを体験しました。また「慰霊の日」の式典に参加し、平和の尊さを知りました。また首里城や伝統芸能を見学し、沖縄が昔からアジアとの交流の拠点となってきたことを知りました。そして、この沖縄で2日間、環境・平和・経済について国を超え、問題解決のためのアイデアを出し合い、「21世紀・世界の共生をめざして」というテーマのもとに議論を深めました。

このG8高校生サミットで、私たちは、実行可能で効果が期待できる具体的な提言を世界に向けて発信したいと思います。

私たちは取り組みます

1. 「高校生グリーンデイ」の創設を提唱します。

   「高校生グリーンデイ」は世界共通で設置し、その日は環境・エネルギーの重要性を認識するための共通のプログラムを実施します。

2. 私たちは世界の高校生の交流を活発にします。これについて各国政府の理解と支援を求めます。

   (1)ユースサミットをG8サミットに合わせて毎年開催します。
   (2)私たちの交流を紛争当事国や発展途上国の高校生との交流に発展させます。
   (3)持続的な交流を行うために、世界の高校の単位の共有化を求めます。

私たちは求めます

3. 全世界規模の環境税の実施を求めます。

   この税はCo_2の排出量やエネルギー消費量などに対して課税します。
   集めた税金は環境技術の開発や環境教育など国境を超えた環境対策のために使います。

4. 国連機関内に「平和パネル」の設置を求めます。

   (1)「平和パネル」は紛争の解決に向け、国連事務総長に勧告と助言をし、世界に向けてアピールします。
   (2)「平和パネル」は世界の良心を代表する個人で構成されます。
   (3)「平和パネル」には若者の声を伝えます。

5. 開発途上国援助のための監視・評価システムの設置を求めます。

このシステムは、専門家による格付けや助言などによって援助の透明性を高め、公正で効果的な援助が行われることを目指します。

21世紀へ向けて

私たちは、「インターネット第一世代」であることを自覚し、ITが全世界に広まり、すべての人々がこれに容易にアクセスできる環境を実現するようアピールします。

(1)私たちはITを、世界の紛争や人権問題を解決するための相互理解のために利用します。
(2)私たちはITを、環境問題や人口問題の解決や、そのための教育に利用します。

私たちは、個人やNGOの役割がきわめて重要になっていく歴史的な転換点に立っています。
21世紀は、私たち若者が主役です。
私たちは、平和で明るく豊かな未来を創り上げるために、世代や人種、性別、信条を超えて世界中の人々と手を取り合い行動することを決意します。

2000年6月25日　沖縄にて
G8高校生サミット参加者一同

Copyright : 2000 The Government of Japan

G8 高校生サミット
概要

1. 趣旨

2000年の九州・沖縄サミットに先立って、次の時代を担うG8の若者たちによるサミットを沖縄で開催する。「平和」「環境」「経済」の3つの角度から若者ならではの純粋な視点で意見交換を行い、21世紀の世界像を展望する。その意見は提言としてまとめ、世界に向けてアピールを行う。

2. 名称

日本語G8 高校生サミット
～21世紀・世界の共生をめざして～
英　語 G8 YOUTH SUMMIT, OKINAWA 2000
～Living Together in a Better World in the 21st Century～

3. 主催

G8高校生サミット実行委員会

4. 後援

総理府、外務省、文部省、沖縄県

5. 日時

2000年6月20日（火）～27日（火）
2000年6月24日（土）分科会（平和・環境・経済）
2000年6月25日（日）本会議

6. 会議場所

沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）

7. 参加者

アドバイザー
岡本行夫氏　元総理大臣補佐官、岡本アソシエイツ代表
黒田玲子氏　東京大学大学院総合文化研究科教授
竹中平蔵氏　慶応義塾大学教授

司会
今井義典　NHK国際放送局長

鹿島綾乃 NHKアナウンサー

学生
国内 沖縄、宮崎、福岡の3県3名ずつ(計9名)
海外 各国3名ずつ(計21名)

引率者
国内 沖縄、福岡、宮崎の代表1名
海外 各国1名ずつ(計7名)

8. テーマ

テーマ1「平和と紛争～隣り合う国々との友好の条件～」
テーマ2「環境破壊から地球をどう守るか～私たちにできること～」
テーマ3「ゆたかな暮らしをめざして～先進国の役割と責任～」

Copyright : 2000 The Government of Japan

議題一覧

資料④

【法律】について

ｅｘ)) 少年法
盗聴法
男女雇用機会均等法
臓器移植法
ストーカー法
民法

【福祉】

ｅｘ)) 老人介護
身体障害者
知的障害者と教育
介護保健制度
母子家庭について
国の保証制度の見直し

【教育】

ｅｘ)) 不登校や学級崩壊など
受験のあり方（塾含む）
幼児教育
生涯教育
家庭教育
インターネットを代表とするマルチメディア教育のあり方

【医療】

ｅｘ)) 臓器移植と医学倫理（脳死）
看護婦について
老人医療と介護
終末期医療（尊厳死含む）
医療ミス
精神病など

【地域社会】

ｅｘ)) 最近のマナー意識（携帯等）
地域教育
核家族化
セクシャルハラスメントや女性の社会進出
家庭と地域共同体の関係

【政治】

ｅｘ)) 選挙制度
大統領制の導入（直接民主制とかも）
政党のあり方
議会制度のあり方（二院制とか）
国家のあり方
天皇制
官僚政治

この中からひとつ選ぼう

資料⑤

Kyushu-Okinawa Summit Meeting 2000

サミットへの道のり

G8 高校生サミット
環境分科会報告

私たち環境分科会は、長期的・短期的な2つの視点から環境対策を行うことを提案します。

長期的視点の立場からは世界共通の教育を行い、意識改革を行います。

具体的な例としては、まず、水、エネルギー資源の節約を徹底させます。

例えば3R、つまりリデュース(reduce)で消費の削減をし、リユース(reuse)で製品の再利用をし、そして最後にリサイクル(recycle)をするという教育を徹底します。特に、リサイクルに関してはグリーンポイントカードを学校で作成します。このカードには資源ゴミを持ってくることでポイントが貯まり図書券などがもらえるといった特典がつきます。

次に、国際グリーンデイを国際的休日として創設します。この日の決まった時間に、電気を止めてみることで電気の大切さを学びます。ただし、病院等の重要な施設は除きます。また、女性の教育レベルが向上すると妊娠率が低下するというデータが報告されています。そこで発展途上国における基礎教育を充実させることで、人口爆発の問題を解決していきます。

短期的視点からは2つの提案をします。1つは、全世界的規模での環境税導入です。この税をグリーン・テクノロジーの開発や環境教育を行うための財源にします。税はCO_2 排出量とエネルギー消費量に対してかけます。また、税率は国のGNPに比例して徴収します。

2つ目に、環境に優しい技術の発展のためにNGOを設立します。

そのNGOは環境技術の特許を一手に扱い、その技術を全世界に提供し資金を得ます。その資金は、主に環境技術の研究推進のために使用します。そしてゆくゆくは独立採算性を確保し、より公平な立場から世界の自然環境を守ります。

また、提供する環境技術の価格は裕福な国には高く、貧しい国には安くします。これで発展途上国の負担が軽くなり、より健全な経済発展が可能となります。

以上が環境分科会の報告です。

Back Top

Copyright © 2000 The Government of Japan

G8 高校生サミット
平和分科会報告

私たち平和分科会は次の3つのことを提案します。

提案1。
国連が本来の役割を果たせば紛争は大幅に減少します。しかし、今の国連には安全保障理事会の拒否権などがあってうまく機能していません。
だから、平和をつくる本来の機能を回復させなければなりません。そこで、デスモンド・ツツ大司教のような世界の良心を代表する個人からなる独立的な機関を国連に作るべきです。その組織の名前を「平和パネル」(インディペンデントピースパネル 略称IPP)とします。その各委員は政府の代表であってはなりません。
平和パネルは事務総長と加盟国に勧告を行い、また紛争当事国が国際司法裁判所などの国際機関の調停を受け入れるよう勧告してもらいます。

提案2の1。
高校生や学生の組織を平和パネルのもとに作ります。そして、インターネットや手紙などを通じて、世界中の若者から集めた意見を平和パネルに伝えます。更に国連の政策にそれらの意見が反映されるようにします。
提案2の2。
紛争を止めさせるためには、世界の紛争や人権違反の実態やグローバルな関係を人々に正確に報道することが大切です。平和パネルにこうしたことも議論してもらい、公正な報道を行う部局を国連の中に作ってもらいます。

提案3。
紛争の理由の一つには相互理解がないことが挙げられます。相互理解のためにも、若い世代の交流はとても大切です。そこで紛争当事国の高校生同士の交流プログラムを、G8各国政府が協力して実現させます。例えば、イスラエルとレバノン、またはインドとパキスタンなどの対立国の高校生を10名ずつ招き、数カ月の共同生活をしながら、一緒に学習するプログラムを作成します。このプログラムはG8各国に、順番にホストしてもらいます。
参加した高校生はその体験を、インターネットなどを通じて世界中の若者に広めると同時に、国連の平和パネルに報告し紛争の終結を訴えます。
以上が平和分科会からの提案です。

Copyright : 2000 The Government of Japan

G8 高校生サミット
経済分科会報告

経済分科会では、先進国から発展途上国への経済援助についての議論が主になされました。

具体案として、まずスーパー援助監視委員会の設立が提案されました。これは先進国が行う援助に使われる資金の流れを監視する機関です。現在、発展途上国内での援助資金の流れは不透明で非効率的と指摘されています。この委員会が監視をすることにより、資金の分配方法の改善と透明性を高め、公正な資金運用を目指すものです。また、保険会社や証券会社などに対して行っている民間の格付け機関を参考にした制度の導入も話題になりました。

2つ目は、主に国家間や国際機関を通して行われている資金援助のほかに、個人に無担保で融資する銀行を設立する案です。これには事業の将来への明確なプランを持つというような条件が必要になってきます。

3つ目に、これらの提案達成に必要な資金調達方法として、途上国と原料を取り引きしている多国籍企業への課税や、国際的な宝くじの売上げの収益金を利用する案が出ました。

そのほかにITを使った市場の拡大案があり、先進国に対してはITの基準づくりを、発展途上国にはITに乗り遅れないように、食料援助と同じように教育と資金援助を行うことが議論されました。もちろん、これは発展途上国の経済レベルやニーズに応じた援助です。

食糧、医療をはじめとした人道的援助を継続するとともに、ITに対応するための教育や情報通信の基盤整備も大きな課題だと考えられます。

その解決なくしては南北間の経済格差は更に広がる恐れもあります。従って、ITが経済の分野のみならず、21世紀の世界共生に必要不可欠のキーワードとなることは間違いありません。

また、先進国がGDPの割合に応じて発展途上国5ヵ国の里親になってファミリーを作り、更にファミリー間の競争による効率のよい経済発展を促すという案や、途上国が抱える債務を帳消しにするという案も出ました。

国際援助の必要性は万人が認めるところです。しかし一方で、その援助方法に多くの課題があるのも事実です。先進国の途上国に対する理解と協力は、今後とも重要視されるべきでしょう。途上国の発展なしに先進国の発展はあり得ないからです。

しかし、今回の分科会ではテーマに対する各々の認識のズレがあったことは否めません。

世界の経済問題は南北問題だけなく、そのほかにも重要な問題は数多くあります。私たちは南側の変化を促すだけでなく自らも変化する必要があります。豊かさのあり方は先進国自身にも問われているのです。

Copyright : 2000 The Government of Japan

Kyushu-Okinawa Summit Meeting 2000

サミットへの道のり

G8 高校生サミット
問題解決アイデア一覧

平和分科会 問題解決アイデア一覧/Peace: Ideas to solve problems

国／Country	名前／Name	題	Title
沖縄県 Okinawa	喜屋武 百合子 KYAN, Yuriko	国際平和ユース委員会	Youth committee for global peace
宮崎県 Miyazaki	小澤 あさひ OZAWA, Asahi	地球平和共和国構想	Project to build a global peace republic
福岡県 Fukuoka	増冨 篤 MASUTOMI, Atsushi	国連相互理解力開発機構設置案	Establishment of the United Nations Mutual Understanding Develop Committee (UNMUDeC)
カナダ Canada	キャサリン ヒューズ Katherine HUGHES	平和のためのノンコマーシャルメディア	Impartial broadcasting system to create better understanding of conflicts
フランス France	マチュー イサーテル Matthieu ISSARTEL	新EU(平和の目的)の創設	Establishment of a new EU to achieve peace
ドイツ Germany	ゼバスチャン ライヒャウ Sebastian REICHAU	国連にかわる紛争調停独立機関	Independent Organization providing alternative to the UN for dispute arbitration
イタリア Italy	フェデリコ ルカリエッロ Federico LUCARIELLO	世界移動教室	Classroom Trip around the world
ロシア Russia	ドゥミトリ ツゥカツェンコ Dmitri TKATCHENKO	相互尊重論	"Mutual respect for the interest of every country" theory
イギリス UK	リディア ストックデール Lydia STOCKDALE	武器取引規制強化案	Tighter control Tighter control or arms trading
アメリカ USA	ケイト コーリヤー Kate COLLYAR	紛争国間貿易量倍々大作戦	Project to increase trade between conflicting ethnic groups

環境分科会 問題解決アイデア一覧/ Environment: Ideas to solve problems

国／Country	名前／Name	題	Title
沖縄県 Okinawa	濱田 好恵 HAMADA, Yoshie	地球環境国際法制定	Enactment of international environmental law
宮崎県 Miyazaki	冨永 和也 TOMINAGA, Kazuya	CO2 宇宙放出計画	CO2 Emission Project to outer space
福岡県 Fukuoka	梅井 寿乃 UMEI, Hisano	1回世界の電源を落としてみよう	Why don't we once shut off the electrical power source
カナダ Canada	タン サン ニュエン Tung Thanh NGUYEN	環境教育システム大改革	Evolution of global environmental studies
フランス France	フィリップ ゴネ Philippe GONNET	水資源管理国際システム設置	Setting up of an international system of water resource conservation
ドイツ Germany	フェリックス ヴァインハルト Felix WEINHARDT	環境テクノロジー市場展開作戦	Project to develop the marketing of environmental technology
イタリア Italy	ガブリエラ グラツィアーノ Gabriella GRAZIANO	リサイクルポイントカード作り案	Creating a "recycle-point card system"
ロシア	スターサラフ バグダサロフ	ゴミリサイクル研究機	Invention of new technology for waste

ロシア Russia	スタニスラフ バグダサロフ Stanislav BAGDASSAROV	廃棄物リサイクル新技術進案	Invention of new technology for waste recycling
イギリス UK	マシュウ ハミルトン Matthew HAMILTON	環境カリキュラム義務教育化構想	Creation of Environmental curriculum in compulsory education
アメリカ USA	マウラ クラッグマン Maura KLUGMAN	女性への教育向上による妊娠率減少作戦	Conserving the environment by educating women and decreasing the population

経済分科会 問題解決アイデア一覧/ Economy: Ideas to solve problems

国／Country	名前／Name	題	Title
沖縄県 Okinawa	友寄 隆智 TOMOYOSE, Takatoshi	先進国豊かさモデルチェンジプラン	Change the value of affluence in the advanced countries
宮崎県 Miyazaki	福島 愛 FUKUSHIMA, Ai	サミット全世界持ち回り大作戦	Holding the summit meetings in all countries in the world
福岡県 Fukuoka	佐々本 耕平 SASAMOTO, Kohei	それゆけ！国境なき仲人団	Let's send Arbitrators beyond national boundaries"
カナダ Canada	ロビン ハッチンソン Robyn HUTCHISON	途上国からの原材料確保課税案	Taxation plan imposed for Multi-national corporations operating in the Third World
フランス France	ローレンス シャルベ Laurence CHARVET	途上国のためのテクノロジー提供法	Providing technology to country in needs
ドイツ Germany	フィリップ エルカー Philippe ERKER	開発支援五ヶ国ファミリー作り構想	Forming a one to five alliance of industrialized county and the third world countries
イタリア Italy	レナート ヴィスカルディ Renato VISCARDI	途上国返済ファンド設立	Establishment of debt settlement funds to pay off the developing countries debts
ロシア Russia	ドゥミトリ ソコロフ Dmitri SOKOLOV	みんなの消費心理を変えよう	An attempt to change our mentality of consumption
イギリス UK	ダニエル ヒル Daniel HILL	スーパー援助監視委員会構想	Establishment of multinational monitoring committee for supervising aid expenditures
アメリカ USA	クィン ニー ニュエン Quyen Nhi NGUYEN	無担保個人貸付銀行設立案	Establishment of an international, non-governmental credit bank specializing in impoverished individuals in the developing countries

Copyright : 2000 The Government of Japan

資料⑥

（招待状の例）

様

向寒の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。
この度、私たちのクラスでは、企画運営力を身につける授業の一環として、生徒自身の手で会議を企画・実施することとなりました。つきましては、当日の会議に生徒以外の方々にも参加して頂きたいと思っております。何かとお忙い時期でしょうが、よろしければぜひ足をお運びください。

・日時　平成十二年十二月七日
・場所　〇〇高校　二階　会議室
・議題　「　　」について
※詳しくはプログラムを御参照下さい。

平成十二年十二月一日
〇〇高校二年〇組一同

資料⑦

○開会宣言
○パネリスト紹介
○パネリストによる発表

第１班

ＣＯ２宇宙放出計画

集められた二酸化炭素は大型ロケットを使って火星に送ります。火星では、北極と南極で巨大な爆発を起こし氷を溶かします。その後運んできた二酸化炭素によって急激な温暖化を起こし平均気温を引き上げるとともに氷をより多くとかします。その後溶けた氷の水から酸素を生成、植物を植えて火星を地球化します。

第２班

一回世界の電源を落としてみよう

人々の意識改革のために世界の電源を落としてみよう1時間昼間に送電をストップさせます。 そして人々は電気の大切さを体験によって知ることになります。そこで節電意識が生まれます。さらに世界規模でこのようなことを行なうことによって地球全体での連帯感が生まれ、節電以外での効果も期待できます。

第３班

環境税を導入しよう

今世界で問題となっている環境問題の最大の原因は世界が １ つになりきれていない点です。多種多用な環境問題解決に対して何故各国単位で取組が異なるのですか?私の案は世界共通環境国際法の制定です。まず第一に温室効果ガス及び総エネルギー使用量に対する全世界の環境税導入です。そして排出権の撤廃を求めます。「出して良い」権利などありません。各国単位で国内企業の監視取り締まりを行ってもらいます。なおエネルギー量に関しましては二酸化炭素に換算し規制を行います。

第４班

ゴミ軽量改革

スーパーなどで売られているものには過大な包装がしてあります。例としては肉類を買った時のトレーなどがあげられます。これらは燃やすとダイオキシンなどが発生する可能性もある上、再利用も難しいです。そこで、これらのトレーを使わず、昔の商店街のように簡素な包装にしてはどうでしょうか。野菜類なども量り売りにできれば、家計的にもメリットがあります。

第５班

環境に優しい技術開発の促進

最近環境に優しい車などがCMなどでも多く取り上げられていますが、なかなか普及していないのが現状です。購入にお金がかかるのがその原因のひとつに挙げられます。そこで、国や行政がもっと研究開発費を度してはどうでしょうか。また、自動車会社が独自に研究するのではなく大学などとの連携がとれれば、もっと開発事業は促進されると思います。

第６班

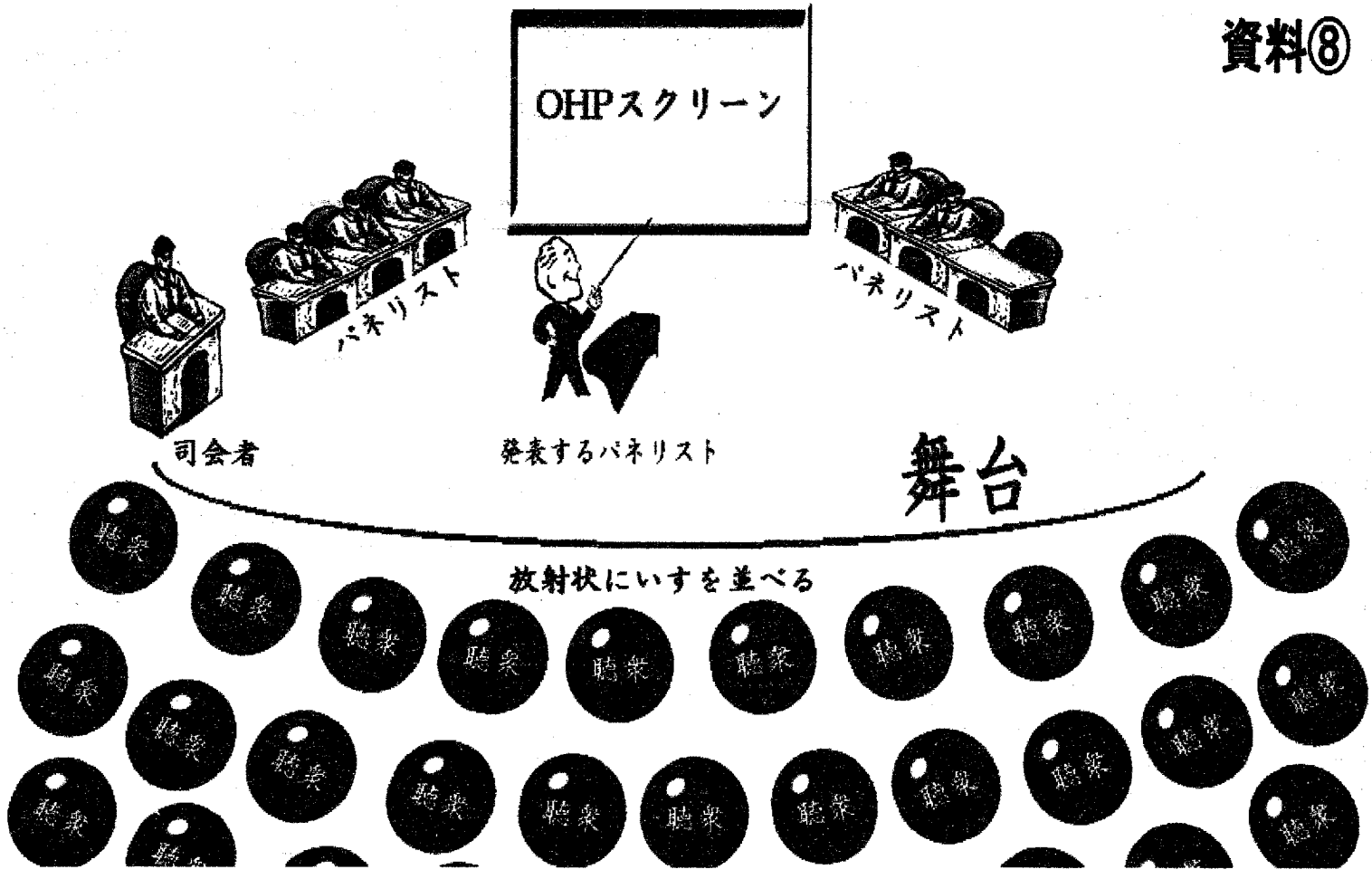
発展途上国での女性の社会進出を目指そう。

現在発展途上国では女性の教育や社会進出が遅れているため、生率が高く食糧難を招いているという問題があります。そこで女性の教育や社会進出にもっと力を入れて意識の面から改革し、出生率を押さえるというのはどうでしょうか。実際には
資金援助によって学校や会社などを設立し、積極的に女性の活躍の場を広ていきたいです。

○質疑応答
○全員による討論
○発表を終えての言葉（パネリスト）
○閉会宣言

※提言については後日また文書にて報告いたします。

資料⑧



第５維束

社会に通用する国語力の育成を

第１節　個人と社会とのバランス感覚の育成

第２節　“説得の手紙を書く”そして
“英文レター及びＥメールの書き方”

第五維束　第一節　社会に通用する国語力の育成を
【個人と社会とのバランス感覚の育成】

片江あゆみ　工藤由美子　永田麻詠

1．維束のねらい

公用文の存在を知り、社会に出たときには、これまで用いていた文章とは違った、公的な文章を書かなければならないことがあることに気付かせる。また、インターネットや書物などを用いて、必要な情報を自ら検索し、取り入れることができるようにさせる。学習者にとって身近なことを、公用文として書かせることで、目的意識を持って作業できるようにさせる。そして、公用文のきまりを知った上で、その内容に沿った適切な言葉を選択し、書くことができるようにさせる。

2．学習者観

対象学年：高校三年生

友達同士でメールの交換などが頻繁に行われている現在、学習者達の用いる文章は、より私的なものになってきている。また、これまでも形式的な文章を書く機会がなかったため、社会に出たときに実際必要となってくる公的な文章、つまり公用文については、ほとんど知識を持っていない。高校三年生になり、就職・進学を目前に控えて、今後、公用文を書く機会も増えてくるであろう。しかし、公用文と普段用いている文章の違いを知らない学習者にとっては、的確に言葉を選択し、公的な文章を書くことは非常に困難である。

なお、今回、設定を高校三年二学期の体育祭直前にすることによって、「体育祭開催における騒音のお詫び」というテーマでの公用文を、より興味を持って作成することができると思われる。

3．維束観

- 公用文と、これまで書いていた文章の違いを知ることができる。
- 書く内容に沿った適切な言葉を選択し、文章を書くことができる。
- 必要な情報を自ら検索し、取り入れることができる。
- 目的意識を持って、調べ学習を行うことができる。
- 調べたことをまとめ、発表し、誤りについては修正することができる。

指導目標

○公用文の重要性や必要性を理解し、様々な様式に触れさせる。

○私的なものと公的なものとの違いを押さえ、個人と社会とのバランス感覚を身につけさせる。

○自己学習によって、実際に公用文が書ける力を養う。

指導計画

次	時	指導目標	指導内容	指導上の留意点
第一次	第一時	○公用文とは何かを押さえさせ、私的なものと公的なものとのバランスを理解させる。 ○公用文の重要性、必要性に気付かせる。	○実際の公用文（不備のあるもの）を配布し、誤りを指摘する。（ワークシート①） ○公用文のマニュアル（『JIS 工業規格』『文化庁の公用文書式』）を示す。 ○実際に公用文を書かせるための課題（ワークシート②）を配布する。 ○次時で １、時候のあいさつ ２、お詫び状の書き方 ３、招待状の書き方 の三項目について、各班で調べさせることにも触れておく。 ○六人一班を作らせ、班内で検索する担当を決めさせる。 ○次時の予告	○公用文について知っておかないと、社会で通用しないことを強調する。 ○ここでは、体育祭のお知らせとお詫びについて文書を作成させる。 ○三項目の振り分け、また検索ツール（インターネット、書物など）の振り分けもさせる。
第二次	第二時・第三時	○公用文の作成の仕方について、自ら調べて学習させる。 ○自ら学習した内容を整理させ、実際に公用文を書くことができる。	○班ごとに、担当の項目をそれぞれのツールで調べさせる。 ○実際に公用文を作成させる。（班活動） ○最後に、完成した文書を回収する。 ○次時の予告	○学習者の質問に随時対応できるように配慮する。 ○机間指導を充実させ、適宜助言できるようにする。 ○回収した文書はそれぞれクラスの人数分コピーし、原案にはコメントを添える。

	第四時	○作成した公用文を他の学習者に解説することができる。 ○他者の質問や指摘に対し、きちんと対応させる。 ○他学習者の作成した公用文と自分の公用文を比較し、知識を広げさせる。	○全ての文書をクラス全員に一枚ずつ配布する。 ○苦労した点、工夫した点などを班ごとに話し合わせる。 ○ワークシート③を配布する。 ○各班順番に発表させ、質疑応答の時間も与える。発表以外の学習者は、ワークシート③を記入しながら発表を聞く。 ○次時の予告	○机間指導をする。 ○質問だけでなく、感想、助言なども発表させる。
第三次	第五時	○他者の指摘を考慮した上で、文書を手直しさせる。 ○自ら作成した文書を、相手に渡すことができる。	○コメント付きの原案を配布する。 ○前時の質疑応答での指摘も踏まえた上で、各班手直しをさせる。 ○担当の家（学校周辺の住民）を割り当てる。 ○手直しのできた班から配布分コピーさせ、直接渡させる。	○原案のコメントも踏まえさせる。 ○机間指導をする。 ○訪ねる際、きちんと挨拶するなど基本的な礼儀も注意する。

《指導案》　第一次第一時

本時の目標

●公用文の重要性・必要性に気付かせ、理解を深めさせる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○公用文とは何かを知り、実際の公用文に触れる。 ○公用文の重要性・必要	○公用文とはどういうものを指すか説明し、実際の公用文を配布する。（プリント①） ○公用文のマニュアル（『JIS 工業規格』『文化	○公用文とは何を指すか、掴めたか。

	性について理解する。 ○実際に公用文を書く準備をする。	庁の公用文書式』）を示す。 ○プリント①に実は誤りがあることを指摘し、訂正を加える。また、このように公用文について知っておかなければ社会で通用しないということを伝える。	○公用文の重要性・必要性に気付くことができたか。
30	○実際に公用文を書く準備をする。	○実際に書くための課題を配布する（プリント②） ○プリント②を説明する。 ○次時で、 1、時候のあいさつ 2、お詫び状の書き方 3、招待状の書き方 について、各班で調べさせる旨を説明する。 ○六人一班を作らせ、班内で検索する担当を決めさせる。	○各班で協力して、公用文を書くための準備ができたか。
40 50			

《指導案》第二次第二時

本時の目標

●公用文の作成にあたって、必要な情報を自ら検索し、取り入れることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手だて	評価
	○担当の項目を、それぞれインターネットや書物のどを用いて検索する。 ○必要な情報はプリントアウトやコピーなどをして、資料を集める。	○検索の方法について簡単に説明する。 ○机間指導を充実させ、適宜アドバイスできるようにする。 ○学習者の質問に随時対応できるようにする。	○必要な情報を検索することができたか。 ○調べた情報を自分のものにできているか。

《指導案》第二次第三時

本時の目標

●自ら学習した内容を整理し、実際に公用文を書くことができる。

時間	学習活動	指導の意図と手だて	評価
0	○前時に調べた情報を用いて、実際に公用文を作成する。 このときワークシート②を参考にする。 （班活動）	○机間指導を充実させ、適宜アドバイスできるようにする。 ○学習者の質問に随時対応できるようにする。 ○完成した文章を回収する。 ○回収した文章は、それぞれクラスの人数分コピーし、原案にはコメントを添える。	○調べた内容をうまく活かせているか。 ○調べたことを発表できているか。 ○正しい公用文が作成できているか。 ○班員全員が協力して作業できたか。

第二次第四時

本時の目標

・聞き手に分かり易いように説明できる。

・適切に質疑応答ができる。

時	学習活動	指導の意図と手だて	評価の観点
0		○各班の作成したものをコピーして配布する。	
3	○班ごとに作成した公用文について解説を加えながら発表する。 発表：各２分 質疑応答：各５分 ○ワークシート③を記入しながら発表を聞く。	○ワークシート③を配布する。 ○司会をする。 ○適宜、話し言葉について指導する。	○わかりやすく説明できたか。 ○適切に質疑応答ができたか。
45	○ワークシート③をまとめる。		○評価シートを的確に書けたか。

第三次第五時

本時の目標

・文章を正しく手直しできる。

・自ら作成した文章を相手に渡すことができる。

時	学習活動	指導の意図と手だて	評価の観点
0	○班ごとに前時のワークシート③の意見を参考にしながら手直しを加え、公用文を完成する。	○下書きを添削したものとワークシート③を班ごとに返却する。 ○机間指導をしながら適宜指導を加える。 ○完成したものを点検する。	○正しく手直しを加え、公用文を完成できたか。
25	○配布する家を確認する。	○班ごとに配布する家を指定する。	
30	○作成したものを近隣の家に配る。※	○正しくあいさつできるよう指導をする。	○きちんと公用文を渡すことができたか。

※郵送で配布するという方法もあったが、今回は近隣住民の方の反応を直接見ることで、学習者のやる気を引き出そうとした。郵送の場合、封筒の書き方の指導などもできると考えられる。

ワークシート①

入居者の方々へ

お知らせ

平素はアパート管理につき協力してもらいお礼申し上げます。
さて、この数日の寒波で水道管が凍結し洗濯機からの水漏れ等で、階下の方に迷惑がかかる被害が相次いで発生しております。入居者の方の不注意が原因となって水道管が凍結して損傷した場合、またはそれにより他人に損害を与えた場合の修理費用は入居者負担となりますので、下記の事に充分注意すること。

記

○ 全自動洗濯機の水道蛇口は洗濯が終わり次第必ず閉めて下さい。
（気温上昇につれて解凍されるときに蛇口に取り付けた金具がはずれて噴水状態になります。）

○ 冷え込みの厳しい夜は、風呂場の湯の方の蛇口を開き少量の水を出しておいて下さい。
（リモコンのある方はOFFにして、リモコンのない方は燃焼しないようにくれぐれも注意すること。少量の水の場合は点火しません。）

○ 冬期、長期間留守にする場合は配電盤（ブレーカー）のスイッチは切らないで下さい。
（給湯器の凍結防止装置が作動しなくなるためです。）

なお、ご不明な点がございましたら下記までご連絡下さい。
連絡先　○○建物　２４－××××

以上、よろしくお願いいたします。

平成13年1月17日

管理人　○○建物（有）

ワークシート① （訂正版）

平成 13 年 1 月 17 日

入居者の方々へ

管理人　○○建物（有）

お知らせ

平素はアパート管理につきご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

さて、この数日の寒波で水道管が凍結し洗濯機からの水漏れ等で、階下の方に迷惑がかかる被害が相次いで発生しております。入居者の方の不注意が原因となって水道管が凍結して損傷した場合、またはそれにより他人に損害を与えた場合の修理費用は入居者負担となりますので、下記の事に充分ご注意下さい。

記

○ 全自動洗濯機の水道蛇口は洗濯が終わり次第必ず閉めて下さい。
（気温上昇につれて解凍されるときに蛇口に取り付けた金具がはずれて噴水状態になります。）

○ 冷え込みの厳しい夜は、風呂場の湯の方の蛇口を開き少量の水を出しておいて下さい。
（リモコンのある方は OFF にして、リモコンのない方は燃焼しないようにくれぐれもご注意ください。少量の水の場合は点火しません。）

○ 冬期、長期間留守にする場合は配電盤（ブレーカー）のスイッチは切らないで下さい。
（給湯器の凍結防止装置が作動しなくなるためです。）

なお、ご不明な点がございましたら下記までご連絡下さい。

連絡先　○○建物　２４－××××

以上、よろしくお願いいたします。

ワークシート②

平成１２年１０月１日

地域住民の皆様へ

○○高校３年△組□班

体育祭開催における騒音のお詫びについて

時候のあいさつ
体育祭でお騒がせすることの詫び
体育祭への招待状

記

１目的　第×回○○高校体育祭

２日時　平成１２年１０月１０日　午前８時３０分～午後３時

３場所　○○高校校庭

４プログラム　後日配布します。

５連絡先　○○高等学校：０８２４－○○－××××

ワークシート③

評価シート　　（　　班へ）　　名前

◎次の項目について気付いたこと、意見、感想を書こう。

1、時候のあいさつ

（　　）

2、お詫びの文章

（　　）

3、招待の文章

（　　）

4、発表の仕方、質疑応答の仕方

（　　）

5、その他

（　　）

【下書き版】

平成１２年１０月１日

地域住民の皆様へ

○○高校３年△組□班

体育祭開催における騒音のお詫び

小春日和のうららかな季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。このたび、体育祭を開催するにあたりましては、準備のための騒音で、地域住民の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしております。私たちも、何かと体育祭を成功させたいと、日々練習に取り組んでおりますので、皆様にはどうかご理解いただけますようお願い申し上げます。

また、練習の成果を見ていただきたいと思いますので、御多忙とは思いますが、是非体育祭に足を運んでください。

なお、開催日時は下記をご覧下さい。

記

○○高校第△△回体育祭

日時　平成１２年１０月１０日　午前８時３０分～午後３時

場所　○○高校校庭

プログラム　後日配布します

以上

【下書き版】

平成１２年１０月１日

地域住民の皆様へ

○○高校３年△組□班
体育祭代表　○○○○

体育祭開催における騒音のお詫び

小春日和のうららかな季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。このたび、体育祭を開催するにあたりましては、準備のための騒音で、地域住民の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしております。私たちも、何かと体育祭を成功させたいと、日々練習に取り組んでおりますので、皆様にはどうかご理解いただけますようお願い申し上げます。

また、練習の成果を見ていただきたいと思いますので、御多忙とは思いますが、是非体育祭に足を運んでください。

観覧したい ← より丁寧に!!

ますようお願い申し上げます

なお、開催日時は下記をご覧下さい。

前に加える文とのつながりを考えると「また」などを使った方がよくなるね。

この文の前に「なお、体育祭開催については充分配慮いたしますが、何かお気付きの点がございましたら御連絡下さい。」という文を加えよう。

記

○○高校第△△回体育祭

日時　平成１２年１０月１０日　午前８時３０分～午後３時

場所　○○高校校庭

プログラム　後日配布します

これらを加えることによって押しつけがましくない文になるよ!

連絡先　○○高校
電話番号　△△－□□□□

以上

【完成版】（例）

平成１２年１０月１日

地域住民の皆様へ

○○高校３年△組□班
生徒代表○○○○

体育祭開催における騒音のお詫び

小春日和のうららかな季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。このたび、体育祭を開催するにあたりましては、準備のための騒音で、地域住民の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしております。私たちも、何かと体育祭を成功させたいと、日々練習に取り組んでおりっておりますので、皆様にはどうかご理解いただきますようお願い申し上げます。

また、練習の成果を披露したいと思いますので、御多忙とは存じますが、是非体育祭に足を運んでくださいますようお願い申し上げます。

なお、体育祭開催につきましては十分配慮いたしますが、何かお気付きの点がございましたらご連絡下さい。

また、開催日時は下記をご覧下さい。

記

○○高校第△△回体育祭

日時　平成１２年１０月１０日　午前８時３０分～午後３時

場所　○○高校校庭

プログラム　後日配布します

連絡先　○○高校
電話番号△△△―▽▽▽▽

以上

（例）下書き版

平成１２年１０月１日

近隣住民の皆様へ

○○高校３年△組□班
代表　△△　○○

体育祭開催における騒音のお詫び

日ごとに秋めいてまいりましたが、皆様にはますます御壮健のこととお喜び申し上げます。

さてこのたび、第×回○○高校体育祭を開催することとなり、近隣住民の皆様には騒音等で何かと御迷惑をおかけすることがあると思われますが、何とぞ御理解の上、御容赦くださいますようお願い申し上げます。

尚、体育祭は下記のとおり開催いたしますので、何かと御多用中とは存じますが、どうぞお誘い合わせて、御参加ください。

記

１目的　第×回○○高校体育祭

２日時　平成１２年１０月１０日　午前８時３０分～午後３時

３場所　○○高校校庭

４プログラム　後日配布します。

（例）下書き版

平成１２年１０月１日

近隣住民の皆様へ

○○高校３年△組□班
代表　△△　○○

体育祭開催における騒音のお詫び

日ごとに秋めいてまいりましたが、皆様にはますます御壮健のこととお喜び申し上げます。

さてこのたび、第×回○○高校体育祭を開催することとなり、近隣住民の皆様には騒音等で何かと御迷惑をおかけすることがあると思われますが、何とぞ御理解の上、御容赦くださいますようお願い申し上げます。

と思いますが

言い方がまわりくどいのでもう少し簡潔にしましょう。

尚、体育祭は下記のとおり開催いたしますので、何かと御多用中とは存じますが、どうぞお誘い合わせて、御参加ください。

こちらの表現の方がいいでしょう。

の上

全体的によく書けています。連絡先の記入をして下さいね。細かい表現についてもう一度見直してみましょう。

記

１目的　第×回○○高校体育祭

２日時　平成１２年１０月１０日　午前８時３０分～午後３時

３場所　○○高校校庭

４プログラム　後日配布します。

5、連絡先を記入しましょう。
何かお気付きの点がありましたら
連絡下さいという趣旨の文章を加えましょう。

（例）完成版

平成１２年１０月１日

近隣住民の皆様へ

○○高校３年△組□班
代表　△△　○○

体育祭開催における騒音のお詫び

日ごとに秋めいてまいりましたが、皆様にはますます御壮健のこととお喜び申し上げます。

さてこのたび、第×回○○高校体育祭を開催することとなり、近隣住民の皆様には騒音等で何かと御迷惑をおかけすると思いますが、何とぞ御理解の上、御容赦くださいますようお願い申し上げます。尚、実行につきましては配慮いたしますがお気付きの点がありましたら下記までご連絡下さい。

また、体育祭は下記のとおり開催いたしますので、何かと御多用中とは存じますが、どうぞお誘い合わせの上、御参加ください。

記

１目的　第×回○○高校体育祭

２日時　平成１２年１０月１０日　午前８時３０分～午後３時

３場所　○○高校校庭

４プログラム　後日配布します。

５連絡先　○○高等学校：０８２４－○○－××××

以上

＜反省と展望＞

反省点としてまず挙げられるのは、公用文に対する私たちの知識不足から挨拶文を書かせるだけという幅の狭い授業になってしまったことである。社会に出てからの必要性を考えてみても、もう少し時間をかけて、公用文の様式や漢字の用い方などの規則について説明を加えたりしても良かったかもしれない。そして、今回の公用文では挨拶文を出すという一方方向のものになってしまったので、修学旅行などの見学要請や会社の体験要請など、相手からの返答がある身近な例を挙げる必要もあったように思われる。

その他の課題としては、公用文の細かい規則をどこまで教えるべきかといったことや、個人差のある日本語のニュアンスの感じ方をどう指導していくかなどが挙げられる。

また、今回公用文の例を作り、添削して感じたことは公用文を校正するには教師側の幅広い国語力と注意力を必要とするということである。教師はまず公文書の書式の規定を熟考し、そして文章の書き方、漢字の用い方などに注意を払わなければならない。これを一人の教師が行うには大変な力量が要求される。そうなると授業として取り上げる機会も自然に減ってくるかもしれない。しかし、少しでも公用文の校正が効率的に行えるように「公文規定の校正システムの開発」を行ったらどうかという提言もなされているようである。今後このようなシステム開発がなされていけば教師側としても授業において公用文を取り上げやすくなるだろう。

とはいうものの、やはりまず教師の力量は欠かせない。これから、公用文についてもっと知識を広げ、よりよい授業ができるよう様々な課題について考察を深めていきたい。

参考文献

・文部省　『公文書の書式と文例』　平成７年３月２０日　ぎょうせい
・奈村薬著　『通知・案内・招待状の書き方』　平成６年８月１０日　金園社

平成１２年５月２９日

研究テーマ「公文規定対応校正システムの開発」

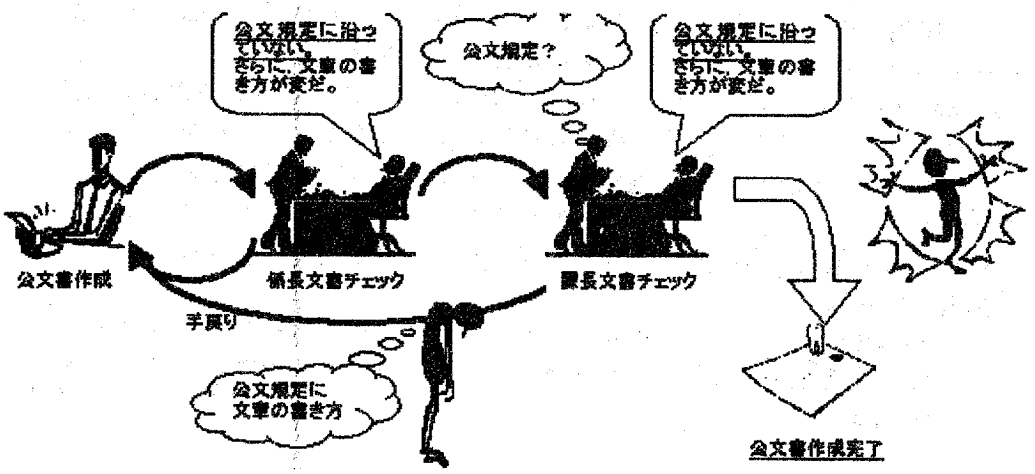
電気通信大学委託生
津村　茂樹

１．研究目的

本研究では，作成した文章が公文規定に沿って作成されているかチェックし，作成された文章の校正を支援するシステムを開発することを目的とする。

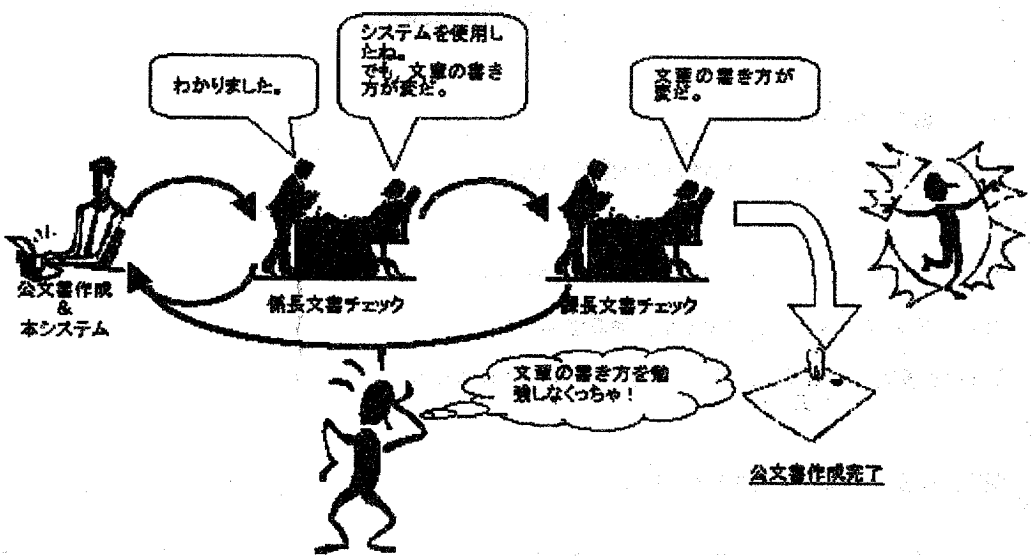
２．東京消防庁における公文規定

東京消防庁における公文規定は，例規集第１巻総務編第４章文章の東京消防庁公文規定で定められている。この規定は，東京消防庁の職員が公文書を作成する場合，この規定に沿った文章を作成しなければならない。しかし，公文規定は難解で複雑なものであり，公文規定から逸脱した文章を作成してしまうことも多い。また，公文書を作成後，上級階級職に文章のチェックを受ける際，公文規定に沿った文章でなければ，作成した文章の手戻りが発生し，業務が非効率になってしまう。



現状（システム導入前）の文書作成

この手戻りによる公文書校正の非効率を改善することは，業務効率改善に役立つものである。公文書校正システムを使用することにより，上級階級職のものは，文書の書き方のチェックのみを行えばよくなる。また，文書作成者は，公文規定を気にすることなく文章の構成などに集中して作業を行うことが出来る。よって，職員の文章作成能力は，以前より効率的に向上することが予想される。



システム導入後の文書作成

3．公文規定

例規集第１巻総務編第４章文章の東京消防庁公文規定の第４条には，以下のように記述されている。（※印，①，②，③及び下線は説明のため付加した。）

第4条　公文に用いる漢字の範囲，漢字の音訓の範囲及び漢字の字体は，①常用漢字表（昭和56年内閣告示第1号）で定める字種，音訓及び字体（通用字体に限る。）によるものとする。ただし，人名，地名等の固有名詞，専門用語等でこれによりがたい特別の理由があると認められるものについては，この限りでない。

公文に用いる仮名遣いは，②現代仮名遣い（昭和61年内閣告示第1号）※１の定めるところによるものとする。

公文に用いる送り仮名は，③送り仮名の付け方（昭和48年内閣告示第2号）※２の定めるところによるものとする。ただし，総務部長が別に定める場合は，この限りでない。

※１及び※２にあっては，それぞれ資料１，資料２を参照のこと。

現在，東京消防庁内における文書の作成は，富士通OASYSあるいは，MicrosoftのWord（以下ワード）を使用している。現在，東京消防庁全体の動向として，ワードへの移行が行われようとしている。

ワードは，①常用漢字で定められた字種か判断する機能，及び公文規定の③「送り仮名の付け方」の校正システム機能を持っている。そのため，公文規定の概ねの規定は，ワードの機能を用いれば解決できる。しかし，東京消防庁公文規定施行基準の用語の規定内全部を満たしているわけではない。（資料３）

4．東京消防庁公文規定施行基準

東京消防庁施行基準の用語についての基本留意事項では，以下のように規定している。

ア　特殊な言葉や堅苦しい言葉を用いることをやめて，日常一般に使われている易しい言葉を用いる。

（例）

救援する→救う　　懇請する→お願いする

一環として→一つとして　　即応した→かなった

イ　使い方の古い言葉を使わず，日常使い慣れている言葉を用いる。

（例）

形紋→模様，色模様

ウ　言いにくい言葉を使わず，口調のよい言葉を用いる。

（例）

遵守する→守る　　しゅんじゅんする→ためらう

エ　省略（常用漢字にないため本文では，省略する。）

オ　音読する言葉で，意味の二様にとれるものは，なるべく避ける。

（例）

協調する（強調する）→歩調を合わせる

など

この基準をもとに校正するためには，国語力と注意力を必要とする。
よって，この校正システムを実現するために古都研究室の御協力を頂きたい。

５．公文規定対応校正システムの開発

本システムで対象とする文書は，常用漢字のチェック及び送り仮名のチェックをワードで終了したテキスト文書とする。

本システムでは，東京消防庁施行基準の用語についての基本留意事項の対応を以下の方法で実現する。

（１）特殊な言葉や堅苦しい言葉を用いることをやめて，日常一般に使われている易しい言葉を用いる。

易しい言葉とはどういうものか不明なため，本システムでは辞書を用いて対応する。

（２）使い方の古い言葉を使わず，日常使い慣れている言葉を用いる。

日常使い慣れている言葉とはどういうものか不明なため，本システムでは辞書を用いて対応する。

（３）言いにくい言葉を使わず，口調のよい言葉を用いる。

口調のよい言葉とはどういうものか不明なため，本システムでは辞書を用いて対応する。

（４）音読する言葉で，意味の二様にとれるものは，なるべく避ける。

形態素解析して，語彙体系に同音異義語が存在する場合は警告を出し，同様な概念の語句を抽出して，他の類義語を出力して文書作成者を支援したい。

第五維束　社会に通用する国語力の育成を

第二節“説得の手紙を書く”そして“英文レター及びEメールの書き方”

岩本望　中請真弓　横田奈緒子

I　維束のねらい

手紙を書くとはどういう時の行為か。手紙を書く時には明確な相手への意識があり、確実に伝えたい思いがある。古くから手紙は人々の交流の上で重要な役割を果たしてきた。手紙の形式は国によって様々なように見えるが、大まかな流れには共通するところがある。形式を押さえ、伝えたい事柄を確実に伝えていて、なおかつ相手への配慮がなされた手紙こそ、公私ともに使える手紙と言えるのではないだろうか。長々としたものが一概によいとは言えない。文章は短いほど難しいと言う。そこで、今回は必要な情報をできるだけ簡潔に書く方法を身につけさせる。これまで学校教育で意識されなかった「手紙を書く」ということを学び、社会に向けて堂々と情報を発信できるようにさせたい。

また、国際化が叫ばれている現在、人々は個人単位で世界の人々と交流するようになっている。その交流には、やはり手紙が欠かせないだろう。相手の文化（形式）を知り、世界に向けても情報を発信できるよう、英文レターの書き方も学ぶ。

最後に、現在手紙よりも人々の間に浸透しているのが e-mail である。情報化時代の中でパソコンを活用できる能力を育成するため、e-mail の形式を学び、実際に使えるようにする。この維束では、自分の思いを正確に、配慮を持って伝えるための手段として手紙と e-mail の形式を学ぶ。そして、最終的には学習者自身がそれらを状況によって使いこなせるよう働きかけたい。

II　学習者観

対象学年は高校三年生とする。進学する学習者が増えているとは言え、社会に出る学習者も確実にいる。ここで一度、社会という「公式の場」を意識させ、恥ずかしい思いをすることがないように学ぶのは、学習者にとって必要なことだろう。情報化社会と言われるが、手紙は誰でもを情報の発信者とする。携帯電話のメールや、メモ程度の手紙は日常茶飯事だろうが、果たしてそれだけが通用するのはいつまでだろうか。利用することが少なくなったと言っても、手紙は重要な情報発信の手段である。形式を学び、学んだ上でそこから自分なりの心のこもった手紙を簡潔に書けるようになり、自信を持って社会と向き合えるようにさせたい。また、国際化社会の中で高校自体も海外の学校と姉妹提携したり、交換留学生制度を導入したり、ホームステイプログラムを企画したりしている。それは学習者が一対一で海外と向き合う機会の増加につながる。日本社会だけでなく、海外へ向けても情報が発信できるようになることは、学習者にとって必須だと言えるだろう。

Ⅲ　維束観

- 手紙について考え直し、手紙に必要な条件があることに気付く。
- 手紙の形式を、書き方から言葉遣いまで調べ学習を通じて学び、それぞれの用途や目的に応じた書き方を学ぶ。
- 英文レター、e-mail の形式について学び、実際に書けるようになる。
- 明確な要点で、相手を十分に配慮した簡潔な文を意識し、書けるようになる。

指導目標

○手紙の形式を学び、簡潔で相手への配慮の行き届いた手紙を書けるようにする。

○情報化社会に対応できる力を身につけさせる。

○英文レター・E メールの書き方を学び、海外に向けた情報発信ができる力を身につけさせる。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
第一次	第一時	○ 手紙に必要な条件があることに考えさせる。 ○ 手紙の形式の重要性に気づかせる。	○ クラス会の案内状を書く。ワークプリント（資料①）参照 ○ アトランダムに配られた案内状に対し、気づいた点を書かせる。 ○ 手紙に必要な条件を考える。	○気をつけたことや工夫した点を書く欄を設ける。 ○ 記名する ○ 参考として完成版（資料②）を示す。
	第二時	○ 手紙、葉書きの形式や、言葉遣いを学習させ、それを実際の生活に生かせるようにする。 ○ 情報検索能力を育成する。	○ 図書や、インターネットを利用して、手紙文の形式について調べる。 ○ 調べた内容を利用して、「友人への暑中見舞い」の葉書きを書く。（資料③参照）	○ 本時の目標をはじめに明示して、「暑中見舞い」のための形式を重点的に調べるようにさせる。 ○ 適宜、指導する。

第二次	第三時・第四時	○ 英文レターの書き方を学習し、国際社会で役立つ力を身につけさせる。 ○ 班内で協力して話しあう態度を身につけさせる。	○ 海外の知人にペンパルになってくれるよう依頼の手紙を書くことを知る。 ○ 英文手紙の形式、住所の書き方などについて学習する。 ○ 実際に英文レターを書く。 ○ ４人１班で手紙を読みあい、完成させる。	○ 状況設定は、教師の紹介で相手から手紙を受け取り、返事をするということにする。 ○ ワークプリント（資料④）を利用する。 ○ 教師が参考資料を用意しておく。
第三次	第五時	○Ｅメールの基本的な書き方を学習し、情報化社会で通用する力を育てる。	○ Ｅメールと手紙の長所と短所について学習する。 ○ Ｅメールの形式を学習する。 ○ 実際に、ホストファミリー宛に自己紹介のメールを書く。 ○ 教師宛でメールを送る。	○ ワークプリント（資料⑥）を利用する。 ○ ワークプリント（資料⑦）を利用する。 ○ 適宜、指導する。 ○ 実際に「届く」ということも評価の一つとする。

〈指導案〉第一次第一時

本時の目標・手紙に必要な条件があることを考えさせる。

・手紙の形式の重要性に気付かせる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・ワークプリント①(資料①)を使用し、個人で「クラス会の案内状」を書く。 ・工夫した点などを別枠に記入する。 (プリントは無記名で)	・教師は必要最低限の情報(日時・場所)を伝える。(差出人の名前は自由) ・実際に書くことで、どんな文が案内状としてふさわしいかを考えさせる。	・自分なりに案内状を書くことが出来たか。
15	・アトランダムに配られたワークプリント①の案内状を元にして、手紙に必要な条件を考える。(ワークプリント①の評価欄に記入する。ここには記名する)	・案内状を封筒に入れ、アトランダムに配る。(実際に案内状を受け取った雰囲気を出すため) ・他人が書いたものを読むことで、どんなものがよい案内状と言えるかを考えさせる。	・他人の案内状を読み、自分が書いたものを内省しながら評価することが出来たか。
35	・案内状(完成版)を見て、手紙に必要な条件を考える。	・参考として教師が案内状(完成版・資料②)を示す。 ・手紙の形式を意識させながら、必要な条件が盛り込まれ、簡潔な文で、相手への配慮があるものを考えさせる。	・手紙に必要な条件を考えることが出来たか。
49		・ワークプリント①を回収する。	

＊ 手紙の形式…前文、主文、末文、あとづけ、からなる。前文は、人と出会った時にいきなり用件に入らずに、いろいろな挨拶をするのと同じ働きをする。主文とは、手紙の本体となる部分のこと。末文とは、手紙の結びとなる部分のこと。あとづけとは、日付、署名、宛名のこと。(この順で書くのがマナー)

＊ 手紙(クラス会の案内状)の必要な条件

○ 日時・場所・目的・主催者・金額・連絡先

○ 丁寧さ・気配り・誤解を招かないようにすること。

(言葉遣いに気を付けて、丁寧さを出す)

(あいさつや結びの言葉を工夫して、気配りをする)

(誤解を招かないようにするには、目的を明らかにし、簡潔に述べること)

〈指導案〉第一次第二時

本時の目標・手紙、葉書の形式や言葉遣いを学習させ、それを実際の生活に生かせる様にする。

・情報検索能力を育成する。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
		・授業の前に図書室へ移動させる	
0	・前時の復習をする	・手紙の形式とはどのようなものだったか、手紙に必要な条件とは何だったかを思い出させる。 ・封書・葉書の用途の違いについて押さえさせる	・前時を思い出すことが出来たか。
5	・「友人への暑中見舞い」を葉書で出すために、図書やインターネット等を利用して形式や言葉遣いを調べる。	・メモ用のプリントを配布し、それに記入しながら調べ学習を進めるようにさせる。 ・調べ学習の際、適宜指導する。	・図書やインターネット等を活用して、必要な情報を入手することが出来たか。
45	・調べた内容を利用して、実際に葉書へ書く。(資料③)	・葉書を配布する。 ・宛名は架空の人物でも、実在の人物でもよいとする。 ・調べた内容を利用すると同時に、自分にとって身近なものに変えて使用させる。	・学習したことを生かして、暑中見舞いが書けたか。
49		・葉書を回収する。	

第二次第三時、四時

本時の目標

・英文レターの書き方を学習し、国際社会で役立つ力を育てる。
・形式にのっとり、必要な情報を正確に伝えられる英文レターの書き方を学ばせる。
・班内で協力して話し合う態度を身につけさせる。

時	学習活動	指導の意図と手だて	評価の観点
0	○本時で書く英文レターの内容を理解する。	○ペンパルを依頼する英文レターを書くことを伝える。 ○状況設定は、教師の紹介で相手から手紙を受け取り、返事をするという事にする。	
10	○ワークプリント(資料④)を利用して、英文レターの形式や住所の書き方などを学ぶ。	○第一次で学んだ手紙の形式と似ている点があることに気づかせる。 (日付・宛名・本文・結び・署名は共通の必要事項であるが、順番が異なる。)	○前時までに学習した手紙の形式と英文レターの共通点、相違点を知ることができる。
30	○実際に英文レターを書く。	○参考となる資料や図書などを用意しておく。 (宛名や結びの表現など、具体例が豊富なものを用意)	○形式にのっとり、日付け・宛名・本文・結び・署名をおさえて英文レターを書くことができる。
65	○4人1班で手紙を読み合い、完成版(資料⑤)を作成する。	○よい点、工夫している点を中心にしてまとめさせる。	○他人の手紙を評価し協力して文章を作成できる。
95	○班で完成させた手紙を提出する。		

〈指導案〉第三次第五時

本時の目標・場合に応じて、手紙の手段を選ぶことを学ばせる。

・ Eメールの基本的な書き方を学習し、情報化社会で通用する力を育てる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評　価
		○ 授業の前にパソコンルームへ移動させる。	
0	○ Eメールと手紙の長所・短所について学習する。	○ 二つの手紙の長所と短所について考えることで、それぞれの特徴について学ばせる。ワークプリント（資料⑥）参照	○ Eメールと手紙の長所と短所について、考えることができたか。
15	○ Eメールの形式について学ぶ。	○ ワークプリント（資料⑦）を利用してEメールの宛名・件名・本文・署名の最小限の形式について、学ばせる。	○ 学んだ形式を用いて適切なメールを書くことができたか。
20	○ ホストファミリー宛で自己紹介のメールを書く。	○ 資料⑦や辞書を用いながら書くように指導する。 ○ 適宜、指導する。 ○ 宛先となるメールアドレスを配る。	
45	○ 実際にメールを送信する。		○実際にメールを送ることができたか。

資料①

◎クラス会の案内状を書いてみよう。

・工夫した点、注意した点

・気づいた点（よい点、改善点など）　　氏名

資料②

◎クラス会の案内状（完成版）

今年もいよいよ残り少なくなり、何かとお忙しいことと思います。

さて、恒例の忘年会を兼ねたクラス会を開いて、懐かしい顔を合わせ、この１年の出来事や、新しい年への希望に楽しいひとときをともに過ごしたいと思います。

いろいろとご多忙とは存じますが、お繰り合わせの上、ぜひご出席ください。

日　時	12月28日（金）午後６時
場　所	西条、駅前公園喫茶
会　費	4,000円
連絡先	学級代表　西条花子（０８２４－１２－１２３４）

なお、準備の都合がありますので、出席の有無を12月21日までにご返事ください。やむなくご欠席の方は、近況と今年の一大ニュースを書き添えてくださ
れば幸いです。

資料③

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

◎英文レターの形式

資料④

① November 25, 1982

② Dear Françoise,

Hello, there. I hope everything's all right with you and yours.

Another year is going. Today I have sent out my traditional silky love. Probably you can't imagine how much our fancy goods market is dominated by French designers. I am glad I could find a Japanese scarf, design and all.

④ Affectionately,

⑤ *Kyoko*

① 日付
② 宛名
③ 本文
④ 結び
⑤ 署名

［封筒の表書き］

差出人
アドレス

切手

VIA AIR MAIL

受取人（社名・氏名）
住所

Urgent

◎封筒表の中央部分に受取人（宛先）の氏名または社名、住所を書きます。

（例１）

Mr. Ben Nelson
700 Second Avenue,
Honolulu, HI 96826-3564
U.S.A.

ベン・ネルソン様
アメリカ合衆国ハワイ州
ホノルル市、セカンド・アベニュー
700　〒96826-3564

（例２）

SILICON Inc.
131 West 56th Street
New York, NY 10019-3894
U.S.A.

SILICON 株式会社御中
アメリカ合衆国ニューヨーク州
ニューヨーク市、56ストリート
西131番　〒10019-3894

◎封筒の左側は、基本的に差出人のアドレス、郵便局への依頼、受取人への注意事項などを書く位置だと覚えておきましょう。

封筒左上：　差出人（会社）名
住所（所在地）
国名（Japan）

封筒左中段：　郵便取扱表示
VIA AIR MAIL　（航空便）

◎英文レター（ペンパルの依頼） 完成版　　資料⑤

April 1, 2001

Dear Mike,

I received your letter and address from the teacher . I'll be happy if you'll be my pen pal. This is my first letter in English. If there are some faults, please pardon me.

First of all, I'll tell you something about myself. My name is Hanako Saijo. I'm 18 years old. I am in my last year at Saijo Senior High School. I live in Higashih--iroshima-shi. There are 4 members in my family. They are my father, mother, sister and myself. My sister is in junior high school. Her name is Kazuko and she is 15 y--ears old. How many are there in your family?

I'm enclosing a photograph of myself. I wish you call "Hana" -all my friends do. Please tell me about yourself in your letter. I hope that you will send me a lett--er soon.

Yours,

Hanako

資料⑥

◎Eメールと手紙の特徴の例

	メリット	デメリット
Eメール	・相手にすぐ届く ・通信費が安い ・データを再利用できる ・相手の都合を気にせずにすむ。 ・保存できる	・相手に必ず届くとは限らない ・相手が必ず読むとは限らない ・相手が読んだかどうかを確認できない ・セキュリティーが完全ではない ・手紙よりもくだけている。
手紙	・儀礼的なことに向いている ・ていねいな印象がある ・プライバシーが守られる ・保存しやすい	・相手に届くまで時間がかかる ・再利用はしにくい

◎E メールの形式（英語）

送信

To: caren@usa.net ① 受信者／宛先／受取人
From: tomoko@konet.co.jp ② 発信者／差出人
Subject: Hello ③ 件名／表題
Cc: ④ 写しの宛先
Bcc: ⑤ 発信者のみが知る、写しの宛先
Attachments:

Dear Caren,

Hello! It's great to send e-mail to you.
I am sending this from Japan.
My name is Tomoko. I live in Hokkaido, Japan. It's very cold here in the winter.

I live with my family. I am 10 years old. I have one younger sister, and she is 9 years old. We go to the same elementary school.
I would like to know about you, and become your friend.

Take care of yourself. I will send e-mail to you again.

Sincerely,

Tomoko Suzuki ⑦ 署名／サイン

あいさつ文　本文　結びの文　⑥ 本文

◎ホストファミリーへのEメール　　資料 ⑧

Dear Mr. and Mrs. Smith,

Nice to meet you! I'm Hanako. Thank you very much for letting me stay at home. This is my first time abroad. I'm both excited and nervous about it.

I'm in my last year at Saijo High School. It has been my dream to stay at an American home and experience American life. My English is not fluent enough, so I'm afraid I can't communicate with you and your family very well. Please tell me when I use strange English.

I'd like to experience everything in America. I'd be happy if you coule take me camping some weekend. I like outdoor life, and I'm also interested in cooking. While I'm stayingwith you, I'll cook a Japanese dinner one evening.

I'm enclosing my photo so that you'll know what I look like.

Looking forward to meet you.

Sincerely,
Hanako Saijo

《反省と展望》

今回の指導計画では、社会に通用する国語力を育成するために、形式を押さえた手紙の書き方を学習させることを目的とした。今日、形式的なものはとかく否定されがちである。しかしこれからの社会では、伝えたい情報を確実に伝えていて、なおかつ相手への配慮がなされた文章を書く力が、必要とされる。そのために、学校教育の場で形式をおさえた手紙の書き方を学習することは、極めて重要である。そこでこの学習指導計画では、初歩的なものから対社会的なものまで段階的に経験できるプロセスを取り入れることで、効率よく学習できるように工夫した。特に、社会に対しての姿勢を身につけさせることに重点をおいたつもりである。

全体を振り返って反省点として挙げられることは、学習活動の中で書いた手紙を実際に投函し、相手の手紙を受け取るという双方向の活動が不十分であったことである。手紙とは、相手に何らかの働きかけをするものであると考えると、その手紙が十分に相手の心に訴えられた場合には、そのことに対する反応が返事という形で送られてくるはずである。よって、自分の手紙に対する評価が返事の手紙という目に見える形で表れるとすると、学習者は意欲的に取り組み、より達成感や満足感を得ることができただろう。この指導計画では、学習者が手紙を書くだけに止まり、一方的なものになってしまった。より活発に学習活動を展開するためには、学習者に喜びや達成感をもたらす双方向の働きかけを必要とするだろう。また、Ｅメールの形式はまだ定式化していない。参考引用文献をもとにして私たちなりに考えたつもりであるが、やはり考察が不十分であったと思われる。よって、これらの点を次回での改善点としたい。

《参考引用文献》

・瑞松玉純「手紙の辞典」１９９３年1月２０日（西東出版）
・久野陽子「海外赴任・留学に必携！すぐに役立つ英文手紙の書き方　実例満載でスムーズ・コミュニケーション」１９９６年7月１８日（ＰＨＰ研究所）
・鶴田顕三「手紙・はがき決まり文句と文例集」平成１１年1月２５日（日本文芸社）
・金澤良昭「インターネット時代のビジネスＥ－ｍａｉｌの書き方・送り方マニュアル」２０００年5月３１日（明日香出版社）
・穂坂好一「ビジネスｅメールのお約束」２０００年7月７日（株式会社オデッセウス）
・ケン・Ｓ・マクドナルド監修　石川英子著「海外文通」（富士教育）
・小川妙子　ロナルド・ファード著「これなら書ける　英文手紙のやさしい文例集」（新星出版社）
・野村正樹「ビジネスマンのための書き方入門」（日本経済新聞社）
・尾山大「すぐに使える　英文手紙・Ｅメール・ＦＡＸの早引き表現集」２０００年2月１８日（ナツメ社）
・奥山恵三「手紙文例辞典」１９９２年１２月３０日（西東社）

第６維束

科学的な国語力の育成

第１節　「客観的な見方で綴る国語力」
＝国語科の学生はなぜ、小論文が下手なのか。

第２節　優れた客観的な論文を読んでみよう、
そしてその方法を学ぼう。

第六維束　科学的な国語力の育成

第一節　【「客観的な見方で綴る国語力」＝国語科の学生はなぜ、小論文が下手なのか。】

池田　絢香　濱本　陽子

Ⅰ．維束のねらい

科学的な国語力とは、客観的に物事を捉え、それについて論理的に述べる力のことを言う。情緒・主観・感情に流されて書かれたものには、客観的妥当性を備えた論拠はなく、よって書き手と読み手のあいだに共有される考えも存在しない。つまり、求められるものは、自分のいいたいことを証明し、読み手に伝える力であり、印象的な表現や、粋な言い回しなど、感性の豊かさや表現の上手さなどではないのである。表面的な印象を述べるのみでは、自分の考えを論述することは不可能である。したがって、自分の考えを論理的に述べることが特に求められる小論文指導により、表現ではなく、考察を学ばせる。

また、誰もが賛成する絶対に正しい意見など、ありえない。だから自分の考えとは反対の意見を持った人の存在を常に頭にいれておき、ひとりよがりなものではなく、共通の理解を得られる主張を心がけなければならないのである。小論文により、読み手を納得させる整然とした展開、一貫した意見の論述を学ばせ、客観的なものの見方を身につけさせる。

Ⅱ．学習者観

対象学年：高校三年生　一学期

大学受験、就職活動では、学習者は自分の考えを論理的に主張することが求められる。そして、それは小論文というかたちで学習者に課される場合が多い。高校三年生になったこの時期、小論文を書く力を身につける必要がある。

また、卒業を控え、自分の将来について深く考えなくてはならない時期でもある。小論文の課題を、興味のある職業についてと設けることで、その機会を与えたい。そして、その資料集めをさせることで、文献検索の仕方、インターネットからの情報集めの仕方についても学ばせたい。

Ⅲ．維束観

・小論文で求められている要素を知り、形式を学ぶ。
・比較的書きやすい課題について、学んだことを生かし小論文が書けるようになる。
・情報検索が出来るようになる。
・テーマを自分で設定し、それについて客観的な視点から考察し、論理的に考えを述べた小論文を書くことが出来る。
・自分の書いた小論文を客観的に見なおすことができる。

指導目標

○小論文の書き方を学び、自分の考えを的確に読み手に伝えられる小論文が書けるようにする。

○客観的な見方を身につけさせる。

○情報収集を日常から行える態度を身につけさせる。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
第一次	第一時	○小論文とはどういうものかを考えさせる。 ○読み手に考えが伝わる小論文について理解させる。	○小論文に関する○×テストをする。(ワークシート①) ○プリントの答えあわせをする。 ○小論文の書き方について学ぶ。 ○読み手に主張が伝わりやすいよい例として、新聞の社説を読む。	○ワークシート①(○×とその理由を書く欄を設けたもの)を配布する。 ○全員が納得する理由付けをさせる。 ○プリントを配布する。(資料①) ○論理的に主張が述べられていることに気付かせる。 ○プリントを参考にするよう指導する。
	第二時	○求められる小論文について考える。	○テーマをもとに小論文を書き、提出する。(第一テーマ・ワークシート②)	○客観的に考えやすいテーマを提示したワークシートを利用する。
第二次	第三時	○自分の書いた文章を客観的に見る力をつけさせる。 ○第二テーマについての小論文を書くにあたり、何を調べていくか考えさせる。	○教師が添削した前時の小論文について考える。 ○第二テーマについて考える。 ○次時に調べるテーマをあげる。	○前時で提出された小論文を添削したものを返却する。 ○第一時で使用したプリントを参考にするよう指示する。 ○第二テーマは「将来の職業について」と設定する。 ○ワークシート③配布する。

第二次	第四時	○情報検索能力を育成する。 ○情報の要旨をつかみ、分類する力をつける。	○将来の職業に関する分野について、文献やコンピュータで調べる。 ○設定したテーマを再度、吟味し決定する。	○ワークシート③を活用して、情報を分類し、まとめさせる。
	第五時	○自分の考えを客観的な視点をふまえ、論理的に組み立てる力を付ける。 ○小論文の書き方を習得させる。	○将来の職業に関する分野について、前時に設定したテーマに基づき、小論文を書く。 ○書いた小論文を見直し、自己評価をする。	○ワークシート③を活用して、書こうとする小論文の構想を立てさせる。 ○ワークシート③に評価の観点を示し自己評価をさせる。
	第六時	○自分の書いた小論文を客観的に見直させる。 ○違う視点からの意見にも目を向けさせる。	○添削された第二テーマについての小論文を復習する。 ○同じ分野において、違う視点から新たな題材を考える。 ○小論文と調べたものをファイルに閉じて、みんなが見られるよう教室に並べる。	○疑問形で添削したものを返却し、その疑問に答えることで復習させる。 ○違うテーマにも目を向けさせ広く情報を持つ重要性に気付かせる。 ○自分とは違う視点で書かれた友達の小論文を読むよう促す。

〈指導案〉第一次第一時

本時の目標・小論文とはどういうものかを考えさせる。

・読み手に考えが伝わる小論文について理解させる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・ワークシート①を使用し、各自で小論文に関する○×テストを解く。	・なぜそう考えるのか、理由を考えながら解かせる。	
5	・○×テストの答えあわせをする。	・解答とともに、小論文を書く上で必要となる考え方についてまとめさせる。 ・主観的に書かれたもの、根拠のない意見や反論が簡単に考えられるもの、また論理的でなく、感情的に書かれたものの問題点についておさえさせる。	・小論文の考え方について理解できたか。 ・○×テストでの考察をもとに小論文に求められることをまとめることができたか。
15	・プリントをもとに小論文の書き方について学ぶ。（資料①）	・実際小論文に取り組む際に必要な要素と文章構成の仕方についておさえさせる。 ・形式よりも、考えることの重要性について再度おさえさせる。 ・原稿用紙の使い方は、国語便覧を参照するよう指導する。	・小論文の書き方、構成の仕方について理解できたか。
35	・新聞の社説を読み、どうして主張が伝わりやすいのかについて考える。（資料②）	・主張が論理的に述べられていることに気付かせる。 ・根拠、考察がしっかりしていることをおさえさせる。	・積極的に取り組めたか。
49		・次時でもプリント（資料①）を使用し、実際に小論文に取り組むことを告げる。	

〈指導案〉第一次第二時

本時の目標・実際に自分の考えを客観的に書かせる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・前時の復習をする。	・求められる小論文について、前時で使用したプリントをもとに思い出させる。	・小論文についての考えがまとまっているか。
3	・ワークシート②を用いて、第一テーマについて実際に小論文を書く。	・第一テーマについてのワークシート②を配布する。 ・前時で学んだことを活かして取り組むよう指示する。 ・ワークシート②の活用の仕方について随時指導する。	・課題の意図が理解できたか。前時の学習が活きているか。 ・意欲的にテーマに取り組むことができたか。
49	・小論文を提出する。	・時間内に書けなかったものは宿題とすることを告げる。	・学習した内容が活かされた小論文として仕上がっているか。

＊第一テーマについては、書く手順・着目点を示し、取り組みやすいものとする。

〈指導案〉第二次第三時

本時の目標・自分の書いた文章を客観的に見る力をつけさせる。

・将来の職業について考えさせる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・教師が添削した第一テーマについての小論文を復習する。	・前時で提出した小論文について細かく添削指導したものを返却する。 ＊1） ・復習の仕方を説明し、適宜今までのプリントを参考にするよう指導する。 ・添削で疑問を抱いた点については机間指導で補う。	・積極的に取り組むことが出来たか。 ・プリントや国語便覧を活用することが出来たか。
20	・第二テーマで取りかかる内容について知る。 ・何の職業について調べるか考える。 ・自分のテーマを設定する。 ・次時で調べるキーワードをあげておく。	・テーマを「将来の職業に関する分野について」と設定したワークシート③を配布する。 ・ワークシートの進め方について説明する。	・テーマについて積極的に取り組むことが出来たか。
48		・次時から図書館などを利用し、テーマについて調べることに取りかかることを告げる。 ・調べた内容については、ファイルに綴じるよう指示する。	

＊1）復習の仕方としては、

・書いたときのことを思い浮かべながらもう一度自分の答案を読みなおす。

・教師の添削のコメントに目を通し、それぞれの指摘について確認し、内容を理解する。

ここでは、

・なぜ自分の意図とは異なって受け取られたのか

・なぜ自分の考えが的確に伝わらなかったのか

・論の展開や表現は適切だったかなどの点を重点的に考える。

・課題に対して、自分は何を理解できていなかったのかについて考える。

・うまく自分の考えが伝わったのはどんな点か

などをあげることとする。

〈指導案〉第二次第四時

本時の目標　・情報検索能力を育成する。

・情報の要旨をつかみ、分類する力をつける。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
		・授業の前に図書館に移動させる。	
0	・前時を振り返り、本時の活動を確認する。	・前時と本時の活動を確認し、目的意識を持たせる。 ・前時で学んだ検索の仕方を参考に進めるよう指導する。	
45	・テーマについて、文献やコンピュータで調べる。 （調べたことをワークシート③の構想メモに箇条書きで書く。）	・得た情報の要旨をまとめ視点別に分類することをさせる。 ・調べた情報の詳しい内容はプリントアウトしたりノートにまとめたりして、ファイルに閉じていくようにさせる。 ・調べていく過程で、テーマは自由に変更しても良いものとする。	・意欲的に調べ学習に取り組めたか。 ・多くの情報を分類出来たか。 ・情報の要旨をつかむことが出来たか。
	・もう一度、設定したテーマを吟味し、最終的なテーマを決定する。	・集めた情報から、注目すべきものを見つけさせる。 ・次時の活動の予告をする。	

〈指導案〉第二次第五時

本時の目標　・客観的な視点をふまえ、自分の考えを論理的に組み立てる力を付ける。
　　・小論文の書き方を習得させる。

時間	学習活動	指導の意図と手だて	評価
0	・小論文についおて学習したことを想起する。	・小論文について学習したことをおさえさせる。	
5	・ワークシート③を活用して、前時に設定したテーマについての小論文を書く。	・ワークシート③をつかって、書こうとする小論文の主題、論の構成を明確にさせる。 ・調べた情報の中から有効なものを選択し、自分の考えを論理的に述べるよう指導する。	・書こうとする小論文の構想を立てることが出来たか。 ・情報を有効に活用できたか。 ・活動に意欲的に取り組めたか。
	・書いた小論文を見直し、ワークシート③の評価の観点に従い自己評価をする。	・評価の観点を示し、自己評価をする態度に気付かせる	
49	・小論文とワークシート③を提出する。		・自分の考えを客観的な視点をふまえ、論理的に表現できたか。

〈指導案〉第二次第六時

本時の目標　・自分の書いた小論文を客観的に見直させる。
　　・違う視点からの意見にも目を向けさせる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	・添削された小論文を復習する。	・第一テーマのときと違い、添削は方向性まで指導せず、疑問形で行ったものを返却する。	・積極的に取り組むことが出来たか。
40	・疑問形で添削されたものに対しての答えを書く。	・うまく答えが導き出せない点については机間指導で補う。	・自分の小論文に足りなかった点に気付き、補うことが出来たか。
45	・同じ分野について、違った視点から新たな題材が考えられないか、箇条書きにあげる。	・調べたものをもとに考えさせる。 ・違うテーマにも目を向けさせ、広く情報を持つことの重要性に気付かせることで、日頃からの情報収集を促す。	
	・小論文と調べたものをファイルに閉じてみんなが読めるよう教室に並べる。	・また、友達のファイルを利用し、自分とは違う視点で書かれた小論文を読むように指導する。	・違う視点からの意見にも目を向けられたか。

＊疑問形にして添削する理由としては、なぜ読み手に自分の考えを理解してもらえなかったのか、どういった点に疑問を持たれたのか、各自で考察する余白を残すためである。

資料①

小論文の書き方

小論文の基本

小論文に必要なもの

Ⅰ．論点

論述の中心となる「問い」。設問文に示されていない場合は自分で設定する。

Ⅱ．主張・見解

「問い」に対する自分の答え。

Ⅲ．考察

自分の主張の「根拠」となる部分である。現実に起こっている様々な問題を自分なりに整理し、分類し、いくつかの角度から考えていこう。その結果から納得のいく答えを出すことが「考察」である。

Ⅳ．具体例

具体例をあげることで、読み手に、論述で使う問題の由来や意味、それについての自分の分析と考察を分かりやすく伝えることができる。自分の体験や見聞きした出来事などから、適切なものを選んで活用したい。そうするためには日頃の材料集めが重要となってくる。

問いかけること

「書く」作業で必要なことは、自分自身に問いかけることである。

自分はなぜこう考えるのか、どうしてこのように表現するのか、という「自問自答」を粘り強く繰り返そう。また、自分と意見の違う人が自分の意見に対してどう反論してくるかを常に考えなくてはならない。提示された問題に対して、「仮にこうだったら…」と想定したりすることで、自分の論述に客観性をもたせることになる。そして、この際にも自分へ「問いかけること」が大切になる。

文章構成の仕方

Ⅰ基本三要素

基本三要素は「問い」「答え」「根拠」である。

この三つを小論文に盛り込めばいい。

Ⅱ構成

三つの要素を備えていたらいいのだから、小論文の構成の基本は

結論…　論点を提示し、それについての主張を明らかにしたもの。

考察…　主題の理由を述べたもの。主張をより明確にする具体例の提示や、読み手を納得させる根拠が必要。

まとめ…考察を踏まえての自分の主張。

Ⅲ段落分け

文章の展開をわかりやすくしたものが段落であり、論理的構成と切り離せないものである。自分の考えをよりわかりやすくするためにも、段落分けは必要である。

しかし、「はじめに形式あり」では決してないことをしっかり意識して取り組もう。形式を優先させてはいけない。もっとも重要なことは、「考える」作業である。「考えた」内容について、「論点、分析・考察、主張」が押さえられていればよいのである。

重大なゆるみがあった

原潜事故

米原子力潜水艦がハワイ沖で、愛媛県の水産高校生徒らを乗せた漁業実習船を沈没させた事故から、一週間がたった。

行方不明になった実習船の九人は、まだ見つかっていない。

この間、事故原因をめぐるさまざまな事実が明らかになってきた。

中でも、原潜が緊急浮上をする際、見学のために同乗していた民間人が、操艦にかかわっていた事実には衝撃を受ける。

米国のテレビに出演したこの民間人は、「艦長に浮上レバーを引いてみたいかと問われ、『もちろん、やってみたい』と答えた。乗組員は、とても親切に何度も説明してくれた」などと語っている。

この操作関与と衝突との直接的な因果関係は、まだ明確ではない。しかし、原潜の艦内に重大な「気のゆるみ」があったことは、間違いがないようだ。

原潜は、緊急浮上訓練の前に、水中音波探知装置（ソナー）や潜望鏡で周辺海域を探ったという。潜水艦の探知能力でなぜ実習船に気づかなかったのか。

間近を航行する五百トンもの実習船を見落としていたとすれば、よほど安易な確認作業をしていたと疑わざるをえない。

軍事情報をできるだけ一般の人々にも公開し、透明性を高めることは好ましい。

だが、危険な緊急浮上訓練の操艦に、見学者をかかわらせるようなことは、許されるはずがない。

事故のそもそもの原因は、民間船船の行き交うホノルル沖合で、訓練を行ったこと自体にあろう。事故を起こした原潜が、設定された航海域を外れていたとの報道もある。

このような海域で、艦長があえて見学者を操作体験に誘った「過剰サービス」の非常識さは論外である。

民間人を原潜に同乗させるのは、予算獲得などで軍に好意的な世論を醸成する狙いがあると考えられる。冷戦後、ロシアは財政難で原潜の大幅な縮小をした。現在、太平洋は米原潜の独り舞台に近いとも言われる。

隠密行動をとる原潜は、これまでも何度か事故を起こしてきた。それなのに他船に対する救助能力は極めて低い。

そんな原潜がいまも多数、世界の海を遊よくしている。その意味を改めて考え直すときではないだろうか。

ブッシュ米大統領は、民間人の軍事演習への参加について見直しを示唆した。さらに踏み込んで訓練のあり方や、原潜そのものの配備にも検討の対象を広げるよう望みたい。

森喜朗首相の事故発生時の対応のまずさに見られるように、「気のゆるみ」が日本側にもあったことは否定できない。

であれば、気を引き締め直し、行方不明者の捜索はもとより、原因の究明と公開、適切な補償などの対応に万全を期してほしい。

さらに米原潜の訓練のあり方などについても、日本政府は米側に対し、いまこそするべき主張をきちんと伝えるべきだろう。

二度とこのような悲劇を繰り返さないためにも、それが必要である。

2001年2月17日 朝日新聞

資料②

信じられない事故だ

実習船沈没

ハワイ沖で愛媛県立宇和島水産高校の実習船えひめ丸が、米海軍の原子力潜水艦と衝突し、沈没した。

実習船に乗っていた生徒や教員、乗組員の計三十五人のうち二十六人は救助されたが、生徒四人を含む九人が行方不明になったままだ。重大な事故である。米側には、引き続き全力で捜索に当たるよう求めたい。

実習船は衝突後、あっという間に沈没したという。現地からの映像では、救助された生徒たちは全身ずぶぬれで、救命胴衣も着けていない。着ける余裕さえなく海に投げ出され、必死で救命ボートにはい上がったのだろう。救助された中には、燃料油を飲んだり、けがをしたりした人もいる。

それにしても、信じられない事故である。視界のいい真昼に、巨大な潜水艦が実習船を破壊した。実習船の大西尚生船長は「原潜がいきなり浮上してきた」といっている。

専門家によると、水上の船からは、レーダーなどによっても水中の潜水艦の動きを知ることは不可能に近いという。

一方、潜水艦が浮上する際には、音響探査機や潜望鏡で海上に船があるかどうかを十分確認するのが当たり前だ。今回、米原潜がそれを怠ったのだとしたら、あまりにも初歩的な誤りに驚く。

米側の発表では、原潜は参観のためオアフ島から企業関係者を乗せて航行中だった。緊張感が抜け落ちていたのかも知れない。

米側は国防次官補や駐日公使が日本側に謝罪した。事故の責任を認め、事態を重視したためだろう。

思い出すのは一九八一年、米原潜ジョージ・ワシントンが東シナ海で日本の貨物船日昇丸に衝突した事故である。日昇丸は沈没し、乗組員二人が死亡したが、原潜は必要な救助の手を打たずに現場を離れた。事故の正式通告も遅れて、大きな不信感を残した。

今回の事故は、冷戦が終わったいまも、原潜がはいかいする海の危険性が去ってはいないことを改めて教えている。

ノルウェー沖では昨年、ロシアの原潜が沈没事故を起こした。今回の事故を起こした米国のロサンゼルス級攻撃型原潜は、太平洋艦隊や大西洋艦隊に多数配備され、地域紛争への備えや情報収集活動に従事している。

こうした原潜の配置や行動は、厚い軍事機密のベールに包まれている。多くの場合、それがこの種の事故の原因究明と情報公開を妨げてきた。しかし、悲劇の再発防止に優先する軍事機密など、あってはなるまい。

沈没したえひめ丸には、海洋実習の高校二年生十三人が乗り組んでいた。

水産高校の多くがこの時期、長期の実習航海に出る。水産高校に通う生徒たちは、自然を相手に、同じ年ごろの若者にはまれといえるほどの厳しい鍛錬を積んでいる。とりわけ二、三カ月にも及ぶ長期実習を乗り切ることで、大きく成長するという。その途上で、悲惨な衝突事故に遭った。

捜索への努力を重ねて求めると同時に、なぜ事故が起きたのか、真しな原因究明と事後処置を望みたい。

2001年2月11日 朝日新聞

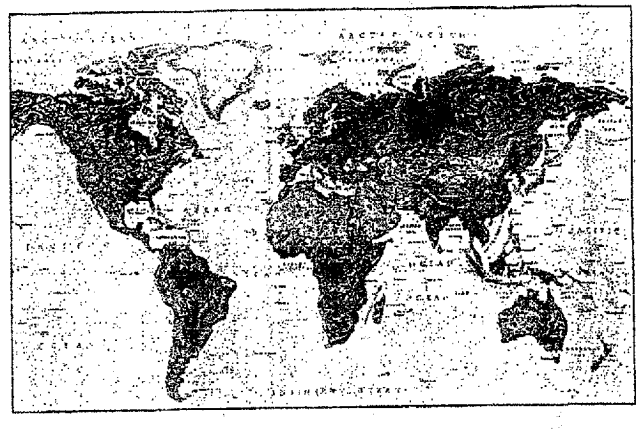
（ワークシート①）

小論文について ○×問題	答え
（×）凝った文章（修辞技巧の効いた文章）で書くことを心がける。	・凝った文章は論旨を曖昧なものにする。試されているのは明解な文章を書く力である。
（×）自分の主観を前面におし出して書く。	・論理的文章が必要。「論理的」とは、情緒、主観、感情に流されず、客観的に見て妥当とされる論拠を示すことである。
（×）知識が無くても個性や独創性さえあれば、良い論文は書ける。	・共有される知識をふまえない論は一人よがりである。課題をめぐる知識の量とそれらの関係づけ方が試されており、個性はそこにも現れる。
（○）常に読み手を意識して書くと良い。	・問題を別の角度からも見つめることで、客観性を持ち、反論にも対応することで説得力を増すことができる。

問われる力とは
- 自分の考えを組み立てる能力。
- 自分の考えを他者に伝える能力。
- 文献や資料を読みこなし、理解する能力。

資料③

〔課題〕次の地図は、ヨーロッパで作られている世界地図です。この図を見て、後の問いに答えなさい。



問　(1)日本人にとって、この地図はどのように見え、どのように感じられると思うか、書きなさい。
(2)ヨーロッパの人にとって、この地図はどのように見え、どのように感じられると思うか、書きなさい。
(1)・(2)で考えたことをふまえて、「日本の国際化」についてのあなたの意見を600字以内で述べなさい。

(1)日本人にとって、この地図はどのように見え、どのように感じられると思うか、書きなさい。

(2)ヨーロッパの人にとって、この地図はどのように見え、どのように感じられると思うか、書きなさい。

(ワークシート②)

氏名（　　）

テーマ、「日本の国際化」についての小論文を書く

構想メモ

○本文（1）の日本人の視点、（2）のヨーロッパの人の視点と、テーマとの接点、結びつきは何か。

○主題は何か。(テーマについての自分の考えをまとめ、主題文を書こう。)

段落構成（要旨を簡潔に書こう。）

結論：

考察：

まとめ：

(ワークシート③)

氏名（　　）

将来の職業の分野（　　）に関する小論文を書く

○テーマを絞る（上の分野に関する言葉を用いて）

・（　　）の問題点について。
・（　　）のあり方とは。
・その他（　　）

○構想メモ

（　　からの視点）　　（　　からの視点）

○主題文

○段落構成

結論：

考察：

まとめ：

○自己評価をしよう。（次のことが達成できたか、△・○・◎ で表してみよう。）

・主張は明確であるか。　（　　）
・具体生があり説得的であるか。　（　　）
・客観的な視点があり論理的であるか。　（　　）

反省と展望

科学的な国語力の育成のためには、表現方法ではなく、物事を考察する力、そしてその内容を他者に的確に伝える能力を身につけさせることが求められる。よって今回の指導計画では、小論文指導を通して客観的に物事を捉える力と、論理的に考えを述べる力をつけさせることを目標とした。印象的な表現や言い回しなどで自分の感情を伝えようとしても、それは論理的とはかけ離れており、社会において意見を論じたことにはならない。小論文の指導計画を考える上で、自分の考えを他者に受け入れさせるためには、客観的妥当性を備えた論拠の提示が必要であり、納得させることを目的とした論述が必要であることを改めて考えることが出来た。

反省点としては、小論文の形式にとらわれすぎたかもしれないということである。「問い掛けること」「考察すること」に重点を置いて取り組ませる内容にしたつもりではあるが、小論文の書き方のプリントなどにより、それが薄れてしまうことになったのではと思う。また、第二テーマである将来についての考察は、身近な問題として取り組みやすいものであり、学習者が今後その考えについての意見を求められる機会も多くあることを考え、大きく取り扱うこととした。しかし、この授業での目的は、小論文指導による科学的な国語力の育成であるのに、将来の職業についての扱いが大きくなってしまい、小論文指導が不十分になってしまったのではないかと反省している。

論述する力は、短期間で身につくものではない。日頃から客観的に物事を見たり、ある問題に対して自分はどうしてこう考えるのかと問い掛けることが必要であると感じた。添削指導をする立場にある教師には、当然求められる能力であるといえる。私たちに、その能力があるのか、この演習を通して常に考えさせられた問題である。共通の理解を得られない意見は、感情であり、思考ではないのだ。また教師は、小論文指導をする以前の問題であるが、学習者を理解する立場にある。個々の学習者の目線で物事を捉えられるかが問われるところであろう。そのためにも、物事を客観的に捉え、現状とは違う状況を想定する力を常に養っていきたいと感じた。

参考引用文献

・だれも教えなかった論文・レポートの書き方
阪田せい子／ロイ・ラーク　1998年4月8日　総合法令出版株式会社
・新詳説　国語便覧　編者・中州正堯　長谷川滋成　花田俊典　竹村信治
1995年2月1日　東京書籍印刷株式会社
・受験科小論誌増刊「書くまえに読む」プレテキスト　平成9年1月20日　増進会出版社
・ステップアップ小論文　第一学習社編集部編・浦志直昭執筆代行
1999年1月10日　第一学習社
・パーフェクト小論文　第一学習者編集部編・浦志直昭執筆代行
1999年1月10日　第一学習社

第六維束　科学的な国語力の育成

第二節　優れた科学的な論文を読んでみよう、そしてその方法を学ぼう。

大森寿恵　岡東裕子　西浦早紀

Ⅰ．維束のねらい

科学論文の優れた点は、実験に裏打ちされた事実のみを扱っているために生じる絶対性である。今回の実践では、その「事実に基づいて書かれた文章の力強さ」を学習者に実感させ、学習者自身の体験を生かした文章を書くことの有効性を学ばせたいと考える。

実体験に基づく記録は否定することができない。それがその時の一時的、局地的な結果であったとしても、そこに存在した事実を書いている限りその記録は絶対性を持つのである。そのことを学び、日々、生活の中に見つけることの出来る事実を重んじ、それを観察して新しいものを見つけていく態度の重要さに気づかせ、自らの発見を文章にまとめていく力を身に付けさせたいと考える。

Ⅱ．学習者観

対象学年：高校一年生一学期

現代社会は情報に溢れている。テレビ、新聞、インターネット、雑誌などを利用して、自分が実際に関わらなかった事象に付いて当事者以上に詳しい情報を得ることができる。

現代の学習者はそうした情報を鵜呑みにしてしまい、自分で検証してみる姿勢を忘れてしまっているように思われる。情報を選別し、有効に活用するためにも、また、自分自身で真理を見つけだすためにも、自分が実際に経験していること、発見したことを重んじ、情報に流されてしまわない姿勢を学ぶ必要があると考えられる。

Ⅲ．維束観

・科学論文を読み、「真実」や「真理」に基づく論の力強さを感じ取る。
・実生活の中で発見したことを正確に書き取る。
・自己の体験（事実）に基づく文章を書かせ、そうした文章の絶対性を感じ取らせる。
・有効性の高い文章を書くためには事実を発見する視点が重要であることを学び、実生活の中から新しいものを発見していく姿勢を学ぶ。

■学習目標

・科学論文から文章の絶対性を保障するものを学びとる。
・「事実」を誠実に書き取る態度を学ぶ。
・自分の身の回りにある「事実」を観察し、その中から「発見」していく姿勢を　学ぶ。

■指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
1	1 2	・「事実」を誠実に書き取る態度を学ぶ。	・挨拶記録の取り方について学習する。 ・どんな挨拶があるか考える。 ・挨拶調査表作成 （ワークシート１を使う） 自分が調べたい挨拶を五つ選んで質問文を作成させる。 ※実際の調査は時間外の活動とする。	・記録の取り方（アクセントなどの記述の仕方など）を簡潔にまとめたプリント１を配り、説明する。 ・教師が初めに二、三例を挙げる。 ・机間相談をし、適切な助言を行なう。
2	3	・「真実」や「真理」に基づく論の力強さを学ぶ。	・ノーベル賞受賞者白川博士の論文を読む。 ・この論文の中に否定されうる箇所があるか否か考える。 ・なぜ否定できないのか考える。 ・同様に、自分の作った挨拶調査表も否定できないものであることを知る。	・内容が難しいため分かりやすく ・事実に基づく論の力強さを認識させるように助言する。 ・権威あるものだから正しいのではなく、事実に基づく記述だから正しいのだということに気づかせる。
3	4	・自分の身の回りにある「事実」に注意を向ける。	・自分の身の回りにあるものを一つ選び、事実を誠実に記録する。 ・自分の記録についての気づきを書く。	←ワークシート２を使用する。 ・思ったことを率直に書くよう指示する。

	5	・自分の身の回りにある「事実」の中から発見しようとする姿勢を学ぶ。	・自分の身の回りにあるものごとについての疑問点を発表する。 （前時の最後に考えてくるように指示している。） ・自分の疑問の中から詳しく調査してみたいものを一つ選ぶ。 ・調査と記録を行なう。 （主に時間外の活動とする。）	・身近なものの中から、いつもは気にしていなかったけれど良く見ると気づくものがないか探してみるように助言する。 （これは、見つけられなかった者への助言） ←この時間内に調べられなかったことは次の時間までの課題とする。
	6	・事実に基づいた記録をもとに検証し、法則性などを発見し、それをまとめることができる。	・調べたことをもとに、正確な記録と誠実な考察を行なう。 ・調査の概要と考察を文章にまとめる。	・主観ではなく、事実に基づいた考察を行なうように指示する。
4	7	・身近な物事の中から多くの発見があることを知り、観察しようとする姿勢を学ぶ。	・調査の結果報告会 まず、班の中で発表し、班の中で一番面白い発表を選ぶ。 その後、班代表が全員の前で発表する。	・クラスメートの発表を聞いて、様々な着眼点があることに気づかせるように助言する。

〈指導案〉第一次第一時

■本時の目標

・「事実」を誠実に書き取る態度を学ぶ。

・挨拶記録の取り方を学ぶ。（アクセント記号など）

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・挨拶指導の取り方について学習する。	・ワークプリント１を配り、挨拶の記録の方法を説明する。（アクセントなど、公式な記録の仕方を教えるようにする。）	
１６	・四人一組になり、会話を記録する練習をする。（記録の練習）	・机間相談（理解できていない学習者を助ける。みんなが出来ているかどうか確認して回る）	・記録の取り方についてきちんと理解できているか。
３６	・どんな挨拶があるか考える。（指名発表する）	・教師がいくつか具体的な例を示す。（結婚式や誕生日、入学式、隣人に会ったとき、朝の挨拶など） ・発表してもらった挨拶を板書する。	・積極的に発表しているか。
４８	・次時予告	・次時の予告をする。	

〈指導案〉第一次第二時

■本時の目標

・調査の準備ができる。（自分が調べたい挨拶の質問文を作成することができる。）

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・挨拶調査表を作成する。（ワークシート１を使用する。自分で調べたい挨拶を五つ選び、質問文を作成する。） （実際の調査は時間外に個人で行なうこととする）	・前時、学習者が挙げた挨拶の種類をワークプリント２に載せておく。（この中から選んでもよいし、自分で特に調べたい挨拶を考えても良いこととする。） ・質問文の例を挙げ、質問文の作り方を説明する。	・熱心に取り組んでいるか。 ・調査したい挨拶に適した質問文が作れているか。
４８	・次時予告	・次時の予告をする。	

〈指導案〉第二次第三時

■本時の目標

・「真実」や「真理」に基づく論の力強さを学ぶ。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・ノーベル賞受賞者白川博士の論文を読む。	・内容が難しいため、分かりやすく説明する。	
31	・この論文の中に否定されうる箇所があるかどうか考えさせる。（なぜ否定できないのか考える。）	・事実に基づく論の力強さを認識させるように助言する。	・事実に基づく論の力強さに気づくことができているか。
36	・同様に、自分たちの作った挨拶調査表も否定できないものであることを知る。（隣の席の人と調査表を交換し、互いに否定できるかどうか考える）	・権威あるものだから正しいのではなく、事実に基づく記述だから正しいのだということに気づかせる。（実際に調査することの重要性に気づかせる。）	・クラスメートの調査であり、その結果が、一時的局地的なものであったとしても、具体的な調査を根拠としている限り否定することは出来ないということに気づくことができたか。
45		・挨拶調査表を回収する。（一冊に綴じ、学級文庫に加える。←一人一人の調査の価値を認めるため）	
48	・次時予告	・次時の予告をする。	

〈指導案〉第三次第四時

■本時の目標

・自分の身の回りにある事実に注意を向ける。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・自分の身の回りにあるものを一つ選び、事実を誠実に記録する。（ワークシート２を使用する。）	・学校内であれば静かに移動することを許す。	・事実に即して書いているか。
３１	・自分が記録をして気づいたことを書く。	・思ったことを率直に書くように指示する。	・新しい視点をもって考えられているか。
４０	・班の中で自分が気づいたことを発表する。		・他者の発表を自分の価値観と照らし合わせ聞いているか。
４９	・次時予告	・次時の予告をする。 自分の身の回りにある物事を観察し、疑問点を見つけ、自分が調べたいことを見つけてくるように指示する。	

〈指導案〉第三次第五時

■本時の目標

・自分の身の回りにある「事実」の中から発見しようとする姿勢を学ぶ。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	・自分が発見した疑問点を発表する。 （指名発表する）	・発見できなかった学習者の補助となるようにする。 （発想の転換の示唆）	
２１	・自分が調査するテーマを一つ決め、ワークシート３に書き込む。	・身近なものの中から、いつもは気にしていなかったけれど、良く見ると気づくものがないか探してみるように助言する。	・身近なものをいつもと違った視点で見ることができているか。
３１	・調査方法などを考える。（ワークシート３に書き込む。）		
	残りの時間は可能な限り調査を進めることとする。	・この時間内に調べられなかったことは次の時間までの課題とする。	

〈指導案〉第三次第六時

■本時の目標

・事実に基づいた記録をもとに検証し、法則性などを発見し、それをまとめることができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0 49	・調べたことをもとに、正確な記録と誠実な考察を行なう。（ワークシート4を使用し、調査の概要と考察を文章にまとめる。）	・次時に調査の結果報告会をすることを告げ、その準備としての活動であることを告げる。 ・主観ではなく、事実に基づいた考察を行なうように指示する。 ・時間内にできなかった者は次時までにまとめておくように指示する。	・主観ではなく、事実に基づいた記録と考察を行なうことを心がけているか。

〈指導案〉第四次第七時

■本時の目標

・身近な物事の中から多くの発見があることを知り、観察しようとする姿勢を学ぶ。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0 26 48	・調査の結果報告会（まず、班の中で発表し、班の中で一番面白い発表を選ぶ。感想プリントを書かせる） ・班代表が全員の前で、発表する。 ・まとめ	・クラスメイトの発表を聞いて様々な着眼点があることに気づかせるように助言する。	・分かりやすく説明できているか。 ・クラスメイトの発表を熱心に聞けているか。

ノーベル賞受賞者白川博士の論文

Carbon-13 Nuclear Magnetic Resonance of cis-and-trans-Polyacetylenes

Sir :

Polyacetylene ,$(CH)_x$, is the simplest conjugated organic covalent polymer in which the electrons from the unsaturated pπ system are expected to be delocalized along the polymer chains. However, because of the combined effects of bond alternation and Coulomb correlation, there is an energy gap in the excitation spectrum leading to semiconducting behavior.

Studies by Shirakawa et al. show that both the cis (A) and the trans (B) isomers can be synthesized in the form of silvery, flexible, crystalline films. Recent investigations show that both isomers may be doped with small quantities of electron-at-tracting species such as iodine, AsF_5, etc., or with electron donors such as sodium to give a series of semiconductors whose conductivity increases with dopant concentration. In the range of 1-3 mol % dopant concentration, the doped films undergo a semiconductor-metal transition to yield flexible films of "organic metals". The conductivity of some of these films are remarkably high, up to 10^{12} times greater than the parent polymer. Thus polycrystalline films of $[CH(AsF_5)_{0.14}]_x$ have a room temperature conductivity of 1.0×10^{3} Ω cm. This is better than the best single crystals of TTF－TCNQ and related organic conductors.

Elemental analyses of both isomers correspond exactly to the empirical formula $(CH)_x$. Identification of the isomers has been made by vibrational spectroscopic studies of thin films. These data do not, however , show if some cross－linking had occurred by means

of sp^3 – hybridized carbon during polymerization. The empirical formula would be unchanged even if some of the $-CH=sp^2-$ hybridized carbon atoms were in fact in the $-CH=sp^3-$ hybridized form. Bromination of the polymer to give $(CHBr)_x$ resulted in only ~75% of the expected bromine uptake assuming that all carbons were sp^2 – hybridized and that bromine added completely to all double bonds. The fact that the $(CH)_x$ is insoluble in all solvents tested to date makes it impossible to carry out the bromination under homogeneous conditions which would tend to promote complete bromination. It was therefore not possible to determine whether or not the cis or trans isomers were "structurally pure". This was a particularly important matter since any interruption of the π system in the polymer by the presence of sp^3 – hybridized carbon atoms might be expected to affect significantly the electrical properties of the doped or undoped $(CH)_x$. In order to interpret the physical studies on these materials, it is of fundamental importance to have definitive information on the extent of cross–linking and the concentration of sp^3 – hybridized carbon.

Among experimental methods which might be applied in such studies, NMR offers a special advantage since chemical shifts are highly diagnostic of chemical structure, and should lend themselves to detection of chemical and stereochemical impurities which represent defects in the idealized *cis*– or *trans*– polyene chains.

Conventional NMR techniques are incapable of resolving shifts of the expected size except in liquids, whereas the properties which

make $(CH)_x$ interesting are characteristic of the ordered solid state. Accordingly we have used *cis*– and *trans*– $(CH)_x$ to illustrate the usefulness of "modern" methods for obtaining high resolution NMR spectra of rigid solids. Specifically we have used the proton–enhancement method to detect natural–abundance C in these systems without dipolar broadening by the protons. We have combined this technique with rapid magic–angle sample rotation to remove powder broadening arising from anisotropies in the chemical shifts.

Nominally pure *cis*– and *trans*– $(CH)_x$ were prepared as described previously and packed into the hollow stems of Delrin rotors of the Beams variety, which were rotated at ~3.3kHz. The resulting spectra are shown in Figure1.

The dominant feature in each (apart from the strong C resonance of the Delrin rotor) is a single line arising from the polyene carbons. The cis and trans shifts differ by 10 ppm; the trans polymer has no detectible cis impurity and vice–versa. Each spectrum shows a weaker line (~5%) at higher field, which can probably be ascribed to sp^3 –hybridized carbon defects such as would occur in chain terminations, cross–links, or hydrogenated double bonds. This puts an upper limit on the amount of sp^3 –hybridized carbon which can be present. Note that only one such line is evident. The cis and trans isomers are, therefore, essentially structurally pure in the as–synthesized films.

The trans backbone shift (+139 ppm from Me_4Si) is similar to that of the central carbons of butadiene (+137.2 ppm) and of trans–

hexatriene(+137.4 ppm); the backbone shift of the cis polymer (+129 ppm) is close to that of benzene(128 ppm).That is, the shifts are of purely chemical origin and reflect no metallic character. This is consistent with the fact that the pure polymers are semiconductors (σcis-$(CH)_x$ = 1.7×10 , σtrans-$(CH)_x$ = 4.4×10Ω cm) at room temperature, whereas metallic electrical and optical properties only appear with dopants such as iodine or AsF_5, etc.. after the dopant concentration exceeds ~1−3%.The shifts which we observe here will be useful as reference points for comparison with the NMR spectra of doped polyacetylenes.

ノーベル賞受賞者白川博士の論文日本語訳

炭素１３を利用したシス型ポリアセチレンとトランス型ポリアセチレンの核磁気共鳴

みなさまへ

ポリアセチレン（ＣＨ）xは最も単純な結合された有機体の電子対を共有する重合体である。その重合体においては、不飽和のＰπ系の電子は、重合体電子の連鎖にそって電子を特定の位置から離すことが予想される。しかし、原子が一つおきに配列されていることクーロン相関から生じる化合影響のために、半導体反応を導く励起周波数域の中にエネルギー差が生じる。

白川他の研究から、シス、トランス両異性体は、銀白色の曲げやすい結晶フィルムに合成されうることが分かった。最近の研究から、凝縮した不純物を伴って、その伝導性を増加する一連の半導体を合成するためには、両異性体は、少量のヨウ素やＡｓＦ５などの親電子付加反応をする種類、あるいはナトリウムのような電子ドナーなどの不純物を添加することがよいことが分かった。１～３ｍｏｌ％範囲の凝縮された不純物の中では、ドーピングされたフィルムは、曲げやすい「有機金属」薄膜を生成するために半導体－金属転移変化をする。これらの薄膜のいくつかの伝導性は明らかに高く、変化する前野重合体より１０の１２乗倍の３乗Ω－１ｃｍ－１の室温伝導性をもっている。この薄膜は、ＴＴＦ－ＴＣＮＱの最良の単結晶よりよいものであり、有機伝導と相関している。

両異性体の要素分析は、確かに（ＣＨ）xという実験式と一致した。異性体は薄膜を振動分光器研究によって識別される。しかし、これらのデータからは、ある線状分子中の特定原子間の橋かけつなぎは、重合体の間ｓｐ３混成軌道を有する炭素によって引き起こされるかどうかということは、分からなかった。観察によって立証できる形式は、たとえ－ＣＨ＝ｓｐ２混成軌道を有する炭素原子が、実際には、－ＣＨ∠ｓｐ３混成軌道を有する炭素原子の数（大きさ）であったとしても、変化するものではないだろう。（（ＨＢｒ）xを生じさせるための重合体の臭素化は、すべての炭素はｓｐ２混成軌道を有するものであり、臭素は完全にすべての二本の手をふやすという仮説をとった７５％未満の理想的な臭素が取り込むという結果だった。今まで実験された中での全ての溶媒では溶解できない（ＣＨ）xがあるという事実から、完全な臭素化を進めようとする傾向のある同質の条件下で、臭素化を実行することは不可能であることが分かった。それゆえに、シスあるいはトランス異性体が、構造的に純粋かどうかを決定することは不可能であることが分かった。このことはとても重要な事実である。なぜならば、重合体におけるｓｐ３混成軌道を有する炭素原子の存在によるπシステムへのあらゆる妨害は、不純物を添加された（ＣＨ）xあるいは、添加されなかった（ＣＨ）xの電気的性質に強く影響すると思われるからである。これらの材料において、物理的研究を説明するために、基本的に重要なことは、線状分子間中の特定原子間の橋つなぎの程度とｓｐ３混成軌

道を有する炭素の凝縮を決定的な情報として知っていることであろう。

そのような研究に適用される実験方法の中で、ＮＭＲ（核磁気共鳴ぃは化学変化が複雑な科学的構造を示すために特別な利益を提供した。そして（ＮＭＲは）理想的なシス型、トランス型結合のポリエン結合における欠陥を代表する科学的・立体科学的な不純物の発見に役だった。

（ＣＨ）x を興味深いものにしている特質は整然とした個体の状態に特有のものであるのに反して、従来のＮＭＲ（核磁気共鳴）技術は、液体の状態を除いては、期待する大きさまでの分解変化ができなかった。従って、私たちは、シス型とトランス型の－（ＣＨ）x を堅い個体情のＮＭＲ（核磁気共鳴）スペクトル（連続体）を高度に分解するための近代的な方法の必要性を説明するために用いた。具体的に言うと、私たちは陽子による二極拡大を用いないで、これらのシステムの中で、自然状態に存在する１３Ｃ（炭素１３）を発見するために、陽子増大方を用いたのである。私たちは、この技術と、化学変化における非等方性から生じ、粉末の拡散を取り去るための急速な奇術的角度の標本の回転とを結びつけた。

名目上は、純粋なシス型、トランス型の－（ＣＨ）xが先に述べられたように準備され、Ｂｅａｍｓ　ｖａｒｉｅｔｙの　Ｄｅｌｒｉｎ　ローターの空洞な管の中に詰め込まれた。そして、そのＢｅａｍｓ　ｖａｒｉｅｔｙ　のＤｅｌｒｉｎ　ローターは３．３ｋＨｚまでの範囲で回転するものであった。結果として生じたスペクトル（連続体）は図１に示す。

おのおの（Ｄｅｌｒｉｎ　ローターの強力な１３Ｃ（炭素１３）の共鳴から離れたおのおのの陽子）においては、支配的な特色はポリエン炭素から生じる一本の光線である。シス型とトランス型の変化の違いは１０ｐｐｍの差によって生じる。トランス型ポリマー（重合体）はシス型の不純物の中に見つけることはできないし、その逆も又然りである。各々のスペクトルはより高い葉にではより弱い曲線（５％までのもの）を示している。そして、それは連鎖の終局、線状分子中の特定原子間の橋かけ繋ぎ、水素の二重結合において生じるようなｓｐ３合成炭素の量の上昇を示している。注意すべきこととして、そのような一本の線は明白である。シス型、トランス型異性体は、したがって、合成薄膜においては、本質的に、構造的には純粋なものである。

トランス型の重合体の主鎖の変化は、ブタジエンとトランス型ヘクサトリエンの中枢炭素主鎖の変化と似ている。シス型重合体の主鎖の変化は、ベンゼンのそれに近い。つまり、その変化は純粋な化学変化の始まりであり、金属的な特質を反映していない。このことは、純粋な重合体が室温において半導体であるという事実に矛盾しない。ところが、凝縮された微量の不純物が１～３％を越えてしまった後は、金属的、電気的、そして光化学上の性質は、ヨウ化物やＡｓＦ５のような微量の不純物を伴っているときのみ生じる。

ワークプリント１

（１）原則として、話しことばをそのまま、カタカナで書き表してください。平仮名は、説明のことばで、使うことにします。

（２）カタカナを使って言葉を書き表すときには、次のように、現代仮名遣いに気をつけてください。

○「聞いた」は「キイタ」ではなくて、「キータ」です。

○「気をつける」は「キヲツケル」ではなくて、「キオツケル」です。

○「尊敬する」は「ソンケイスル」ではなくて、「ソンケースル」です。

○「相違」は「ソウイ」ではなくて、「ソーイ」です。

○鼻にかかった音の「鏡」は「カガミ」ではなくて、「カガ゜ミ」です。

（３）カタカナは次のように紛らわしくて、読み取りがたい場合がありますので、丁寧に表記してください。

カーア、クーイ、ケーク、チーケ、ヤーセ、ラーテ、ヲーテ、ンーソ、コーユ、エーコ、ウーワ、フーワ、アーワ、ツーシ

（４）イロハの５０音以外を表記しなければならないときは、工夫がいります。こういうときは、カタカナを組み合わせて示したり、英文字などで補ったりします。また、説明のことばで表わします。

例

○ホネゴトゥ（トゥは［ｔｏ］ではなくて、［ｔｕ］と聞こえる。）

○ホネゴト（ゴは［ｎｇｏ］の感じ。）

○アリ（「リ」はズーズー弁の中舌音［ｒｉ］）

○スイクリ（「クリ」は［ｋｗａ］か［ｑｕａ］か、はっきりしない。）

また、一つの参考として、次の対応を参考にします。

（５）出来るだけ発話と応答をセットで記述する。次のとおり。

挨拶○オハヨー　アリマシタ。ドケー　イキヨーテン　ノ。

おはようございます。どこへ行かれるの。（老女）

返事○ヒヨリガー　エーケー　ヒロシママデ　イッテ　コー　オモイヨルン　ヨ。

天気が良いから広島まで行って来ようと思っているのよ。（老女）

＜気のおけない間柄の丁寧で、上品な挨拶＞

ワークプリント２

１．挨拶の種類

・結婚式の挨拶
・夜の挨拶
・買い物で近所の人に会ったときの挨拶
・お見舞いに行ったときの挨拶
・朝の挨拶
・お葬式の挨拶
・お正月の挨拶
・友人の家に行ったときの挨拶
・昼の挨拶
・見送りの挨拶
・お別れの挨拶
・初めて会った人に対する挨拶
・夜寝る前の挨拶
・散歩中に人に会ったときの挨拶
・仕事をしている人に対する労いの挨拶

２．質問文の例

⑴お見舞いの挨拶を調べたいときの質問文の例

階段から落ちて足の骨を折った会社の同僚のお見舞いに行ったとき、友人は病度一人でベッドに横になっていました。お見舞いの品物を渡しながら、あなたは何と言って言葉をかけますか。

⑵お別れの挨拶を調べたいときの質問文の例

隣の家のご家族がご主人のご栄転で県外に引っ越すことになりました。隣の家とはもう十数年来のつきあいで、家族ぐるみで仲良くしています。駅に見送りに行って、もう電車に乗らなければならないというとき、あなたは何と言ってお別れしますか。

⑶仕事をしている人に対する労いの挨拶を調べたいときの質問文の例

買い物に行こうと、家を出ると、隣の家のおじいちゃんが、庭仕事をしていました。こんなとき、あなたは何と言って挨拶しますか。

ワークシート１

～○○県○○市○○地区○○家における挨拶表現～

・調査年月日：〔　　年　　月　　日（　曜日）〕
・　話　者：〔　　〕
・調 査 者：〔　　〕
・調査場所：〔　　〕

自分が調べたい挨拶を五つ選び（ワークプリント２の例の中から選んでも良いし、自分で考えても良い）、その挨拶を調べるための質問文を作成しなさい。（調べたい挨拶の種類を［　　］の中に書き込み、質問文を〈　〉の中に書き込んでください。調査結果は〔　〕に記録してください。）

調べたい挨拶①［　　］

質問文

〈　　〉

調査記録

〔　　〕

調べたい挨拶②［　　］

質問文

〈　　〉

調査記録

〔　　〕

調べたい挨拶③［　　］

質問文

〈　　〉

調査記録

〔　　〕

調べたい挨拶④

質問文

〈　　〉

調査記録

〔　　〕

調べたい挨拶⑤

質問文

〈　　〉

調査記録

〔　　〕

ワークシート2

◎身の回りにあるものを誠実に記録しよう！

■記録するときに気をつけること

・出来る限り文章で記録するようにすること。（図を入れても良いが、その時にはその図を必ず文章中で説明、紹介すること。）

・よく観察して正確に記録するよう心がけること。

・学校内であれば、教室を出て移動してもかまわないが、他の授業の邪魔にならないように、静かに行動すること。また、迷惑をかけるような場所には行かないこと。

記録が終わったら、観察したり記録をしたりして新しく気づいたことなどを考えて書いてみよう。

観　察　記　録	気　付　き

ワークシート8

(1)自分が調べてみたいテーマを決め、それを調べるための方法を考えてみよう。

(2)実際に調査に行って、結果を記録しよう。

※注意

・調査方法には、「時（いつ）」「場所（どこで）」「何（誰）を見て」（もしくは「何（誰の話）を聞いて」）「何をして」など、明記すること。

・調査の記録を取るときは、事実を正確に書き取るよう心がけること。挨拶記録を取ったときや、観察記録を取ったときのように、誠実な態度で文章を書くことを心がけて。（人にインタビューをするときも、その人の話しをその通りに記録するように心がけること。たとえ、それがその人の主観を交えた意見であったとしても、その人がその時、そのように語ったというその事は紛れもない事実である。）

・実際の調査は授業時間外の活動になると思われる。危険な場所には行かないように！

・調査を進めるときには、他者の協力が必要不可欠である。調査に協力していただく場合（インタビューに答えてもらったり、仕事場にお邪魔したりする場合）には、必ずマナーを守って、失礼のないようにすること。

＊テーマ＊〔　　〕

＊調査方法＊

＊調査の記録＊

ワークシート４

◎調査記録をもとに、調査の概要をまとめ、考察を書いてみよう！

※文章を書くときの諸注意
・調査の概要をまとめるときには、主観を交えずに誠実に事実を記述すること。
・考察は調査結果に基づき、事実から結果（法則性など）を割り出す形で行なうこと。

自分の調査のテーマ
〔　　〕

■調査の概要と考察

ワークシート１　記入例

～広島県東広島市下見地区広大家における挨拶表現～

・調査年月日：〔 ２００１年　２月１４日（水曜日）〕
・　話　者：〔広大花子　　〕
・　調 査 者：〔広大太郎　　〕
・調 査 場 所：〔広大花子の自宅　　〕

自分が調べたい挨拶を五つ選び（ワークプリント２の例の中から選んでも良いし、自分で考えても良い）、その挨拶を調べるための質問文を作成しなさい。（調べたい挨拶の種類を［　　］の中に書き込み、質問文を〈　〉の中に書き込んでください。調査結果は〔　〕に記録してください。）

調べたい挨拶①　見送りの挨拶

質問文

〈朝、学校に行くために玄関を出る子供を、何と言って見送りますか。〉

調査記録

〔イッテ　ラッシャイ　キオ　ツケテ　ネ。〕

調べたい挨拶②　朝の挨拶

質問文

〈朝、庭の掃除をするために外に出ると、隣家の奥さんがゴミを捨てに出てきました。なんと挨拶しますか。〉

調査記録

〔オハヨー　ゴザイマス　イー　オテンキデス　ネー。〕

調べたい挨拶③　お葬式の挨拶

質問文

〈ここ一年ほど入院していた親戚の男性が亡くなりました。奥さんの必死の看護の甲斐もなく亡くなったということです。お葬式で奥さんになんと挨拶しますか。〉

調査記録

〔オクサン　コノタビワ　ドーモ　ゴシューショーサマデス　ゴシュジンニワ　セイゼン　タイヘン　オセワニ　ナリマシテ　ホントーニ　オシー　ヒトオナクシマシタ。〕

調べたい挨拶④ 訪問の挨拶

質問文

〈隣家に回覧板を届けに行くとき、玄関を開けてもらうため、何と言って挨拶しますか。〉

調査記録

〔ゴメン　クダサーイ。〕

調べたい挨拶⑤ 新年の挨拶

質問文

〈初詣での途中、知り合いに会いました。何と、挨拶しますか。〉

調査記録

〔アケマシテ　オメデトー　ゴザイマス　キューネン
チューワ　オセワニ　ナリマシタ　ドーゾ　コトシモ
ヨロシク　オネガイ　イタシマス。〕

ワークシート2　記入例

◎身の回りにあるものを誠実に記録しよう！

■記録するときに気をつけること

・出来る限り文章で記録するようにすること。（図を入れても良いが、その時にはその図を必ず文章中で説明、紹介すること。）

・よく観察して正確に記録するよう心がけること。

・学校内であれば、教室を出て移動してもかまわないが、他の授業の邪魔にならないように、静かに行動すること。また、迷惑をかけるような場所には行かないこと。

記録が終わったら、観察したり記録をしたりして新しく気づいたことなどを考えて書いてみよう。

観察記録	気付き
・医務室の前の椅子が撤去されていた。 ・校庭のひまわりが枯れかけて立っていた。花弁が段々薄茶色になってきていて、今にも倒れそうな風情だが、ぎっしりと種をつけて首を折ったまま、まだしっかりと立っている。葉はまだ緑色だった。 ことなのだろうか。 ・噴水の上の銅像に苔が生えている。 噴水の中もすこし緑色をした部分がある。	・見つけようとして探すと、案外いろいろ新しいことに気づくものだと思った。 ・いつも見慣れているものでも、よく見ると、違った面がいくつも見えることが分かった。 ・花は枯れても葉が青くて、「まだ生きている」ということが分かった。

ワークシート3

(1) 自分が調べてみたいテーマを決め、それを調べるための方法を考えてみよう。

(2) 実際に調査に行って、結果を記録しよう。

※注意

・調査方法には、「時（いつ）」「場所（どこで）」「何（誰）を見て」（もしくは「何（誰の話）を聞いて」）「何をして」など、明記すること。

・調査の記録を取るときは、事実を正確に書き取るよう心がけること。挨拶記録を取ったときや、観察記録を取ったときのように、誠実な態度で文章を書くことを心がけて。（人にインタビューをするときも、その人の話しをその通りに記録するように心がけること。たとえ、それがその人の主観を交えた意見であったとしても、その人がその時、そのように語ったというその事は紛れもない事実である。）

・実際の調査は授業時間外の活動になると思われる。危険な場所には行かないように！

・調査を進めるときには、他者の協力が必要不可欠である。調査に協力していただく場合（インタビューに答えてもらったり、仕事場にお邪魔したりする場合）には、必ずマナーを守って、失礼のないようにすること。

＊テーマ＊（　マンガ本の大きさの違いとその理由について　）

＊調査方法＊

書店に行って、マンガ本の大きさと値段、分野などを調べる。

書店は明林堂（西条下見店）時は放課後

＊調査の記録＊

青年コミックはほとんどA5版以上の大きさで、値段も五百円以上のものが多い。一番多いのはA5版より少し大きくて値段が六百円から七百円くらいの間のもの。

少女コミックはB5版とA5版が半々くらいである。B5版の値段はだいたい四百円前後。A4版の値段は五百円から六百円くらいである。

少女コミックにはもっと大きなサイズのものもあり、七百円～八百円くらいのものもあるが数は少ない。

レディースコミックはだいたいA5版で値段は五百円前後。

少年コミックはほとんどがB5版で値段も四百円程度である。

書店の人の話しによると、同じ少女コミックでも、読者層の年代の違いによって大きさと値段が異なるということである。つまりハイティーンとロウティーンの違いなのだそうである。

企画外の大きさのものは出版数が少ないということである。

ワークシート４

◎調査記録をもとに、調査の概要をまとめ、考察を書いてみよう！

※文章を書くときの諸注意
・調査の概要をまとめるときには、主観を交えずに誠実に事実を記述すること。
・考察は調査結果に基づき、事実から結果（法則性など）を割り出す形で行なうこと。

自分の調査のテーマ
〔　漫画本の大きさの違いとその理由について　〕

■調査の概要と考察

今回、自分の部屋の中で何か気づくことがないか考えてみて、本棚に並んだ漫画本の大きさの違いに気がついた。大きさが違えば値段も当然違うわけだが、それではなぜ、漫画本の大きさは統一されていないのだろうか。高い方がいいのか、安いほうがいいのか分からないが、出版社などによってバラつきがある理由が良く分からない。また、同じ出版社でも本によって値段も大きさも違うということがある。その理由を調べに書店に行ってきた。

分かったことは、少年向けの本と、少女向け、とくにローティーンを対象とする本のほとんどがＢ５版で値段も安く、四百円程度であるということ。そして、ハイティーンの少女、青年、婦人向けの本はほとんどＡ５版以上で値段も五百円以上のものが多いと言うことである。しかし、ローティーンの少女向けの本でも明らかに大きく値段も七百円以上というものもある。書店の人にお話しを伺うと、それは、「出版部数の違いによるものだ」と教えてくれた。

以上のことから、本の値段は出版部数や年齢による購買力の違いによって決まってくるらしいと考えられる。

《反省と展望》

今回の実践では、優れた科学論文を読み、その方法を学ぶことで、自ら発見していく態度を育てることを目的として、「事実に即した記述」を主な活動として行なった。目的に沿った結果とは言え、「記録」活動が具体的活動のほとんどを占めてしまったことは、やはり問題であると思われる。もっとバラエティーに富んだ内容を考案するべきであったと反省する。

また、学習者の身の回りの問題を観察の対象とし、学習者自身に対象を見つけさせようとした結果ではあるが、授業時間内では納りきれない活動が多く、学習者の負担を大きくしてしまう虞がある点は、改善すべき点であると思われる。改善策については今後の課題としたいと思う。

「態度を育てる」教育とは言え、作文や発言などに対する直接的な指導がほとんどなく、学習者の具体的なスキルの向上についての配慮が足りていない点も反省点として挙げられる。調べたことを発表させるだけではなく、まとめた文章を添削するなど、教師が直接関わっていく活動も必要であると思われる。

授業の目的と内容の問題については、今後、もう少し考えていきたいと思う。

■参考引用文献

・Journal of American Chemical Society
／November 22, 1978

・方言研究ハンドブック　藤原与一監修　神部宏泰編　和泉書院刊
１９８４年４月３０日初版発行

・「国語総合」参考資料「国語表現」参考資料「総合学習」参考資料　方言研究報告
『全国あいさつ行動資料』　江端義夫編　広島大学教育学部国語文化教育学研究室発行
平成１２（２０００）年１１月３０日

第７維束

“教室スピーチアクト”という独自性の発見へ

第１節　「マスコミの話術に乾杯！」

第２節　“教室スピーチアクト”の活性化へ

第７維束　“教室スピーチアクト”という独自性の発見へ

第１節　「マスコミの話術に乾杯！」

有井真由美　川鍋元広　西山智子

Ⅰ　維束のねらい

「IT 革命」の政策に顕れるように、時勢は今や情報社会である。すべての動きが高速化し効率化されてゆく中で、NHK ニュースが万人に親しまれる理由、新聞を毎朝忙しいサラリーマンが読む理由、それはその摂取時間が最短にして情報が凝縮されているからである。

誰もが情報の発信源となる昨今、その発信法の巧拙が情報の受信側に影響を与えることは否めないだろう。それらの情報発信のプロフェッショナルであるマスコミの話術を分析することで、最短にして適切に相手に伝える方法を学ばせる。相手からの応答を求めない・求めるすべを持たない一方的な発信であるが故に、適切で誤解を生じさせない話術が望まれるのである。

本維束によって、聴覚より、視覚より訴える文章の作り方を学習し、また視聴覚を併用して最短にして情報を大量伝達させる手段としてのプレゼンテーションを取り上げ、実践する。

Ⅱ　学習者観

現代を生き抜いていく者は、溢れんばかりの情報の中から必要なものを選択し、活用していかなければならない。現在、高校生はその多くが既にパソコンを活用し、情報を収集することができる。しかし、それは自己の内の活動にとどまっており、将来的にきちんとした体裁をとって万人にわかりやすく「発信する」技術を習得する必要があると考えられる。

Ⅲ　維束観

・制限字数や制限時間内に収められている新聞やニュースの報道形式を知る。
・聞き取りやすい話し方を学習する。
・耳で聞いてわかりやすい文章・目で読んでわかりやすい文章の特徴を学ぶ。
・プレゼンテーションの方法を学ぶ。

＜指導目標＞

・制限字数や制限時間内に収められている新聞やニュースの報道形式を知る。

・聞き取りやすい話し方を学習する。

・耳で聞いて分かりやすい文章・目で読んで分かりやすい文章の特徴を学ぶ。

・視覚に訴える図表の効果を学習する。

・プレゼンテーションの方法を学び、実践する。

＜指導計画＞

		指導目標	学習活動	指導上の留意点
1次	1時	○新聞記事やアナウンスといった情報伝達手段にふれさせる。 ○的確な情報伝達にはわかりやすく伝えるための技術を要することに気付かせる。	○配られた新聞記事（資料①P182）に目を通す。 ○班内で、各自制限時間のもとにその情報を口頭で伝えるための原稿を作り、読み比べる（ワークシート①P193）。 ○お互いに良かった点・悪かった点・気付きを話し合う。	○原稿を読む持ち時間を設定しておく。 ○実際に読んで時間内に収まるか確かめるよう指示する。
	2時	○口頭での情報伝達において必要となる技術を学習する。	○前回の新聞記事をテレビニュースで放送したものの原稿（プリント①P184・185）に目を通す。 ○比較し、構成に着目して考察する。 ○プリント②（P186）を使用し、その内容について学習する。	○要旨を冒頭に述べるという形式に気付かせる。新聞でも同じことに言及する。
	3時・4時	○アナウンスの際の「読み」の技術について学習する。 ○これまで学習したことを踏まえてニュースを作成する。	○前回取り上げたニュースの放送ビデオを見る。 ○プリント③（P187）を使用し、正確で分かりやすくアナウンスするためのテクニックを学ぶ。 ○再度ニュースビデオを見て技術を確認する。 ○配布された新聞記事（ワークシート②P194）で班ごとにニュース原稿を作り、練習の後、代表者が発表する。	○学習の目標はニュース原稿作成のみならず、適切な情報伝達の手段を学ぶことにあることを伝えておく。
2次	5時	○視覚的理解を用いた情報伝達の方法としての新聞の形式を学び、音声による伝達と異なる点を知る。	○プリント④（P188）を使用して見出しの効果を考える。 ○プリント⑤（P189）を使用して図表・写真の効果を考える。	○見出しから記事内容を推測し、見出しにどの程度の情報伝達能力があるか考える。 ○図表のない場合と比較させて有効性に気付かせる。

3次	6時	○聴視覚を併用し、最も効率良く情報を伝達する手段としてのプレゼンテーションの方法を学ぶ。	○天気予報のテレビニュースのビデオを見て、その構成をプリント⑥（P190）を使用して整理する。 ○プリント⑦（P191）を使用して、実践するプレゼンテーションの内容を把握する。 ○班に分かれ、テーマを選んでプレゼンテーションの準備にかかる。	○テーマの選択肢は ・広島県の交通事故発生状況について ・日本の失業率について ・森内閣支持率について ・私たちの○○市（紹介） ・O-157について ・携帯電話の普及について 等を用意する。
	7時・8時	○テーマに沿って必要な情報を選択し収集する。 ○プレゼンテーションを行うための準備（資料作成・アナウンス等）を行う。	○プリント⑦を再度見て作業の流れを確認する。 ○パソコン教室・図書室に移動して情報収集を行う。 ○原稿・資料の作成を行う。 （進行状況により、延長あり）	○情報が見つけられないでいたら、検索方法を助言する。 ○制限時間内に発表できる原稿・資料を作成するよう指導する。
	9時	○今までの学習の集大成として、各班でプレゼンテーションを行う。	○スクリーン・OHP・マイク等の準備を行う。 ○プリント⑧（P192）を使用し、各班について評価を行う。	○終了後、教師側から講評を行う。

＜指導案＞

［第１次第１時］

本時の目標

・新聞記事やアナウンスといった情報伝達手段に触れさせる。

・的確な情報伝達には技術を要することに気付かせる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0 5	○配布された新聞記事に目を通す。 ○班机にする。 ○各自、新聞記事の情報を整理して口頭のみで相手に伝えるための原稿を作成する（ワークシート①）。	○二種類の新聞記事を配布する。（資料①・P182） ○記事に目を通し、内容を整理するように指示する。 ○ワークシート①（P193）を配布する。 ○ストップウォッチを用意する。 ○原稿を読むにあたって制限時間（持ち時間）を決めておくことでニュース原稿作成の難しさ、要点に気付かせる。	○静かに記事を読んでいるか。 ○記事内容を理解、整理できているか。 ○必要な情報を拾い、原稿の中に取り入れているか。 ○制限時間内で読み上げられる原稿を作れているか。
３０	○班内でお互いの原稿を読み比べる。 ○班内で良かった点、悪かった点、気づきを話し合う。（ワークシート①）	○相手が分かりやすいように読むことを指示する。 ○他人の発表を聞くことで、どのようなものが分かりやすい情報伝達としてふさわしいか考えさせる。	○聞く側に配慮したアナウンスをしているか。 ○相手の発表をきちんと聞いているか。 ○活発に意見交換を行っているか。
４７	○次時予告	○次時より、具体的にどのような原稿、アナウンスが優れたものといえるか学習することを告げる。	

［第１次第２時］

本時の目標

・口頭での情報伝達（アナウンス原稿）において必要となる技術を学習する。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○前時に配った新聞記事ニュースではどのように放送していたか、その原稿（文字おこししたもの・プリント①）に目を通す。	○プリント①（P184・185）を配布する。 ○前時の自分の原稿と比較してみるように指示する。	○自分の作成した原稿との違いに気付いているか。
7	○原稿と新聞記事についてその文章の＜構成＞について考える。→発表 ○その他気付いた点を発表する。	○例えば＜要旨―詳細―現状＞といったように、いかに相手に分かりやすく伝えるためにまとめられているかについて学習させる。	○日常私たちが考えている文と違い、結論（言いたい事）を頭に持ってきていることに気付いてるか。 ○その他構成について整理できているか。
２５	○プリント②についてその内容を学習する。	○分かりやすい文章を書くためのマニュアル（教師側が作成）、配布する。（プリント②・Ｐ186）	○その有効性を理解できているか。
４７	○次時予告	○次時では実際に＜よむ＞という技術について学習することを告げておく。	

〈指導案〉第一次第三時四時

本時の目標・アナウンスの際の「よみ」の技術について学習する。

・これまで学習した内容をふまえてニュースを作成する。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
		○授業の前に、視聴覚教室へ移動させる。	
0	○ニュースのテレビ放送をビデオで見る。	○アナウンサーのアナウンス技術に着目させる。	○静かに見ることができたか。
10	○アナウンスするための技術を学ぶ。	○プリント③（P.187）を配布し、正確に分かりやすくアナウンスするための技術を学ばせる。	○積極的に学ぼうとする姿勢であったか。
35	○再度ビデオを見てアナウンスの技術を確認する。	○学習したことをふまえて、アナウンサーの技術に再度注目させる。	
45	○新聞記事からニュース原稿を作成してアナウンスの練習をする。	○学習目標は「ニュースを作ること」そのものではなく、「適切な情報伝達手段」を学ぶことにあることを伝えておく。 ○新聞記事を配布する。 ○ワークシート②（P.194 ）を配布し、制限次数内におさめさせる。 ○原稿作成の際に、第一次第二時の学習内容を想起させる。 ○班でアナウンスの練習をさせ聞きあう。	○アナウンスの技術を意識しながら練習できたか。
85	○発表する。	○班で一人代表者を選出させ発表させる。 ○1 人発表を終えるごとに、指導者が講評する。	
98	○次時予告。	○次時の予告をする。	

[第２次第５時]

本時の目標

・視覚的理解を用いた情報伝達の方法としての新聞の形式を学び、音声による伝達と異なる点を知る。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0 3	○配布された新聞記事の見出しの効果を考える。	○プリント④（P188）を配布。 ○プリント④から、それぞれの見出しの伝える情報を推測させる。（見出し以降の記事を配布し、口頭で答えあわせをする資料②P183）	○良い見出しと悪い見出しがわかる。
２３	○新聞記事の図表や写真の効果を考える。	○指導者が口頭で天気予報をしゃべり、よりわかりやすいものと位置付けてプリント⑤（P189）を配布する。 ○口頭での伝達よりも図表が優れている点を挙げさせる。 ○図表に関連し、報道写真に触れる。	○図表の優れている点を把握できているか。
４８	○次時の予告	○次回からは聴視覚を使ったプレゼンテーションの学習に移ることを告げる。	

[第３次第６時]

本時の目標

・聴視覚を併用し、最短時間に効率よく情報を伝達する手段としてのプレゼンテーションの方法を学ぶ。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○テレビの気象概況のビデオを見る。	○音声による説明と画像の構成に注意して見るよう指導する。	
１０	○配布されたプリント⑥（分析図・P190）を見て、プレゼンの実践の形をつかむ。	○プリント⑥を配布する。 ○分析図から画像の選定・画像の使い方・画面へ写すタイミングなどを学習する。音声による説明との関連に言及する。	○ビデオの内容をよく把握できているか。
２５	○再びビデオを見る。		
３０	○班にわかれ、プレゼンの準備にかかる。	○班ごとにテーマを選定する。 （テーマの選択肢は広島県の交通事故発生状況について・日本の失業率について・森内閣支持率について・私たちの○○市（紹介）・O-157について・携帯電話の普及について　等） ○プリント⑦（P191）を配布し、これから行う活動について説明を行う。	
４８	○次時の予告	○次時から各班ごとに情報収集と原稿作成を行うことを告げる。	

[第3次第7時・第8時]

本時の目標

・テーマに沿って必要な情報を選択し、収集する。

・プレゼンテーションを行うための準備（資料作成とアナウンス練習等）を行う。

・今までの学習を生かしてプレゼンテーションを実践する。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○前時に配布されたプリント⑦の復習。	○これからの作業の流れや目的を再確認しておく。	
5	○与えられたテーマに必要な情報を収集する。	○あらかじめパソコン教室や図書室を利用できるようにしておき、各自情報を収集するよう指示する。 （早く終わったら順次、次の作業に移るように指示する）	○積極的に情報収集を行っているか。 ○文献やインターネットを活用できているか。
50 (頃)	○教室に戻り、情報を整理して資料の作成をする。	○また情報収集などが終了していない班では、それを続行しても良いと指示する。	○班ごとに協力して作業を行っているか。
97	○作業終了	○残った作業や練習は、休み時間や放課後に各班で完成させるように言う。	

※　全体の進行状況を見て、あと1時間は延長を考える。

[第3次第9時]

本時の指導目標

・今までの学習の集大成として、各班でプレゼンテーションを行う。

時間	学習目標	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○各班、プレゼンテーションの準備を行う。（OHPやスクリーン、マイク等の準備を行う）	○評価シート（プリント⑧P192）を配布し、聞きながら記入することを指示する。	○迅速に準備を行うことができたか。
5	○発表（持ち時間は1班につき3分）		○これまでの学習を生かして発表を行えているか。
40	○各自、評価シートを完成させ、提出。	○教師側から良かった点・改善すべき点・気付き等の講評を行う。	

〈資料①〉

1/24 朝日

弛緩剤混入

守容疑者が全面否認

勾留理由開示法廷 「潔白訴えて闘う」

仙台市泉区の「北陵クリニック」に入院していた少女(二)の点滴に筋弛緩剤が混入された事件で、殺人未遂容疑で逮捕された元職員で准看護士(守)大助容疑者(三九)に対する勾留理由開示の法廷が二十三日午後、仙台簡裁で開かれた。守容疑者は意見陳述の中で「点滴に筋弛緩剤を入れた覚えはまったくない」と述べて、容疑事実を全面的に否認した。

上原昭吾裁判官は、勾留の理由について「事案は重大で関係者も多数おり、証拠隠滅や逃亡のおそれがある」と述べた。弁護側は、筋弛緩剤マスキュラックスの致死量や投与量などの説明を求めたが、上原裁判官は「現段階で答える必要はない」と述べた。

守容疑者は意見陳述で、一月六日に宮城県警に任意同行を求められ、少女の件について「やっておりません」と言うと、ポリグラフ(うそ発見器)にかけられ「『二十人から三十人はやった』などの反応が出ている」と言われたとし、「頭が混乱し、ここで認めてしまうとすべておさまり、精神的に楽になれるという気持ちから調書に署名してしまった」と述べた。

その後、九日に弁護士と接見した際に、「まったく心当たりがなかったことを思い出した」などとして否認に転じ、黙秘を続けるようになったと説明。「無実と潔白を訴えて闘い続ける決意です」と述べた。

富山の誘拐

公衆電話に不審な男

被害者 一時、小屋に監禁か

1/24 朝日

富山県大門町のコンビニエンスストア手伝い長原匡志さん(三四)の誘拐事件で、犯人の男は車の後部座席に長原さんを乗せて連れ回す一方、途中、小屋のような場所に閉じこめていたことが二十三日、県警小杉署の捜査本部の調べで分かった。また、六回目の要求電話がかけられた二十二日午後三時前、JR高岡駅から西に約一キロの公衆電話で、不審な男が目撃されていたことも明らかになった。

調べでは、男はライトバンのような車の後部に長原さんを寝かせた状態で移動していたらしい。調べに対し長原さんは、粘着テープを解かれて車から降ろされ、一時小屋のようなところで監禁されていたと話している。

捜査本部は、家族への電話や現金受け渡しの指定場所が、長原さん宅から車で二十分ほどのJR高岡駅周辺に集中していることから、地元の地理に詳しい男とみている。

六回目の電話で目撃された男は三十歳前後で、黒っぽい服を着、顔を隠すように話していたという。長原さん宅に押し入った男は三十一五十代、約一七〇センチのがっしりした男だった。同本部は、家族にかかった電話の時刻と一致し、特徴が似ていることから、犯人の可能性が高いとしている。

長原さんは、連れ出されて解放されるまで一人の男の声しか耳にしていないというが、母親の喜美代さん(五七)は男が自宅にいた際、「別の人物と携帯電話で連絡を取っていたようだ」と言っており、複数犯の可能性も否定できない。

額賀経財相が辞任

KSD問題で引責

資金返却「証拠ない」

1/24 朝日

額賀福志郎経済財政担当相は二十三日午前、首相官邸で森喜朗首相に辞表を提出し、辞任した。秘書が財団法人「ケーエスデー中小企業経営者福祉事業団」（KSD）から三百万円の資金提供を受けた問題の責任を取った。後任には自民党竹野グループの麻生太郎元経済企画庁長官らが就いた。額賀氏は辞任後、記者会見したが、①KSD側への資金返却の事実を示す物証はない②預かり金と考えて政治資金収支報告はしなかった――ことなどを明らかにした。野党側は疑惑は深まったとして額賀氏の証人喚問を求め、首相の任命責任も追及する。重要閣僚辞任で打撃を受けた森政権は、三十一日召集の通常国会で冒頭から野党側の攻勢に苦慮しそうだ。（3面に「時時刻刻」、2・5・30・31面に関係記事）

後任に麻生氏就任

額賀氏は、「返却した証拠は残っているのか」との質問に、「受取証があったとは聞いていない。ただ、秘書本人が返していると聞っているのだから、私は信じている」と答え、受取証などは残っていないことを認めた。最初に提供を受けた五百万円については「預かるという認識だったので、秘書は（政治資金収支報告書に）報告していなかった」などと語った。

資金提供・返却をめぐるこの発言はいずれも、額賀氏が所属する橋本派幹部から十九日に事情聴取された際に説明していたとされる論点で、橋本派側が早期辞任に動く直接の契機になったとされる。

KSD側が設立を求めていた「ものづくり大学」については、額賀氏が官房副長官当時、故小渕恵三前首相の施政方針演説に同大学についての言及が盛り込まれ、額賀氏の関与が焦点になっている。額賀氏は、その存在を知らなかったとしていたが、会見ではその説明を転換し、「施政方針演説のなかでものづくり大学に言及されているかどうか覚えていなかったという意味だ」と釈明した。

額賀氏は、昨年一月に小渕首相のもとにつくられた諮問機関「ものづくり懇談会」に出席し、ものづくり大学に関する意見交換に立ち会ったことなどが報道で明らかになっており、額賀氏はこうした事実関係との矛盾と整合性をとるために軌道修正したとみられる。

会見で疑問点が浮上したことで、今後、国会での野党の疑惑追及は勢いを増すとみられる。ただ、自民党の古賀誠幹事長は二十三日の会見で「決断を無にすることのないよう、国会対策に全力を挙げることに尽きる」と述べ、証人喚問には消極的な態度へと変化した。公明党の神崎武法代表も「重要閣僚を辞任したことは重い」と語っており、与党側からは今後、政治倫理審査会での決着の動きが出てきそうだ。

〈②資料〉

1/24 朝日

弛緩剤混入

守容疑者が全面否認

勾留理由開示法廷「潔白訴えて闘う」

仙台市泉区の「北陵クリニック」に入院していた少女(二)の点滴に筋弛緩剤が混入された事件で、殺人未遂容疑で逮捕された元職員で准看護士守大助容疑者(三)に対する勾留理由開示の法廷が二十三日午後、仙台簡裁で開かれた。守容疑者は意見陳述の中で「点滴に筋弛緩剤を入れた覚えはまったくない」と述べて、容疑事実を全面的に否認した。

上原昭吾裁判官は、勾留の理由について「事案は重大で関係者も多数おり、証拠隠滅や逃亡のおそれがある」と述べた。弁護側は、筋弛緩剤マスキュラックスの致死量や投与量などの説明を求めたが、上原裁判官は「現段階で答える必要はない」と述べた。

守容疑者は意見陳述で、一月六日に宮城県警に任意同行を求められ、少女の件について「やっておりません」と言うと、ポリグラフ(うそ発見器)にかけられ「『二十人から三十人はやった』などの反応が出ている」と言われたとし、「頭が混乱し、ここで認めてしまうとすべておさまり、精神的に楽になれるという気持ちから調書に署名してしまった」と述べた。

その後、九日に弁護士と接見した際に、「まったく心当たりがなかったことを思い出した」などとして否認に転じ、黙秘を続けるようになったと説明。「無実と潔白を訴えて闘い続ける決意です」と述べた。

〈プリント①－A〉

ニュース文字起こし 2001.1.23

NHK　午後９時～９時15分全国ニュース

・仙台市の病院でおきた筋弛緩剤を使った殺人未遂事件で、逮捕拘留されている守大介容疑者は、裁判所が拘留の理由を明らかにする手続きの中で、まったく身におぼえがないことだと述べました。今日の手続きでは、仙台簡易裁判所の上原しょうご裁判官が重大な犯罪で証拠隠滅の恐れもあるなどと拘留の理由を述べたのに対して、弁護側は客観的な証拠がなく動機も見当たらないと主張しました。この後守容疑者が取り調べの中でうそ発見器にかけられたりするうちに、あたまが混乱し、犯行を認める内容の調書に署名してしまった、しかし、弁護士と話すうちに自分が本当はやっていないことに気づき容疑を否認した。まったく身におぼえがないことで一日も早くこの身が解放されるよう無実と潔白を訴えて戦い続ける決意ですと述べました。守容疑者は捜査本部の取調べに対していったん容疑を認める供述をしましたが、現在は否認しているということです。(1分9秒)

〈プリント①－B〉

富山の誘拐

公衆電話に不審な男

被害者 一時、小屋に監禁か

富山県大門町のコンビニエンスストア手伝い長原匡志さん(三四)の誘拐事件で、犯人の男は車の後部座席に長原さんを乗せて連れ回す一方、途中、小屋のような場所に閉じこめていたことが二十三日、県警小杉署の捜査本部の調べで分かった。また、六回目の要求電話がかけられた二十二日午後三時前、JR高岡駅から西に約一キロの公衆電話で、不審な男が目撃されていたことも明らかになった。

調べでは、男はライトバンのような車の後部に長原さんを寝かせた状態で移動していたらしい。調べに対し長原さんは、粘着テープを解かれて車から降ろされ、一時小屋のようなところで監禁されていたと話している。

捜査本部は、家族への電話や現金受け渡しの指定場所が、長原さん宅から車で二十分ほどのJR高岡駅周辺に集中していることから、地元の地理に詳しい男とみている。

六回目の電話で目撃された男は三十歳前後で、黒っぽい服を着、顔を隠すように話していたという。長原さん宅に押し入った男は三十～五十代、約一七〇センチのがっしりした男だった。同本部は、家族にかかった電話の時刻と一致し、特徴が似ていることから、犯人の可能性が高いとしている。

長原さんは、連れ出されて解放されるまで一人の男の声しか耳にしていないといろが、母親の喜美代さん(五七)は男が自宅にいた際、「別の人物と携帯電話で連絡を取っていたようだ」と言っており、複数犯の可能性も否定できない。

ニュース文字起こし 2001.1.23

NHK　午後９時～９時 15 分全国ニュース

・富山県だいもん町で２４才の男性が自宅から連れ去られ身代金を要求された事件で、捜査本部では隣の高岡市内から公衆電話をかけていた不審な男を容疑者と断定しました。昨夜無事保護されたながはらまさしさんの家族には７回脅迫電話がありましたが、このうち６回目の電話がかけられた高岡市内の商店の前で不審な男が公衆電話をかけているのが目撃されています。警察で調べた結果、この男が電話をかけていた時刻が脅迫電話と一致することから、捜査本部ではこの男を容疑者と断定しました。目撃証言によりますと、この男はがっちりした体格で、髪は短く、顔を隠すように電話をかけていたということで、体格はまさしさんの家族の証言とも一致しているということです。(53 秒)

〈プリント②〉

誤解を招かない文章を書くために

—分かりやすい文章を書く—

※「事柄を単純に並べる文章」を書く。主観や意見は入れず、客観的に。

※　わかりやすい文章の見本として「ニュース」と「新聞」の文章をとりあげる。

○ニュースの原稿は…耳で聞いてすぐわかる。長い文章は前を忘れてしまう。

話し言葉を基調とする。(古めかしくなったことば・こなれていない新語は使わない)

テレビニュースでは、一般的に一文の長さが短い。くりかえしを多用する。

(※ラジオニュースではリードを長くとるため、一文の長さがある程度長い方が伝わりやすいこともあり得る)

接続の言葉に気を遣う。(「この・なお・そして・次のように・このように」など、順接の接続詞には前の文を受けてまとめる作用がある)。

時間制限があることから、情報のトピックだけを端的に伝える。

○新聞の原稿は…読み返すことができる。関連記事など、情報量が豊富。

記録として文字にとどめる目的。

字数制限があることから漢語・体言止めを多用する。

見出しはでき得る限りの省略形をとる。

※　文を書くときに留意する技術

○客観的な情報（事件など）を述べるときの語彙の順序

「いつ・誰が（何が）・～された」が原則。

「～であった———が、○○していたことが、××日、わかった」という書式。

(事前の知識)（主語）　（述語）　（いつ）

○主語と述語が離れすぎない。

○主語と述語がねじれない（主語と述語が常に対応）。

○勝手なことばを作らない（造語をみだりに使用しない）。

○慣用句は確実に使う（×「魚を得た水」「ぬかみそに釘」）。

○副詞の呼応を忘れない（「決して～ない」等）。

○ことばの重複をしない（×「馬から落馬する」「並木が並んでいる」「途中で中止」）。

○文中の切れ目をはっきりさせる（二つ意味がとれるものは不可）。

（×「いるかはふろにはいらないか」「新聞記者でもある氏の伴侶…」）

○文体は統一する（常体と敬体をまぜない）。

○敬語を濫用しない（不必要にへりくだらない）。

○比喩は使用しない。前例になぞらえることも危険。

プリント③

〈アナウンスの基本技術〉

アナウンスする際の留意点

基本：強弱をつけてわかりやすく話す。

・正確に伝える　…一度話した言葉は取り消せない。
　　アナウンスは間違えず、正確に。

・しっかりと話す…アナウンスはあかるく、落ち着いてはっきりと。

発声

・くちを大きくあける。

・おなかに力を入れる。

・大きな声を出す（しかしどならない）。

・背筋を伸ばす。原稿ばかりを見て、下を向かないように。

表情

・あかるくにこやかに、生き生きとした表情で。へらへらしない。

鼻濁音

・「が」行の２音目以下は鼻濁音にする。

・外来語は鼻濁音にしない（「ガガーリン」など）。
　鼻濁音にすると濁音がきれいに聞こえる。

（例）・学校―ガッコウ（濁音）
　　・午後―ゴ[illegible]
　　・小学校―ショウ[illegible]ッコウ

アクセント

・アクセントによって意味が違ってくることばもある。
　正しいアクセントでアナウンスしよう。

（例）ハシ（○●）―橋
　　ハシ（●●）―端
　　ハシ（●○）―箸　　○…弱　●…強

　特に気になることばは「NHK編　日本語アクセント辞典」（日本放送協会発行）を調べてみよう。

（練習問題）アメ・クモ・カミ

イントネーション

・声をあげたり、さげたりすること（抑揚）によって意味をはっきりさせる。あまりつけすぎると聞きづらくなるので注意。

ポーズ（間）

・意識的に長く取ったり短く取ったりしてわかりやすく伝える。
　内容が変わるときなどは長めに取るとよい。

テンポ

・１分間に ***300～350 字***程度が適当な速さ。

・速くしたり、遅くしたりすることで伝える内容をはっきりさせることができる。例えば、普段聞きなれない言葉や、強調したいことばを含む部分を遅く読むと、わかりやすく伝えられる。

額賀経財相が辞任

KSD問題で引責

資金返却「証拠ない」

後任に麻生氏就任

①

デビットカード 広がる利用範囲

全国10万店で買い物

②

代金支払い
タクシーや
宅配ピザも

筋弛緩剤点滴「身に覚えない」

③

「容疑者」聞く続ける

拘置理由開示
手続きで陳述

④

武蔵、土俵際で残った

⑤

バス乗っ取り20歳逮捕

京都市営
乗客らケガなし

ナイフで脅す

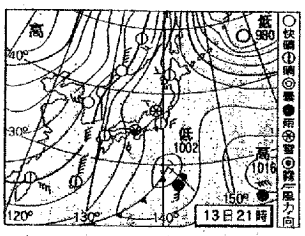
〈プリント④〉

〈プリント⑤〉

図表に着目!!

14日	6時	9	12	15	18	21	24	降水量	予想気温
岡山	●	●	●	☺	☺	☺	30	4	0
広島	☺	☺	●	☺	☺	☺	50	4	0
鳥取	☺	☺	☺	☺	☺	☺	80	2	1
島根	☺	☺	☺	☺	☺	☺	90	1	1
香川	☼	●	☼	☼	☆	●	10	5	3
高知	☼	☼	☼	☼	☆	☆	20	7	0
奈良	☼	●	●	●	☆	☺	30	4	1
大津	●	●	●	●	☆	●	50	4	0
和歌山	●	●	☼	●	☆	☺	20	5	2
東京	☼	☼	●	☼	☆	☆	10	7	1
名古屋	●	●	●	☺	☺	☺	50	4	6
京都	●	●	●	☼	☆	●	50	5	0
大阪	●	●	☼	☼	☆	☺	20	5	2
神戸	●	●	☼	☼	☆	☆	30	5	0
福岡	☺	●	●	●	☺	☺	50	4	2

↑は降水量5ミリ以上、↙は5ミリ未満、情報は気象庁・気象協会



きょうの天気

十四日は強い冬型の気圧配置で、上空には今冬一番の強い寒気が流れ込む見込み。全般に季節風が強く、風冷えの厳しい寒さが続く。日本海側では断続的に雪が降り、大雪になる恐れがある。太平洋側でも一時的に雪が降り、平野部で雪の積もる所がある見込み。

自動車レースの本場欧州で一人の日本人ドライバーが話題になっている。昨季の英国F3選手権で総合3位に入った佐藤琢磨(23)。セナ、ハッキネンなど数々のF1王者を生み出した伝統の同選手権で四度優勝し、このほどF1のBARホンダのテストドライバーに引きあげられた。

マシン開発の早さがものを言うF1では、テストドライバーの重要性は増す一方だ。テストドライバーで力を発揮し、正ドライバーの座をうかがうのが一つの道になっている。

佐藤は十九歳で国転車からカートへ転身した変わり種。ホンダが開校した鈴鹿レーシング・アカデミーに進み、奨学金を得て一九九八年に英国へ渡った。海外のF3で戦いながらF1を目指す佐藤は、新しいモデルケースになる。

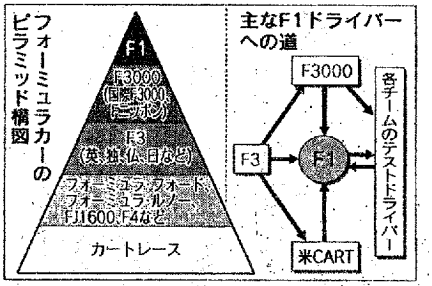
ほかにもフランスF3で福田良(21)、ドイツF3では金石年弘(21)が活躍中だ。

海外に次々と若手が飛び出した背景には、モータースポーツのブームが去り、沈滞する日本の現状がある。昨年、日本人のF1ドライバーはゼロ。八七年の中島悟以来続いてきた系譜が途絶えた。

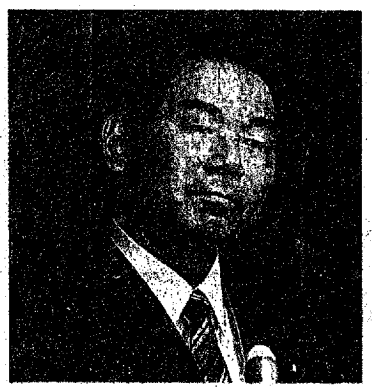
かつてF1ドライバーの一大供給源だったフォーミュラニッポン(Fニッポン)も、スポンサー収入の減少などで地位が低下。ここ数年は年間王者になってもF1に昇格できなくなっており、昨季10戦中8勝と他を圧倒した高木虎之介もF1復帰を果たせず、今季は米CARTに参戦する。

モータースポーツ ドライバー養成不可欠

日本スポーツの行方 ▷5◁



新世代のドライバーとして注目される佐藤琢磨=ロイター共同



辞任の記者会見をする額賀福志郎氏=23日午前10時45分、東京都千代田区の中央合同庁舎4号館で

麻生 太郎氏(あそう・たろう)衆院福岡8区。学習院大卒、麻生セメント社長、文部政務次官、経企庁長官、自民党政調副会長、党経理局長。当選7回。60歳。(河野グループ)

2001年1月30日 NHKテレビ午後8時45分～天気概況

	[時間]	[画面のようす]
○まずは今日午後三時の天気図です。 弱いながらも冬型の気圧配置になっています。大陸と九州の西には高気圧が東へ移動しています。 今夜は西から冬型の気圧配置が緩んできそうです。	0	日本付近の天気図 ↓(12秒)
○今夜8時の雲の写真です。 中国地方は冬型の気圧配置となっていますが、寒気が弱まって各地で晴れています。	12	日本付近の雲の ↓(9秒) 状況
○明日の予想天気図です。 日本列島は高気圧に広く覆われるでしょう。大陸にある前線や低気圧は次第に日本列島に近づいてくるでしょう。	21	日本付近の 予想天気図 ↓(9秒)
○明日の全国の天気です。 日中は晴れ間の広がるところが多いでしょう。沖縄は雨に、九州や四国は夜になって雨のところがあるでしょう。	30	全国の天気予報 ↓(10秒)
○現在の雲の様子。 鳥取県の沿岸部にやや雨雲がかかっています。	40	中国地方の ↓(5秒) 雲の状況
○注意報です。 山口県に乾燥低温注意報、隠岐を除く島根県にはなだれ、低温注意報です。	45	中国地方で 発令中の注意報 ↓(8秒)
○広島県の明日の天気は全般に北の風のちに南西の風、晴れですが夕方からは曇って南部はところにより一時雨か雪、北部はところによって一時雪か雨でしょう。	53	中国地方の ↓(12秒) 天気予報
○降水確率は午前は零パーセントですが、午後は南部で雨または雪の確率20パーセント、北部は雪または雨の確率20パーセントの予想です。	65	中国地方の ↓(12秒) 降水確率
○明日の気温の予想です。 広島県内は広島が最低気温氷点下1度、日中の最高気温は9度、庄原では最低気温が氷点下6度と今日より三度低く、逆に日中の最高気温が5度と、今日よりも二度高くなるでしょう。	77	中国地方の (18秒) 予想気温 ↓
○明日の波の高さです。 瀬戸内では50センチから1メートルぐらい、 日本海では1メートル50センチから3メートルぐらいでしょう。	95	中国地方周辺の 海の波の高さ ↓(7秒)
○向こう1週間の天気です。 南部では晴れたり曇ったりをくりかえすでしょう。北部は明日は晴れますが明後日以降は曇りの天気で、一時雪や雨となる見込みです。	102 113	中国地方の週間 ↓(11秒) 天気予報 (ニュース終了)

〈プリント⑨〉

〈プリント⑦〉

◉プレゼンテーションを完成させよう◉

Ⅰ．プレゼンテーションとは

本来、事業の計画や見積もりなどを発表、説明することを指しますが、今回は皆さんに与えられたテーマについて調べた内容をクラス内で発表してもらうことにします。以下のことに注意して自分たちのプレゼンを成功させよう！

Ⅱ．具体的作業について

●発表者が読む原稿の作成。

●発表を聞く側の手元に配布する資料の作成。

※原稿をより詳しく且つまとめたもの。あとから見返して、発表の内容を再確認できるようなものに仕上げよう。

●ＯＨＰによる視覚的効果のある図や表、写真の活用。

⇨発表（※持ち時間３分）

以上の３つのことを実践してもらいます。これまでの学習をいかして“最短時間に、正確に、分かりやすく、的確に”相手に情報を伝えることができるように各班で工夫しよう。

Ⅲ．アドバイス

《作業》

○与えられたテーマに関しては図書室やインターネット等を活用して、正確な情報を収集しよう。

○相手に分かりやすく“よむ”ことにも注目しよう。事前に、読む速さ、間の置き方、イントネーション、発音・発声等をチェックしておこう。

○図や写真はどのようなものが有効かよく考えて選択しよう。また、発表のどこでＯＨＰを使用するとより効果的か考えてみよう。

○これまでの学習で配布したプリントをよく見返して復習しておこう。

《発表》

○発表の際に声が通るように、原稿ばかり見て下を向かないよう注意しよう。

○ＯＨＰの使用の際はそれに関して簡単な説明を入れるようにしよう。

○あくまで調べた事実、結果を発表することが目的なので発表者の感想等は含まないようにしよう。

Ⅳ．その他

○コピー機の使用に関しては休み時間や放課後に先生に申し出てください。

○ＯＨＰに使用する図や写真は提出してくれればこちらで印刷します。

○その他、分からないこと等があったら相談してください。

では、各班協力してプレゼンを成功させましょう！！

〈プリント⑧〉

★プレゼンテーション評価シート★

____組　名前_____

____班　テーマ『　　』

良かった点	改善した方がよい点	気付き

____班　テーマ『　　』

良かった点	改善した方がよい点	気付き

____班　テーマ『　　』

良かった点	改善した方がよい点	気付き

____班　テーマ『　　』

良かった点	改善した方がよい点	気付き

____班　テーマ『　　』

良かった点	改善した方がよい点	気付き

〈ワークシート①〉

◆新聞記事の内容を、相手に口頭で伝える原稿を作ろう。

【制限時間　1分】

◆相手の読んだ情報（ニュース）を聞いて気付いた点や思ったことを書いてみよう。

組　名前

・良いと思った点・その理由

・わかりづらかった点・その理由

・気づき・感想

ワークシート②

輸入野菜、値上がり顕著

米産タマネギ、昨年末比20%高

輸入野菜の国内価格が年明け後、軒並み上昇している。米国産とメキシコ産は昨年までの価格低迷の反動による生産量の落ち込み、、中国産とニュージーランド産は天候要因による供給減少が影響している。昨年末からの円安も一因だ。寒波などの影響で高騰している国産品に比べればお安いものの、外食企業や量販店には輸入品の仕入れを手控える動きも出始めた。

外食・量販店 買い抑制

米国産で値上がりの目立つのがタマネギ。商社売値は十キロ当たり六百円前後と、昨年末の水準を二〇%上回る。昨年秋に収穫されたタマネギの作付面積が一二割減ったため産地価格が上昇したところに円安が重なり、「円建て輸入価格は一カ月前より五割近く上昇している」（日商岩井食料＝東京・中央）。

メキシコ産カボチャも十キロ二千七百円前後と一カ月前に比べ一五%、前年同期比では二倍以上高い。「ここ数年の価格低迷で日本向け品種の作付面積が大幅に減った（メキシコ大使館商務部）反動が一気に表れた。

中国産では生シイタケが一カ月前に比べ五〇%、ネギが二〇%高い。「昨年秋までの高温で出荷が早まったうえ、旧正月に入り品薄感が強まった」（中日物産＝東京・墨飾）。二月から本格的に出回るニュージーランド産カボチャは逆に昨年秋の低温や長雨で生育が遅れている模様だ。

値上がりを受けて、輸入品の購入比率の高い外食企業などには一時的に発注を減らす動きが出ている。一方で一定量の確保が必要な企業は「次回の価格交渉ではコスト上昇分の転嫁をある程度受け入れざるを得ない」（村さ来＝東京・中央）との姿勢を見せる。

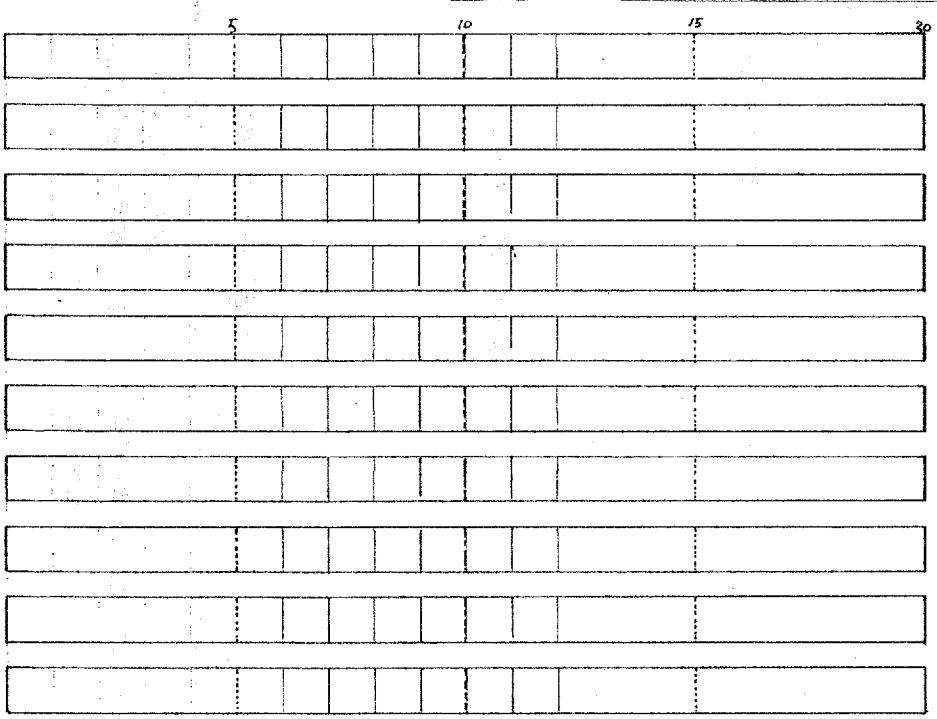
国産品も最近の寒波の影響で高騰しており、輸入品に比べタマネギは六割、ネギは約二倍高い。量販店からは「輸入野菜の品ぞろえを拡充したい時期だけに、二重の痛手」との声も聞かれる。

※左上に

※

主な輸入野菜の商社売値
（東京地区、中心値、円）

	現在	昨年末
タマネギ（米国産、10キロ）	600	500
カボチャ（メキシコ産、10キロ）	2,700	2,350
生シイタケ（中国産、5キロ）	1,500	1,000
ネギ（中国産、5キロ）	600	500
ブロッコリー（中国産、10キロ）	1,800	1,500



[模擬プレゼンテーション原稿（第３次第９時）]

＜アナウンス原稿＞

私たちは広島県内の交通事故発生状況について調査してみました。

今年一月の広島県内の交通事故発生件数は、１月 28 日までに死亡者数 26 人と過去３番目に多く、昨年を上回るペースであることが明らかになりました。このことを受けて広島県警では 29 日に交通担当者を集め、注意を呼びかけるよう指示しました。

（室内消灯・表１を投影）

スクリーンの表をご覧ください。この図は広島県内の年別交通事故発生状況を示したものです。平成 12 年の件数に注目してください。表からわかるように広島県では昨年平成 12 年の交通事故発生件数が２万件を超え、また死亡者数も 48 人増加しています。このように明らかに増加傾向にあり、これを上回るペースとなると事態は深刻なものと言えそうです。

さらに年齢層別の死者の内訳を見ていきます。（表２を投影）

スクリーンの表にあるように、平成 11 年と比較しますと 10 代 20 代は減少しているのに対し、65 歳以上の高齢者は著しく増加しています。よって警察でも特に高齢者に対して注意を呼びかけるよう努めています。

またその交通事故の具体的原因については、（グラフを投影）

このグラフをご覧ください。この先頭にある網掛けの部分は最高速度違反を示しており、20代までは最高速度違反によるものが死亡事故発生件数全体の約３分の１を占めています。また、この白と黒の部分はそれぞれ一時不停止と運転操作ミスを示しています。65 歳以上の高齢者はこれらの一時不停止、運転操作ミスによるものがその事故の原因の多くを占めていることがわかります。

（室内点灯）

警察ではドライバーや歩行者に注意を呼びかけ、交通事故防止キャンペーンを行う予定ということです。

発表者は、有井・川鍋・西山でした。

広島県交通事故発生状況について

発表日：2001年2月1日　　発表者：有井真由美・川鍋元広・西山智子

1．2001年1月の交通事故発生状況

2001年1月の交通事故による死亡者は、高齢者を中心に26人を記録した。これは、昭和52年の30人、昭和50年の27人に次ぐ、過去3位のペースである。

このことを深刻視した広島県警は、1月29日に交通担当者を呼び集めて広島県警察本部で会議を開いた。その会議で広島県警察本部の小田村初男本部長は、各警察署の交通係長などの幹部87人に対し、交通安全教育を徹底するなど、事故防止のために努めるよう指示した。

2．2000年の交通事故発生件数について

現在、交通事故発生件数は増加傾向にある。2000年の発生件数は21,000件を突破し、交通事故による死亡者数とともに、1999年の19,664件を大きく上回った。

交通事故の発生状況と
死亡事故の特徴

広島県内の年別交通事故発生状況

		年別								
		昭和45年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	前年比 増減数	前年比 増減率
区分	発生件数	25,549	18,010	18,311	18,264	18,817	19,664	21,212	1,548	7.9
	死者数	519	296	266	238	245	222	270	48	21.6
	負傷者数	36,252	22,757	23,271	23,176	24,048	25,121	27,159	2,038	8.1

注）交通死亡事故による死者数が最も多かったのは昭和45年です。

3．交通事故の発生原因

〈年齢層別被害者〉

交通事故の発生状況と
死亡事故の特徴

死者の年齢層別（被害者）

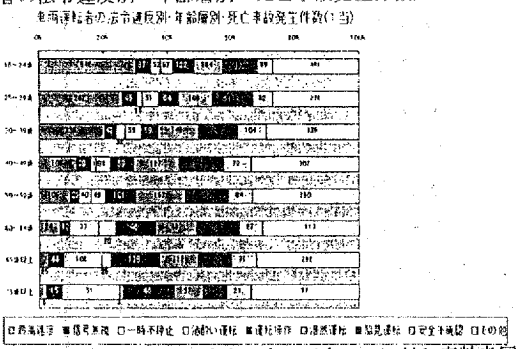
（平成12年中）

区分	平成12年	平成11年	増減
19歳以下	24	32	-8
20歳代	36	41	-5
30歳代	21	10	11
40歳代	27	19	8
50歳代	37	29	8
60～64歳	23	13	10
65歳以上	102	78	24
(16～24歳)	(40)	(45)	(-5)
計	270	222	48

（死者数）

年齢層別に被害者を見ると、特に高齢者層が多いことがわかる。

（車両運転者の法令違反別・年齢層別・死亡事故発生件数）



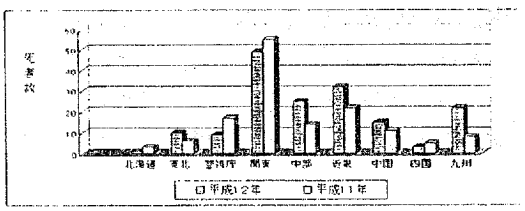
このグラフから、若年層は「最高速度」違反が多いのに対し高齢者層は、「一時不停止」の違反や「運転操作」の誤りが多いことがわかる。

（参考）

・全国の交通死亡事故の状況

区分		北海道	東北	警視庁	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
12年	件数	1	9	8	44	18	28	13	3	18	142
	死者	1	10	9	49	25	32	15	3	22	166
11年	件数	3	6	14	51	14	21	11	5	7	132
	死者	3	6	17	55	14	22	11	5	8	141
増減	件数	▲2	3	▲6	▲7	4	7	2	▲2	11	10
	死者	▲2	4	▲8	▲6	11	10	4	▲2	14	25

注）数字の前の「▲」印は、マイナスを表します。



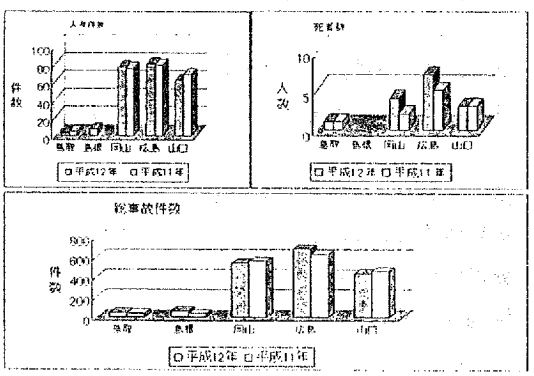
・中国地方の交通事故発生状況

（平成１２年中）

区分		平成１２年	平成１１年	増減
市部	広島	60	65	-5
	呉	12	6	6
	竹原	5	1	4
	東広島	15	12	3
	三原	18	7	11
	尾道	11	7	4
	因島	6		6
	福山	39	35	4
	府中	7	1	6
	三次	8	4	3
	庄原	2	3	-1
	大竹	4	3	1
	廿日市	2	1	1
	小計	189	145	44

区分		平成１２年	平成１１年	増減
郡部	安芸	14	15	-1
	佐伯	10	5	5
	山県	9	10	-1
	高田	10	11	-1
	賀茂	9	5	4
	豊田	10	15	-5
	御調	2	2	0
	世羅	2	1	1
	沼隈	1	2	-1
	深安	3	4	-1
	芦品	1	1	0
	神石	1	2	-1
	甲奴	2	1	1
	双三	4		4
	比婆	3	3	0
	小計	81	77	4
合計		270	222	48

（死者数）



<反省と展望>

情報伝達のプロフェッショナルとしてのニュース・新聞を資料として配しながら、原稿の作成・アナウンス技術・図や表の視覚的効果について学習することのできる指導案を作成したつもりである。しかし、これらの技術の抽出にあまりに新聞とニュースに頼ったため、もっと時流にのっとった伝達手段を探し、材料にできなかったことは新鮮味に欠け、残念である。

また、我々自身が「視聴覚に訴える的確な情報伝達法」について勉強不足で明確なビジョンが見えていなかったために、この指導計画が本当に効果的な方法を学習者に身につけさせることができるものであるか、はなはだ心もとない。一応、発展形をプレゼンテーションとしているが、小ニュースのような形であり、本格的且つ実践的なプレゼンテーションに迫ることはできなかった。指導計画半ばのニュース作成についても同様で、本格的にテレビニュースを模した形式の実践やインタビュー形式などには及ばなかった。情報の伝道者、マスコミのより本質に近いものを目指すのか、それとも技術の習得のみに焦点を当てた活動にとどめるのかについては、準備や時間数などの問題から後者を選択せざるを得なかった次第である。

「最短時間に・正確に・わかりやすく情報を伝達する力」を身につけさせるのがこの指導計画の最大の目標であった。その手本としてのニュース・新聞を位置付けであったが、これはマスコミなくしては生活できないという私たちの現状からである。その結果、今回はマスコミの優れた点ばかりを学習することとなったが、それを批判的に見る力をどう学習・指導してゆくかという観点をとり残している。今後の課題としたい。

<参考引用文献>

・岩淵悦太郎編著「新版　悪文」昭和36年12月10日第1刷発行　日本評論社

・朝日新聞　2001年1月24日
・日本経済新聞　2001年1月14日／1月30日

<模擬プレゼンのために参考にしたホームページ>

・広島県警察本部のホームページ
・警視庁のホームページ
・中国管区警察局のホームページ

第７維束　“教室スピーチアクト”という独自性の発見へ

第２節　“教室スピーチアクト”の活性化へ

木下悠子　田村理恵

Ⅰ　維束のねらい

従来の授業にみられる“教室スピーチアクト”は、教師主体の一方向的なものであり、生徒の自発的な発言を抑圧するものが多かった。本維束では、教師と生徒、または生徒同士の多方向的コミュニケーションが活発に行われるような、望ましい“教室スピーチアクト”への転換を試みることをねらいとする。

具体的には、“対話”を重視した相互教授法にもとづく協同学習を行なうことによって、自由に意見が述べられる雰囲気を体験させる。また、教師の口話法を学び、話す内容をよく吟味し、「特定多数にわかりやすく話す」力をつけさせる。これらの活動を通して、学習者に教室で発言する力を身につけさせたいと考える。

Ⅱ　学習者観

対象学年―高校１年生

学習者は、受験対策としての受身的な授業を受け続けてきた。その結果、教室で意見を求められても、同調圧力や間違っているかもしれないという不安などから、うまく答えられない学習者が多くなっている。しかし、将来的にも多くの人の前で話す力を身につけることは必要不可欠であると考える。

Ⅲ　維束観

- アナウンサーの口話法と比較し、教師に独特の口話法を知る。
- 相互教授法におけるリーダーと援助的コメンテーターの役割を知る。
- 相互教授法を通して活発な意見交換の場を経験する。
- 特定多数の人に向かってわかりやすく話す方法を考え実際に話す。

指導目標

・教師に独特な口話法について学習する。

・相互教授法の形式を活かして活発な意見交換を行う。

・多くの人の前で、聞き手にわかりやすく話すことができる。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
1	1	○アナウンサーと教師の口話法に違いがあることに気づかせる。	○同内容を扱ったニュースと教師の話のビデオを見る。文字おこしをしたもの（資料①、P206）を参考にする。 ○両者を比較し、気づいた点を発表する。	○アナウンサーと教師の比較をすることを伝える。
		○教師に独特な口話法について考えさせる。	○教師に独特な口話法について考え、ワークシート①（P205）にまとめる。	○比較のための様々な観点を適宜示す。
2	2	○教師と生徒の関係をリーダーと援助的コメンテーターの関係に置き換えて考える。	○ワークシート①をまとめたもの（資料②、P207）をもとに、リーダーになるために必要な技術と態度を知る。 ○相互教授法について知る（資料③、P208）	○教師とリーダーを関連づけて相互教授法を教える。
		○必要な情報を収集できる。	○テーマを分担し、それについて新聞・図書・インターネット等を利用して調べる。	○後の活動で発表することを伝える。 ○次時までに話ができる程度の情報を集めておくよう指示する。
	3	○リーダーを中心に全員が積極的に参加して話し合うことができる。	○班内でそれぞれのテーマについて相互教授法の形式で話し合う。（1テーマ8分×6人）	○活発な話し合いができるよう適宜指導する。 ○班内の意見をもとに次時までに改良してくるよう指示する。
	4	○前時より自信を持って話す。	○前時と同じ形式で話し合わせる。（1テーマ5分×6人）	
		○クラス全体に発表できるように班で協力して留意する点などを話し合う。	○班に割り当てられたテーマについて次時に発表できるよう改良を加える。	○抽選によりどの班がどのテーマを発表するか決める。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
2	5	○より多くの人に向けて話すことができる。 ○他班の話を聞き、評価することができる。	○クラス全体に話す。（1テーマ8分×6班）。 ○評価シート（資料④、P210）に他班の話しを聞いて気づいた点を記入し提出する。	○全班終了後、教師側から総評をし、次は他学級で話すことを伝える。
3	発展活動	○テーマについてあまり知識をもたない生徒にも話すことができる。	○他学級に行き、話す。 ○話し手以外の学習者は、生徒の反応等発表の様子を記録用紙（資料⑤、P209）に記入する。	○HRの時間を借りて話をさせてもらう。 ○そのクラスの担任に評価シート（資料⑥、P210）を記入してもらう。

＜指導案＞　［第１次第１時］

本時の目標

・アナウンサーと教師の口話法の違いに気づく。

・教師に独特な口話法について考える。

分	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○ ニュース番組と教師がHR で話をしているビデオを見る。（２回）	○ 同内容を扱ったニュースと教師の話（他クラスの HR を撮影したもの）のビデオを見せる。	○ 集中してみることができたか。
10	○ 文字おこしをしたもの（資料①）を参照してアナウンサーと教師の比較をする。	○ 文字おこしに書き込んだりしながら、アナウンサーと教師を、話し方や態度などの観点から比較させる。	○アナウンサーと教師の口話法の違いに気づくことができたか。
	○ 気づいた点を発表する。	○ 周囲と話し合わせ、発表させる。	○ 周囲と積極的に話し合い、発表することができたか。
25	○ 教師に独特な口話法について考え、ワークシート①にまとめる。	○ 比較をふまえて教師に独特な口話法を考えるよう指示する。	
47		○ ワークシートを回収してまとめる。	

［第２次第２時］

・協同学習に活かすために相互教授法を知る。

・テーマについての情報を集める。

分	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○ 前時に回収したワークシート①をまとめたもの（資料②）に目を通す。	○ 教師の口話法について再度確認させる。	○ 教師の口話法について整理できているか。
5	○ これからの活動と相互教授法についてプリント（資料③）をもとに学習する。	○教師と生徒の関係が、リーダーと援助的コメンテーターに置き換えられることに気づかせる。	○ 教師とリーダーの役割が同じであることに気づいているか。
15	○ 班（６人×６班）内で各自テーマを選び、それについて新聞・図書・インターネット等を利用して調べる。	○ ６つのテーマを用意し班内で分担させる。	○ 積極的に情報収集を行っているか。
47		○ 次時までに、班内で話し合いができるよう資料・原稿を用意しておくように指示する。	

[第２次第３時]

・リーダー役はテーマについてわかりやすく話すよう心掛ける。

・援助的コメンテーターはわかりにくいところを質問し、よりわかりやすいものになるようアドバイスする。

分	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○ 班机にする。	○ 話し合いに相互教授法の形式（自分のテーマの時はリーダー役、それ以外は援助的コメンテーター役になる）を用いるよう指示する。	○ 相互教授法の形式を理解できているか。
	○ 班内でそれぞれのテーマについて相互教授法の形式で話し合う。（1テーマ約８分×6人）	○ 適宜机間指導を行い、班内で６つのテーマについての理解が深まるようにさせる。	○ 班内で活発な意見交換ができているか。
49	○ 次時予告	○ 班内の意見をもとに、次時までによりよいものを作成してくるよう指示する。	

[第２次第４時]

・前時から改良した点を重点的に話し合う。

・クラス全体に発表できるよう班で１つのテーマについて話し合う。

分	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○班机にする。		
	○前時と同じ形式で話し合う。（１テーマ約５分）	○リーダーに、前時で改良の余地があると言われた点に気をつけさせながら発表させる。	○積極的に話し合えているか。
30		○どうしたらより解りやすく興味付けしながら話を進めることができるかについて考えさせる。	
32	○決まったテーマについて話し方・進め方・内容などについて検討する。	○教室で発表するテーマを１班に１つずつ抽選で決めさせる。	○決まったテーマで、よりよい内容・話し方・進め方を話し合えているか。

[第２次第５時]

・より多くの人に向けて話すことができる。

・他班の発表を聞き評価することができる。

分	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0 48	○１班ずつ前に出てテーマについて話す。 ○他班の発表を聞いて良かった点、改良すべき点、印象などを評価シートに記入する。（１テーマ８分×６班）	○発表がスムーズに進行するよう司会を務める。 ○全班が終了後、総評を行い、次は他学級に行って話すことを伝える。	○興味を引く内容・話し方であるか。聞き手の反応を見ながら臨機応変に話すことができているか。

[発展活動]

・話すテーマについてあまり知識を持っていない生徒にも教えることができる。

分	学習活動	指導の意図と手立て	評価の観点
0	○班ごとに他学級で話す。話し手以外の班員は生徒の反応や気づきを記録用紙（資料⑤）に書き留める。 ○その学級の教師から感想をもらう。（資料⑥）	○HR などの時間を借りて話をさせてもらう。	○話すテーマについてあまり知識のない人に、興味を持たせながら話すことができるか。

ワークシート①

組	番	

★ アナウンサーとの比較を通してわかった

教師の話し方についてまとめてみよう

-
-
-
-
-

話題の展開の仕方、声の大きさ・調子、話す態度などはどうでしたか？他にもいろいろな観点から教師の話し方について考えてみましょう。

資料①　文字おこし

≪ニュース≫２００１年２月５日　ＴＳＳスーパーニュース
ではニュースを短くお伝えします。
昨日の夕方、三次市ミワカ町の国道３７５号線で、乗用車がセンターラインを越えて正面衝突、対向車の運転手が死亡した事故で、その対向車に乗っていた生後二ヶ月のヒロマサリュウちゃんが重体となっていましたが、今日午後２時過ぎに死亡しました。車にはチャイルドシートは取り付けられていなかったということです。

≪１年○組のＨＲ≫
Ｋ先生「えー最近交通事故多いよね。おとといも三次市で死亡事故があったの知っとる？いきなり対向車がセンターライン越えてきて、正面衝突したんだって。怖いねー、自分は普通に運転しとったのに、いきなり向かってきたら。えー、ぶつかられた車の運転手さんが亡くなられて、一緒に乗っとった生後２ヶ月の赤ちゃんも重体で運ばれたんじゃけど、昨日死んじゃったんだって。チャイルドシートをつけていなかったらしいんじゃけど、チャイルドシート、知っとるよね、４月から義務付けられとるチャイルドシート、もしつけとったら赤ちゃんだけでも助かっとったかもしれないよね。みんなのまわりはちゃんとチャイルドシートつけとる？私も車に乗っとって、よく車の中で動きよる子どもを見かけるんじゃけど。事故に遭ったときの衝撃の影響が一番大きいのは誰と思う？Ｔさん」
Ｔさん「子ども？」
Ｋ先生「そうじゃね。一番体重が軽いけぇ衝撃の影響を一番受けるんよ。じゃけえね、子どものことを思うならちゃんとチャイルドシートに座らせてあげんとね。じゃ、おわろっか。気をつけて帰りんさいよ。」

資料②

ワークシート①をまとめたもの

教師の口話法

・声に強弱がある。

・大事なところはゆっくり話している。

・繰り返しを多用している。

・「えー」とかが多い。

→大事なところを強調する。

・先生の意見が入っている。

・事故のことだけではなかった。

・私達と関連づけて話している。

・チャイルドシートを使うようにしようという呼びかけがある。

・すらすらと簡潔に話してない。

→聞き手に関連付ける。

聞き手の興味を引く。

・目線をいろいろなところに送っている。

・生徒の反応を見ながら話を進めている。

・くだけた言葉遣い。

・Tさんに話しかけた。

・方言を使っている。

→特定多数に向けて話す。

資料③

教師の口話法を活かして

みんなの前で話をしよう

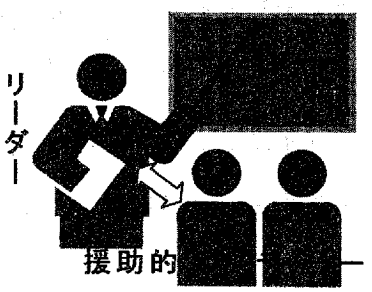
★テーマ★

・ニアミス	(　　)	・インド大地震	(　　)
・マイライン	(　　)	・2002年W杯	(　　)
・医療ミス	(　　)	・有明のり	(　　)

★相互教授法を活かしてみんなで意見を言い合おう

・相互教授法とは？

リーダーは内容を要約しわかりやすく説明する。援助的コメンテーターは分からない点を質問し、明解なものにするのを手伝う。相互に教え合い、内容理解を深めていく。



★最後の活動について

・最終活動はみんなの前で話をしてもらうことです（持ち時間５分）。

・１班１人の発表になりますが、どの班がどのテーマになるかは、後で決めます。

・原稿を棒読みするのではなく、聞く人の顔を見て話しましょう。

資料⑤

記録用紙

1年　組に行って話をしてみよう！！

テーマ『　　』

話し手（　　）

記録者（　　）

★気づいたことを書いてみよう★

・話の内容

・生徒の反応

・話し手の様子

★今までの活動をふりかえって★

資料④

評価シート

班　テーマ『　　』　　名前

良かった点	改善した方がよい点

資料⑥

教師の評価シート

1年　組　　先生

私たちは1年　組　班です。

今日はお忙しいところ、私たちの話に時間を割いていただき本当にありがとうございました。教師の目から見て、今日の私たちの話、あるいは話し方をどう思われたでしょうか。感想などありましたらよろしくお願いします。

補助資料

相互教授法…アメリカで開発された読解が苦手な生徒のための治療プログラム

●成り立ち

・熟達者と未熟達者の比較

読解に必要な六つの機能
①読みの目標は意味を構成することであるという理解
②適切な背景知識の活性化
③注意を主要部分に集中的に配分
④構成された意味の吟味
⑤推論(解釈・予測・結論など)のテスト
⑥全過程のモニタ

これら六つの機能をすべて使う

四つの方略 … '要約' '質問' '明瞭化' '予測'

・内容

対話形式

グループ形態

教師…モデル・援助者

生徒…リーダー・援助的コメンテイター

リーダーになった生徒は、四つの方略を用いて文章の読解をし、他の生徒はそれを助ける援助的コメンテーターの役割を果たす。教師は、リーダーのモデルとなったり相互教授法が円滑に進むための援助者になる。

●実践

米国イリノイ州スプリングフィールドにおける実践は、相互教授法が実際の教室でも有効であることを立証した。

●その後

相互教授法で身につけた方略は、意味を構成するように読むという熟達した読みを身につけさせ、また、生徒が自分の言語理解技能を様々な教科の読みに適用することを可能にした。

≪反省と展望≫

私たちはこの２週間“教室スピーチアクト”について考え続けたが、結果、完全なる定義はできず終わってしまった。今回は、“教室スピーチアクトとは、教室の中で行われる発話行為全体である”としておきたい。

この節を担当した２人とも、“教室スピーチアクト”という言葉を聞いたことがなく、関連文献が見あたらないこともあり、“教室スピーチアクト”が何たるかが完全にわからないままこの演習を進めてしまったように思う。また相互教授法とは本来、“読みの未熟達者に対する治療プログラム”である。私たちはこの中の、“対話を重視した協同学習”“リーダーと援助的コメンテーター”というアイデアを教室スピーチアクトの活性化に活かそうとした。しかし本来とは違う目的で用いたため、これがよかったのかどうかはわからない。また、特定多数の人の前で話す活動についても、全員が体験できないものになってしまい、残念である。

今回、私たちは手探りで発表準備を行なってきた。今まで“教室スピーチアクト”についての研究報告がなかったのは、従来の教育が、書くこと、読むこと、理解することに重きをおき、話すことを重視してこなかったからだろうか。しかし、今は話す力が今まで以上に求められている。今後は教室内の対話についての研究が盛んに行なわれるだろう。

≪参考文献≫

Ｊ．Ｔ．ブルーアー　松田文子・森　敏昭（監訳）　1997　授業が変わる　北大路書房

第８維束

フィナーレ

第１節　「一人一芸フェスティバル」

第八維束　フィナーレ

第一節　「一人一芸フェスティヴァル」

柴田文寛　前田寛明

Ⅰ　維束のねらい

多くの人の前で自分の特技を披露する。こういった機会はなかなか無い。特技を披露するということは、相手に自分を印象づける良い手段であり、多様な人間関係を築いていくために必要な技術であるが、機会が無いためにそういう技術をあまり獲得できない。また、特技を披露するという場はまぎれもなく自分という個性を出すことのできる場であり、他の人の価値観に触れ、評価し、理解するという場でもある。１年間ともに学んだ仲間に、今まで培ってきた能力を総合的に発揮して見せる。本維束によって、今までの国語表現の授業で学んできたこと、発表する際の話し方や発表原稿を作る際の分かりやすい文章の書き方、発表を聞く時の態度、そういったことの集大成としての場を作りたい。

Ⅱ　学習者観

対象学年は高校三年生とする。携帯電話通信やインターネットの普及により、学習者の人間関係は多様化の一途を辿っている。しかし、それに反比例するかのように、付き合う人とは浅い関係しか築けないという現実がある。クラスでは、気の合う人と適度に付き合っている程度で、クラスメートといっても一度も話したことのない人や、どんな人なのか把握できていない人がいることだろう。それまで見えていなかったその人の「個性」を発見することは、驚きとともにそれぞれの中に他者を知ること、理解することの意義を再確認させるものとなるだろう。また、特技を披露するということ以上に、人の前で堂々と話したりすることができるということが重要であり、将来更に多様な人間関係の中に身を置くことになる学習者にとって、スムーズに人間関係を築いていくためにも、自分をアピールする技術を身に付ける必要があると考える。

Ⅲ　維束観

- 自分をしっかりアピールできる技術を身につけることができる。
- 今まで学習してきたことを活かし、自分の「芸」に最も相応しい表現の仕方を選ぶことができる。
- 他の人の「芸」を受け止め、評価することができる。

指導目標

・これまでの授業で学んだことを活かすことができる。
・限られた時間内で、自分の「芸」を最も効果的な方法で表現することができる。
・他の人の「芸」を評価することができる。

指導計画

次	時	指導目標	学習活動	指導上の留意点
1	1	○自分の披露する「芸」を決めて、それに合った表現の仕方を探すことができる。 ○自分がやろうとすることの価値・意義を示すことができる。	○一人、又は複数で披露する「芸」を決める。 ○「芸」が決まったら、決意表明の文を書く。	○できるだけ個人でやるように促す。複数でやる場合でも一人一人が個性を発揮できるようにさせる。 ○自分のやろうとすることにどんな意味があるのかを書かせる。
	2	○これまで学んだことを活かして決意表明文を発表することができる。	○決意表明の文を発表する。 ○「芸」の準備をする。	○発表の際はこれまでに学んだことを活かすようにさせる。 ○「芸」の質に応じて準備する場所を変えても良いということを伝える。
	3	○自分の「芸」を限られた時間内で発表できるように準備することができる。	○引き続き、それぞれの「芸」の準備をする。 ○準備ができたら「企画書」を提出する。	○発表形式については適宜指導を行う。 ○必要なスペースや器材などを書かせる。それをもとに順番を決め、準備する。

2	4・5	○自分の「芸」を効果的に発表することができる。 ○他の人の「芸」を評価することができる。	○「一人一芸フェスティヴァル」を行う。3分間全員の前で「芸」の説明をし、披露する。 ○他の人の「芸」を評価し、感想を書く。 ○優勝を決める。	○それぞれの「芸」を記録しておく。 ○他の人の芸は真摯な態度で見て、感想を書き、評価させる
3	6	○自分の発表を振り返り、反省と展望を書くことができる。	○反省と展望の文「祭りのあと」を書く。 ○決意表明文と反省と展望の文、発表の記録をまとめて「一人一芸フェスティヴァル」を一冊の本にする。	○決意表明文と比較してどうなったか、それを元に今後どうしたいかを書かせる。

〈指導案〉

第１次第１時

本時の目標

・自分の披露する「芸」を決めて、それに合った発表の仕方を探すことができる。

・自分がやろうとすることの価値・意義を文で示すことができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○「一人一芸フェスティヴァル」の内容を知る。	○自分の特技を全員の前で３分間披露するということを伝える。	○活動の内容を理解できたか。
5	○披露する「芸」を決める。	○決めやすいように例を示したり授業者は何をやるかを伝える。 ○内容が同じもの、共同作業でないとできないものについては複数で取り組んでも良いとするができるだけ一人一人で取り組むものにさせる。	
３０	○「芸」が決まった者から決意表明文を書く。	○自分のやろうとする「芸」の内容や目標、記録など、どのような価値や意義をもっているかなどを書かせる。 ○決意表明文はこれまでの授業で学んだことを活かしたものとするよう促す。	○自分のやろうとすることについて、これまでの授業で学んだことを活かして、適切に表現することができたか。

第１次第２時

本時の目標

・これまで学んだことを活かして、決意表明文を発表することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○決意表明文を発表する。	○一人１分程度で、決意表明文を発表させる。	○要点を的確に説明することができたか。

40	○準備を開始する。次時までの空いた時間にも準備を進めておく。	○「芸」の内容に応じて準備をする場所を変えてもよいことを伝える。	

第1次第3時

本時の目標

・自分の「芸」を、限られた時間内で発表できるように準備することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○引き続き「芸」の準備を行う。	○発表形式については適宜指導し、よりよいものとさせる。	
40	○準備ができた者から「企画書」を作成し、提出する。	○「芸」の発表に必要な場所や器材を書かせる。記録の方法については授業者が提示し、了承を得る。※1 ○準備が終わらなかった者も企画書は提出し、空いた時間で準備を終わらせておく。	○「企画書」の書き方にこれまでの授業で学んだことが活かされているか。
50	○次時の活動の流れを知る。	○「一人一芸フェスティバル」式次第を説明する。※2	

※1記録の方法については、原稿などをそのまま縮小コピーする、写真に撮る、テープ等に録音する、などを提示する。「芸」の内容と、最後に本にするということから相応しいものを考える。

※2授業後、提出された企画書を整理し、発表の場所などを元に第3時に発表する者と第4時に発表する者とに分け、発表の順番を決定する。器材の準備やタイムキーパー等の運営についてはその時間に発表しない者の中から有志を募って行うようにする。

第２次第４時・第５時

本時の目標

・自分の「芸」を制限時間内に効果的に発表することができる。

・他の人の「芸」を評価することができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○「一人一芸フェスティヴァル」を行う。３分間、全員の前で「芸」を説明し、披露する。	○制限時間を守らせる。教師も参加者として、発表し、評価する。	○時間内に効果的に発表することができたか。
	○他の人やグループの「芸」を評価し、感想を書く。	○「芸」を見て思ったことを評価シートに短くまとめ、ＡＢＣ３段階で評価を行わせる。	○真摯な態度で見て、感想を書けているか。
４０	○優勝を決める。	○評価シートを集計し、１位～３位を発表する。賞品（文房具）授与式を行う。	

第３次第５時

本時の目標

・自分の発表を振り返り、反省と展望を書くことができる。

時間	学習活動	指導の意図と手立て	評価
0	○反省と展望「祭りのあと」を記入する。	○決意表明文と比較して、実際発表してみてどうだったかを元に反省と展望の文を書かせる。	○反省がしっかりできているか、また今後の展望についても述べられているか。

２０	○決意表明文と発表の記録、反省と展望をまとめ、１冊の本を作成する。	○参加賞として全員で本を作り、配布する。	
５０	○全体のまとめをする。	○国語表現の授業全体のまとめをして授業を終わる。	

ワークシート①（第１次第１時「決意表明文」と第３次第６時「祭りのあと」）

決意表明！

年　組　氏名

☆私は一人一芸フェスティヴァルで…

を披露します。

★私がやろうとするのは…

というものです。

祭りのあと

年　組　氏名

◇発表を終えての反省

◆それを元に、これから私は…

ワークシート②（第１次第３時「企画書」）

企画書

年　組　氏名

1．一人一芸フェスティヴァルで披露することとその発表形式

2．必要な場所、スペース

3．必要な器材

4．記録の方法

（　　）

ワークシート③（第２次第４時第５時評価シート）

一人一芸フェスティヴァル評価・投票用紙　　年　組　氏名

1．発表者

2．感想

3．気付いたこと

4．総合評価

（決意表明と比べてどうだったか、一生懸命やっていたかどうかを考えて、ＡＢＣ３段階で評価しよう。）

〈反省と展望〉

本維束の大きな問題点として、評価をどうするかという問題があった。それぞれが一生懸命準備し、発表した一人一芸を、教師はどのように評価すればよいのか、非常に難しい問題であると思う。今回は教師も一人の参加者としてフェスティヴァルに参加し、評価も他の学習者と同じようにするという形を取ったが、学習者が教師を評価するというのは危険性を含むことだろうと思う。教師に票が集中して優勝するようなことが予想された場合、教師は運営に徹するなどして参加しない方が良い。普段の授業空間の雰囲気から教師が判断すべきところである。本維束は国語表現の授業のまとめであり、ひとつひとつの活動にそれまでの学習を活かすことが必要とされるので、発表に至る各過程で評価していくことが評価の仕方であろうと考えられるが、もっと他によい評価の方法があるかもしれない。これについては考察不足となってしまったことが残念である。

また、「一人一芸フェスティヴァル」を最後に形に残す方法としては、今回は学習者それぞれの手元に残る形として、１冊の本にするという形をとったが、やや新鮮さに欠ける感があった。その他の形としては、ホームページを作るという形が考えられる。一人一人の個性が全世界に向けて発信されるという点で魅力的に感じられたが、今回は深く考察することができなかった。今後の課題としたいと思う。

おわりに

国語表現の内容には、話す内容と書く内容とが考えられます。今回は、特に話す内容について集中的に考えを深めました。

しかし、ご覧のように、話す内容だけではなくて、小論文などを書くという内容も、わざと入れてあります。それは、従来の文科系の生徒のための書き方指導では不十分だという反省を込めて、強いて、取り立てたのです。高校で国語を学ぶ生徒は、文科系を希望すれば、早い時期から理科系の生徒と分離され、理知的な思索の仕方や書き方を鍛えられません。したがって情緒的な感性ばかりを訓練された偏った青年が大学に送り込まれてきます。教員をめざす国語科の学生が、国語科の学習は、情念を磨くことだと誤った考え方に立っていることも少なくないのです。このような、バランスを欠いた人格が形成されている日本の教育事態は、大げさに言えば、亡国的でさえあります。ぜひ、この偏向状態を改善しなければなりません。理性的な国語授業にならないものかと願っています。こういう危機管理意識が働いて、わざわざ、科学的な教材を持ってくることになりました。

国語などの文科系の生徒にも、どんどん科学的な思索の方法を教えなくてはならないと思います。むしろ将来、文科系に進んで勉強を深めたいと思っている高校生にこそ、理知的な思索の仕方や、理科系の論述方法をしっかりと教えるべきだと思います。そのような私の願いも、本冊には、込められています。

さて、今回取り扱うことの出来た内容は、「国語表現」で期待されるべきカリキュラムの全体を覆っているわけではありません。先にも述べましたように、書き言葉の領域が、手薄になっています。指導要領では、文体に慣れることにも言及してありますが、そういう知識の習得に関しては、全く、取り上げていません。語彙や文字についても触れていません。また、小論文や大論文についても、十分な時間を取れていません。手紙の書き方についても、出来れば英文による事務的な手紙の書き方や英文によるインターネット手紙の書き方も勉強させたかったのですが、十分には取り上げられませんでした。

生きた国語力ということを考える時、現実の生活に必要な基本的な事柄が、学校生活では、教えられていないことに気付きます。それらの全てを取り上げることはできませんから、何を取り上げ、何を諦めるかということをしっかりとわきまえなくてはなりません。

21 世紀の国語表現教室では、言語攻略力が求められます。生徒を広く社会の枠組みの中に置いて教育していく方向への転換が必要となります。ご一緒に、頑張ろうではありませんか。

（ 江端　義夫 ）

21 世紀教育実践のこころみ

『言語攻略の国語表現教室』

印刷　平成 13 年 2 月 20 日
発行　平成 13 年 2 月 28 日
〒 739-8524　広島県東広島市鏡山 1-1-1
広島大学教育学部国語文化教育研究室
（代表）　江端　義夫
Tel/Fax　0824-24-6789